

# HP IPコンソール スイッチ ソフトウェア ガイド



2003年6月（第2版）  
製品番号 293671-192

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®、Windows®およびWindows NT®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Java™は、米国Sun Microsystems, Inc.の商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しで、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態で提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

This SOFTWARE PRODUCT includes Hypersonic SQL.

©1995-2000 by the Hypersonic SQL Group. All rights reserved.

Hypersonic SQL is provided "as is" and any expressed or implied warranties, including, but not limited to, the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose are disclaimed. In no event shall the Hypersonic SQL Group or its contributors be liable for any direct, indirect, incidental special exemplary, or consequential damages (including, but not limited to, procurement of substitute goods or services; loss of use, data, or profits; or business interruption) however caused by any theory of liability, whether in contract, strict liability, or tort (including negligence or otherwise) arising in any way out of the use of Hypersonic SQL, even if advised of the possibility of such damage. Hypersonic SQL consists of voluntary contributions made by many individuals on behalf of the Hypersonic SQL Group.

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes Hypersonic SQL."

Products derived from this software may not be called "Hypersonic SQL" nor may "Hypersonic SQL" appear in their names without prior written permission of the Hypersonic SQL Group.

Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes Hypersonic SQL."

This SOFTWARE PRODUCT includes Java runtime environment, Standard Edition, Version 1.3.1 for Windows, ©1998-2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

This SOFTWARE PRODUCT includes Java runtime environment, Standard Edition, Version 1.3.1 for Linux, ©1998-2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

This SOFTWARE PRODUCT includes the Java Secure Sockets Extension (JSSE) global  
Version 1.0.2. ©2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

This SOFTWARE PRODUCT includes code licensed from RSA Data Security.

This SOFTWARE PRODUCT includes the Java Graphics Library.

©2000 by Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.

Sun, Sun Microsystems, the Sun Logo are trademarks or registered trademarks of Sun  
Microsystems, Inc. in the United States and other countries.

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP IPコンソール スイッチ ソフトウェア ガイド

2003年6月（第2版）

製品番号 293671-192

---

# 目次

## このガイドについて

対象読者 .....	ix
安全に使用していただくために .....	ix
装置の記号 .....	ix
ラックに関する注意 .....	xi
本文中の記号 .....	xi
関連資料 .....	xii
HPのWebサイト .....	xii

## 第1章

### はじめに

機能および利点 .....	1-2
サポートされているオペレーティングシステム .....	1-4
システム要件とブラウザ要件 .....	1-4
IPコンソールスイッチシステムのセットアップの簡単なまとめ .....	1-5
IPコンソールスイッチのセットアップ .....	1-5
IPコンソールビューアの設定 .....	1-6

## 第2章

### TFTPを使用したファームウェアのアップグレード

Windows NT用TFTPの有効化 .....	2-1
Windows 2000およびWindows XP用TFTPの有効化 .....	2-2

Linux用TFTPの有効化.....	2-3
Linux用TFTPの確認.....	2-3
Windows用TFTPの設定.....	2-4
IPコンソール スイッチの更新.....	2-6
IPコンソール スイッチ ハードウェアの更新.....	2-6
IPコンソール ビューアによるIPコンソール スイッチの更新.....	2-12
LAN接続の確立.....	2-16

## 第3章

### インストール

IPコンソール ビューアのインストール.....	3-1
WindowsオペレーティングシステムでのIPコンソール ビューアのインストール .....	3-1
LinuxオペレーティングシステムでのIPコンソール ビューアのインストール .....	3-2
IPコンソール ビューアの起動 .....	3-3
WindowsオペレーティングシステムでのIPコンソール ビューアの起動 .....	3-3
LinuxオペレーティングシステムでのIPコンソール ビューアの起動.....	3-4

## 第4章

### IPコンソール ビューアの操作

メイン ウィンドウの表示.....	4-1
メイン ウィンドウの機能.....	4-2

## 第5章

### コンソール スイッチの追加と検出

コンソール スイッチの追加 .....	5-1
コンソール スイッチの追加 ( IPアドレスを割り当てない場合 ) .....	5-2
コンソール スイッチの追加 ( IPアドレスを割り当てた場合 ) .....	5-9
コンソール スイッチの検出 .....	5-12

## 第6章

### コンソール スイッチへのアクセス

ログイン証明書の消去 .....	6-2
------------------	-----

## 第7章

### コンソールスイッチの管理

コンソールスイッチ パラメータの表示と設定 .....	7-1
グローバル、ネットワーク、およびセッション パラメータの変更 .....	7-1
ユーザ アカウントの設定 .....	7-5
サーバリストの再同期化 .....	7-19
ユーザセッションの管理 .....	7-27
[ツール]タブの使用 .....	7-29
コンソールスイッチのプロパティの変更 .....	7-36

## 第8章

### リモートサーバへのアクセス

ローカルデータベースでのサーバの検索 .....	8-2
リストビューでのサーバの自動検索 .....	8-2

## 第9章

### リモートサーバの管理

ビデオセッションビューアの拡大と更新 .....	9-3
ローカルカーソルの調整 .....	9-3
画面の更新 .....	9-3
フルスクリーンモードへの拡大 .....	9-3
ビデオセッションビューアの調整 .....	9-4
ビデオセッションビューアのサイズの調整 .....	9-4
画質の調整 .....	9-6
マウス設定の調整 .....	9-7
マウスの移動倍率の設定 .....	9-9
マウスの位置の調整とリセット .....	9-9
スキャンモードを使用した複数のサーバの表示 .....	9-12
サーバのスキャン .....	9-12
サムネイルビューの操作 .....	9-15
マクロの使用 .....	9-18
マクロのグループ化 .....	9-23
サーバのプロパティの選択 .....	9-25
サーバのプロパティの変更 .....	9-25

## 第10章

### システムの組織化

カスタム フィールド ラベルの作成 .....	10-1
カスタム フィールド ラベルの設定 .....	10-2
新しいサイト、部門、または位置の作成 .....	10-4
新しいフォルダの作成 .....	10-5
サイト、部門、位置、またはフォルダへのデバイスの割り当て .....	10-6
デバイスの削除と名前の変更 .....	10-7
デバイスの削除 .....	10-7
デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダの削除 .....	10-8
デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダの名前の変更 .....	10-8
メイン ウィンドウのカスタマイズ .....	10-9
起動時の選択ビューの変更 .....	10-9
デフォルト ブラウザの変更 .....	10-10
Direct Draw .....	10-10
ローカル データベースの管理 .....	10-10
ローカル データベースの保存 .....	10-11
ローカル データベースのエクスポート .....	10-12
ローカル データベースの読み込み .....	10-13

## 第11章

### トラブルシューティング

## 索引

---

# このガイドについて

このガイドでは、HP IPコンソール スイッチ ソフトウェアのインストール手順について説明します。また、操作、トラブルシューティング、およびアップグレードの手順についても説明します。

## 対象読者

このガイドは、IPコンソール スイッチ ソフトウェアおよびIPコンソール ビューアのインストール、管理、およびトラブルシューティングの担当者を対象とし、保守の資格があり、高電圧製品の危険性について理解していることを前提とします。

## ⚠ 安全に使用していただくために

製品に同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

## 装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



**警告：**以下の記号と組み合わせて使用され、危険があることを示します。警告事項に従わないと、けがをする場合があります。詳しくは、ご使用のマニュアルを参照してください。

---



装置に高電圧が発生する回路があることや、装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

**警告：**感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

---



装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。カバー内には、ユーザーや使用現場の担当者が修理できる部品は入っていません。カバーは、絶対に開けないでください。

**警告：**感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。

---



この記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

**警告：**感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。

---



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触るとやけどをする場合があります。

**警告：**表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触ってください。

---



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

**警告：**感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。

---



製品や機械にこの記号が付いている場合、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えることを示します。

重量kg  
重量lb

**警告：**けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

---

## ラックに関する注意

---



**警告**：けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
- ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
- 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
- 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
- コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。

---

## 本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



**警告**：その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。

---



**注意**：その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

---

**重要**：概念を説明するため、またはタスクを完了するための重要な情報を示します。

**注**：本文の重量なポイントを強調または補足する追加情報を示します。

## 関連資料

このガイドで説明する項目に関する追加情報については、『HP IPコンソール スイッチ ユーザガイド』を参照してください。

## HPのWebサイト

最新のドライバやフラッシュROMに関する製品情報については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp>にアクセスしてください。

製品固有の情報については、HPのWebサイト<http://h18004.www1.hp.com/products/servers/proliantstorage/rack-options/kvm/index-console.html>（英語）を参照してください。

---

## はじめに

HPのIPコンソール ビューアは、コンソール スイッチとコンソール スイッチに接続されているサーバを表示、制御、グループ化するための複数プラットフォーム管理アプリケーションです。

IPコンソール ビューアには、次の特徴があります。

- 広く普及しているオペレーティング システムおよびハードウェア プラットフォームとの互換性を備えています。
- 安全に各管理対象スイッチ認証し、データを転送し、ユーザ名/パスワードを保存できます。
- 必要な位置でシステムを制御できるようにします。

IPコンソール ビューアは、分割画面式の分かりやすいインターフェースを備えた、プラウザ形式のナビゲーション方式を使用して、ユーザがすべてのサーバに1箇所からアクセスできるようになります。ユーザは、IPコンソール ビューアから、コンソール スイッチの管理、サーバとのビデオ セッションの起動、新しいコンソール スイッチのインストールのようなタスクを簡単に実行できます。サーバ、サイト、フォルダなどのグループを作成する内蔵機能により、選択したコンソール スイッチやサーバを簡単に表示できます。また、ショートカットを保存するフォルダを追加することで、コンソール スイッチとサーバのカスタム グループを作成できます。カスタム グループを追加するには、カスタム フィールドにグループを指定します。

IPコンソール ビューアを使用すると、以下の製品のインストール、検出、設定、および操作を行なうことができます。

- HP 1×1×16 IPコンソール スイッチ
- HP 3×1×16 IPコンソール スイッチ
- 拡張モジュール
- インタフェース アダプタ
- 従来のコンパック製アナログ スイッチ（インターフェース アダプタに接続時）
  - 4ポート コンソール スイッチ ボックス（製品番号：400336-291）
  - 8ポート コンソール スイッチ ボックス（製品番号：400337-291）
  - デュアル8ポート コンソール スイッチ ボックス（製品番号：400338-291）
  - 2×8 48VDC（製品番号：400542-B21、日本未発売）

## 機能および利点

IPコンソール ビューアには、次のような機能と利点があります。

- インストールが簡単

管理対象コンソール スイッチが自動検出されるので、新しいコンソール スイッチを見つけてインストールすることができます。初期設定タスクを簡単にするインストール ウィザード、インストール タスクを支援するオンライン ヘルプが用意されています。

- 設定が簡単

IPコンソール ビューアの使いやすいGUIには、管理対象コンソール スイッチ別の設定テーブルと管理対象コンソール スイッチのグループを読み込み、保存できる設定ツールがあります。

- 更新が簡単

IPコンソール ビューアには、フラッシュ アップグレードを開始し、データベース ファイルを配布し、管理対象コンソール スイッチ別の設定をバックアップ/復元できる使いやすいツールがあります。

- 管理が簡単

IPコンソール ビューアを使用すると、1つのシステム内で、複数のコンソール スイッチやサーバを追加および管理できます。コンソール スイッチやサーバをインストールした後、コンソール スイッチのパラメータを設定したり、ユーザ ビデオ セッションの制御や専有を行ったりすることができます。また、数多くの制御機能を実行できます。ユーザは、分かりやすい[コンソール スイッチの管理]から、SNMP(簡易ネットワーク管理プロトコル) トラブルの有効化、ターゲット デバイスの設定、コンソール スイッチのカスケード接続、ならびにユーザ データベースの管理を行うことができます。

- カスタマイズ機能の強化

IPコンソール ビューアは、各ユーザのニーズに合わせてカスタマイズできます。ユニット名、フィールド名、アイコン、およびマクロをカスタマイズして、柔軟性と使いやすさを最大限まで高めることができます。

- 増加した収容量

各管理対象コンソール スイッチは、最大64のユーザ アカウントを内部保存でき、モデルによっては同時に複数のユーザ セッションのクライアント サポートを提供しています。

- 1×1-1ユーザ セッションをサポート
- 3×1-3ユーザ セッションをサポート

- セキュリティの強化

IPコンソール ビューアでは、安全に各管理対象スイッチを認証し、データを転送し、ユーザ名/パスワードを保存できます。AdminとUserという2つのアクセス レベルにより、ユーザは、ターゲット デバイスごとにアクセス権を設定し、既存のファイアウォール、VPN、NATベース ネットワークと相互操作することができます。

## サポートされているオペレーティング システム

- Microsoft® Windows® 2000 Workstation Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 2
- Microsoft Windows NT® 4.0 Workstation Service Pack 6a
- Microsoft Windows NT 4.0 Server Service Pack 6a
- Microsoft Windows XP ( HomeおよびProfessional )
- Red Hat Linux 7.2 ( 2.4カーネル、GNOMEデスクトップ )
- Red Hat Linux 7.3 ( 2.4カーネル、GNOMEデスクトップ )

## システム要件とプラウザ要件

**注:** 以下に、サポートされているオペレーティング システムでIPコンソール ビューアを実行するためのハードウェア要件とプラウザ要件を示します。推奨要件を満たさない構成は、サポートされていません。

- 500MHz Pentium III
- 128MB RAM
- 10または100 BaseT NIC ( 100を推奨 )
- グラフィック アクセラレータ搭載XGAビデオ ( 最低 )
- 800×600デスクトップ サイズ ( 最低 )
- 256色カラー パレット ( 推奨 )
- Windows - Internet Explorer 5.0以上、Netscape 6.0以上
- Linux - Netscape 6.0以上

## IPコンソール スイッチ システムのセットアップの簡単なまとめ

以下の項では、IPコンソール スイッチ システムをセットアップして設定するために必要な手順について簡単に説明します。ここで紹介する各手順については、このガイドおよび『HP IP コンソール スイッチ ユーザ ガイド』の各項で、詳しく説明します。

### IPコンソール スイッチのセットアップ

IPコンソール スイッチをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

1. 各サーバのマウスの加速速度を[遅く]または[なし]に設定します。
2. IPコンソール スイッチ ハードウェアをインストールし、インターフェース アダプタを接続し、キーボード、モニタ、およびマウスをアナログ ポートに接続します。
3. IPコンソール スイッチのリア パネルのコンフィギュレーション ポート(シリアルまたは101の表記)に、端末を接続して、ネットワークを設定します(ネットワーク速度およびアドレス タイプを設定します)。IPアドレスは、IPコンソール ビューアから設定できます。
4. ローカルのアナログ ワークステーションで、OSD (オンスクリーン ディスプレイ) を介してすべてのサーバ名を入力します。

## IPコンソール ビューアの設定

IPコンソール ビューアを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 各IPコンソール ビューア クライアントにIPコンソール ビューアをインストールします。
2. 1台のIPコンソール ビューア クライアントから、IPコンソール ビューアを起動します。
3. [新規コンソール スイッチ]をクリックして、新しいコンソール スイッチをIPコンソール ビューアのデータベースに追加します。[新規コンソール スイッチ]ウィザードが表示されます。

説明されているとおりにIPアドレスを設定した場合は、[はい、IP Console Switch xxxにはIPアドレスがあります]を選択します。

-または-

IPアドレスを設定していない場合は、[いいえ、IP Console Switch xxxにはIPアドレスはありません]を選択します。IPコンソール ビューアは、コンソール スイッチ、ならびに接続されているすべてのインターフェース アダプタを検出します。これらの名前が、IPコンソール ビューアのメイン ウィンドウに表示されます。

4. メイン ウィンドウで、[プロパティ]を設定し、必要に応じて[サイト]または[フォルダ]にサーバをグループ分けします。
5. [管理コンソール スイッチ]で、ユーザ アカウントを作成します。
6. 1つ目のIPコンソール ビューア クライアントを設定した後、[ファイル]、[データベース]、[保存]の順に選択して、すべての設定を含むデータベースを保存します。
7. 2つ目のIPコンソール ビューア クライアントで、[ファイル]、[データベース]、[ロード]の順にクリックし、保存したファイルにアクセスします。
8. このファイルをロードした後で、ローカル アナログ ワークステーションで（OSDを介して）インターフェース アダプタの追加、削除、または名前変更を行う場合は、ローカル データベースをOSDと再同期させることができます。[管理コンソール スイッチ]をクリックしたあと、[設定]、[サーバ]の下の[再同期化]をクリックしてください。
9. IPコンソール スイッチに接続されているサーバにアクセスするには、メイン ウィンドウで目的のサーバを選択し、[KVMセッションの開始]をクリックしてサーバ セッションを開始します。
10. [表示]、[自動スケール]の順に選択して、解像度を調整します。ビデオ セッション ビューアで[ツール]を選択し、サーバ ビデオの[自動画質調整]を選択します。

IPコンソール ビューアの設定について詳しくは、このガイドの該当する項を参照してください。

---

## TFTPを使用したファームウェアのアップグレード

HP IPコンソール スイッチのフラッシュ アップグレード機能を使用すると、最新のファームウェアにアップグレードできます。

IPコンソール スイッチを更新するには、アップグレードを実行する端末やPCにTFTP ( Trivial File Transfer Protocol ) サーバが必要です。TFTPを有効にしてから、FLASHファームウェアをアップグレードし、IPコンソールスイッチのファームウェアをアップグレードしてください。

### Windows NT用TFTPの有効化

Windows NT用のTFTPを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. 空のディレクトリにNT\_TFTP3.3.ZIPを抽出します。
2. [スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
3. [ネットワーク]をダブルクリックします。
4. [サービス]、[追加]の順にクリックします。
5. [ディスク使用]をクリックします。
6. [ディスクの挿入]ボックスに、抽出したファイルの位置を示すパスを入力します。
7. [OEMオプションの選択]ページで、[OK]をクリックします。
8. [サービス]リストに製品名が表示されたら、[閉じる]をクリックします。
9. [はい]をクリックして再起動します。

## Windows 2000およびWindows XP用TFTPの有効化

Windows 2000とWindows XP用のTFTPを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. 空のディレクトリにW2K\_TFTP3.3.ZIPを抽出します。
2. [スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
3. [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。
4. [プログラムの追加]をクリックし、[CDまたはフロッピー]をクリックします。[フロッピー ディスクまたはCD-ROMからのインストール]ウィザード画面に表示される指示に従います。
5. [インストール プログラムの実行]ページの[開く]ボックスに、抽出されたファイルの位置を示すパスを入力します。
6. [EqmTFTPS Setup]ページから、[Install]をクリックします。
7. [Finish]をクリックします。
8. [プログラムの追加と削除]ページから、[閉じる]をクリックします。

## Linux用TFTPの有効化

RPM/パッケージを使用するほとんどのシステムでは、TFTPサーバRPM ( RPM-IVH/Redhat/RPMS/ ) がTFTPを提供しています。配布タイプによっては、インターネット サービス デーモンはxinetdが提供しています。

**注** : デフォルトでTFTPは安全モードで動作し、/tftpbootディレクトリにある読み取り専用ファイルだけが提供されます。他のディレクトリは、/etc/xinetd.d/tftpファイルを通じて指定できます。安全モードでは、TFTPは、/tftpbootディレクトリからの相対パスにあるファイルを仮定しています。

Linuxオペレーティングシステム用TFTPを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. GNOMEビューアで、メイン メニューに移動し、[サーバ設定]、[サービス]の順に選択します。
2. [サービスの設定]メニューで、xinetdチェックボックスが選択されブート時に起動することを確認します。  
-または-  
チェックボックスが選択されていない場合は、ボックスを選択して[Save]をクリックします。
3. サービスリストでTFTPを見つけて、強調表示します。
4. チェックボックスを選択して、ブート時にTFTPが起動するように設定し、[Save]をクリックします。

## Linux用TFTPの確認

Linuxオペレーティングシステムで、TFTP/TFTPDが正しく有効化されていることを確認するには、以下の手順に従ってください。

1. TFTP localhost ( またはローカルシステムの名前 ) と入力します。
2. 次のコマンドを入力して、ファイルをダウンロードします。  
etc/tftpboot/ファイル名
3. Quitと入力します。

TFTPが正しく設定されている場合、上記の手順で現在のディレクトリにファイルが転送されるはずです。

## Windows用TFTPの設定

Windowsオペレーティングシステム用TFTPを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. [Secure TFTP Service]ページにアクセスします。

### Windows NT 4.0

- a. [スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
- b. [ネットワーク]をダブルクリックします。
- c. [サービス]をクリックします。
- d. [ネットワークサービス]リストから、[Secure TFTP Service]を選択し、[プロパティ]をクリックします。[Secure TFTP Service]ウィンドウが表示されます。

### Windows 2000またはWindows XP

- a. [スタート]メニューから、[プログラム名を指定して実行]を選択します。
- b. [名前]フィールドにeqmtftpcと入力して、[OK]をクリックします。[Secure TFTP Service]ウィンドウが表示されます。

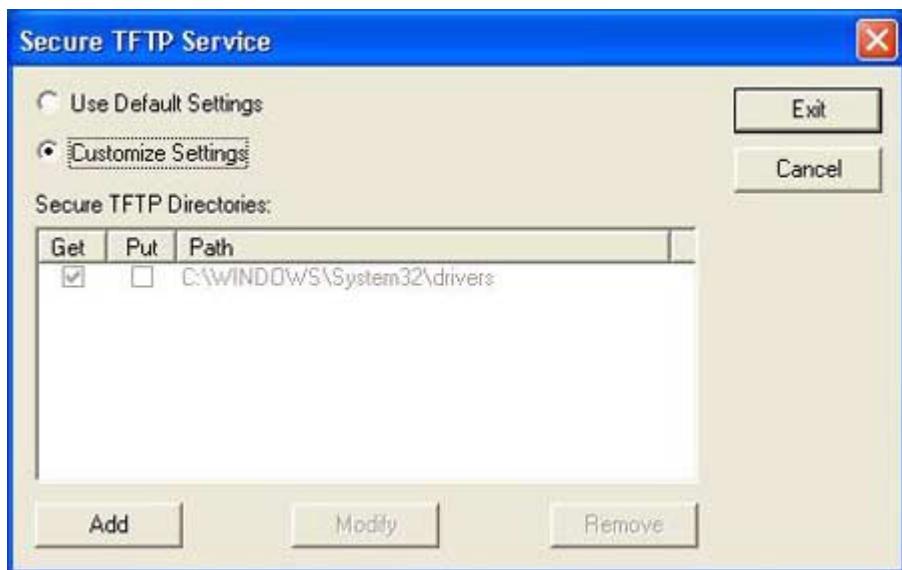


図2-1 : [Secure TFTP Service]ウィンドウ

2. 次に示すように、ディレクトリのデフォルト設定を使用できます。このディレクトリには、読み取りアクセスまたは書き込みアクセス権限が設定済みです。デフォルト設定を使用するには、[Use Default Settings]を選択して[Exit]をクリックします。  
設定値をカスタマイズするには、[Customize Settings]を選択します。
  - a. ディレクトリを追加するには、[Add]をクリックします。[Secure TFTP Directory]ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. ディレクトリのパス名を入力するか、または[Browse]をクリックしてディレクトリを選択してから、[OK]をクリックします。
  - c. そのディレクトリへの読み取りアクセスまたは書き込みアクセスを有効にするには、[GET Access]または[PUT Access]チェックボックスを選択します。
  - d. [OK]をクリックします。追加したディレクトリがリストに表示されます。



図2-2 : [Secure TFTP Directory]ダイアログ ボックス

3. ディレクトリ リストにある既存の項目を変更するには、[Path]カラムでディレクトリ名を選択します。
  - a. 項目を削除するには、[Remove]をクリックし、[Exit]をクリックします。
  - b. 項目のアクセス権を変更するには、[Get]カラムまたは[Put]カラムにある適当なチェックボックスを選択します。
  - c. 項目のパス名を変更するには、[Modify]をクリックして希望するディレクトリのパス名を入力するか、[Browse]をクリックしてディレクトリを選択します。
  - d. [Exit]、[Close]の順にクリックします。

## IPコンソール スイッチの更新

更新を実行する前に、Secure TFTP Serverがインストールされ、更新するファイルが入っているフォルダの読み取りアクセス権が選択されていることを確認してください。また、IPコンソール スイッチが、更新に使用するコンピュータと同一のネットワークに存在することを確認してください。

## IPコンソール スイッチ ハードウェアの更新

IPコンソール スイッチ ハードウェアを更新するには、以下の手順に従ってください。

1. シリアル ケーブルの一方の端を、IPコンソール スイッチからローカルで表示するサーバの空きCOMポートに接続します。
2. 上記のシリアル ケーブルのもう一方の端をIPコンソール スイッチのシリアル ポートに接続します。
3. 付属の電源コードをIPコンソール スイッチ背面に接続してから、有効な電源コンセントに接続します。
4. IPコンソール スイッチの電源を入れます。リア パネルの動作インジケータが点灯します。セルフテストの実行中、動作インジケータは、30秒間点滅します。点滅が停止してから約10秒後に、**Enter**キーを押してメイン メニューにアクセスします。

5. Microsoft® Windows® オペレーティング システム用のハイパー ターミナルやRed Hat Linux オペレーティング システム用のMinicomなど、サーバの端末エミュレーション ソフトウェアを設定します。

ハイパー ターミナルを設定するには、以下の手順に従ってください。

- a. デスクトップ画面で、[スタート]メニューから、[プログラム]、[アクセサリ]、[通信]、[ハイパーテーミナル]の順にクリックします。[接続の設定]ウィンドウが表示されます。
- b. 説明の名前を入力し、[OK]をクリックします。[接続の設定]ウィンドウが表示されます。
- c. シリアル ケーブルでコンソール スイッチに接続されている**通信ポート**を選択し、[OK]をクリックします。[COM1のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- d. [ビット/秒]には**9600**、[データ ビット]には**8**、[parity]には**なし**、[ストップ ビット]には**1**、[フロー制御]には**なし**を選択し、[OK]をクリックします。ハイパーテーミナルが、自動的にコンソールスイッチに接続します。
- e. **Enter**キーを押して、コンソールスイッチのオプション メニューにアクセスします。

Minicomを設定するには、以下の手順に従ってください。

**重要：**Minicomは、Red Hat 7.2および7.3のインストール時にロードされるユーティリティですが、オペレーティング システムのインストール時に、Linuxユーティリティをインストールするオプションを選択しない場合は、Minicomを使用することはできません。インストール時にユーティリティを選択しなかった場合は、Red HatのWebサイトからMinicom 1.831-16.i386.rpmファイルをダウンロードしてください（Red HatのWebサイトからのRPMのインストールについては、手順を参照してください）。

- a. Linux コンソールにログオンするかまたは端末を開いて、コマンド プロンプトで minicom-sと入力します。[Configuration]メニューが表示されます。
- b. [Serial Port Setup]を選択します。[Change which setting?]メニューが表示されます。
- c. [Option A (Serial Device)]を選択します。デバイスのタイプをdev/modemから/dev/ttys0に手動で変更して、Enterキーを押します。
- d. [Option E (Bps/Par/Bits)]を選択します。[Comm Parameters]メニューが表示されます。
- e. [E (Speed 9600 Bps)]を選択して、Enterキーを押します。[Option E]の横に9600 8N1と表示されます。
- f. [Option F (Hardware Flow Control)]を選択します。

[Change which setting?]メニューが次のように表示されていることを確認します。

A - Serial Device: /dev/ttys0

B - Lockfile Location: /var/lock

C - Callin Program:

D - Callout Program:

E - Bps/Par/Bits: 9600 8N1

F - Hardware Flow Control: No

G - Software Flow Control: No

- g. Enterキーを押して、[Configuration]メニューに戻ります。下方向にスクロールして[Save setup as dfl]オプションを表示し、Enterキーを押します。
- h. [Configuration]メニューを下方向にスクロールして[Exit from Minicom]オプションを表示し、Enterキーを押します。

- i. Linux Red Hat 7.2および7.3のコマンドプロンプトで、Minicomと入力します。接続が確立すると、ただちにIPコンソールスイッチのメインメニューが表示されます。画面のオプションに従って、IPコンソールスイッチを設定します。6つのオプションがある[IPViewer HyperTerminal]メニューが表示されます。

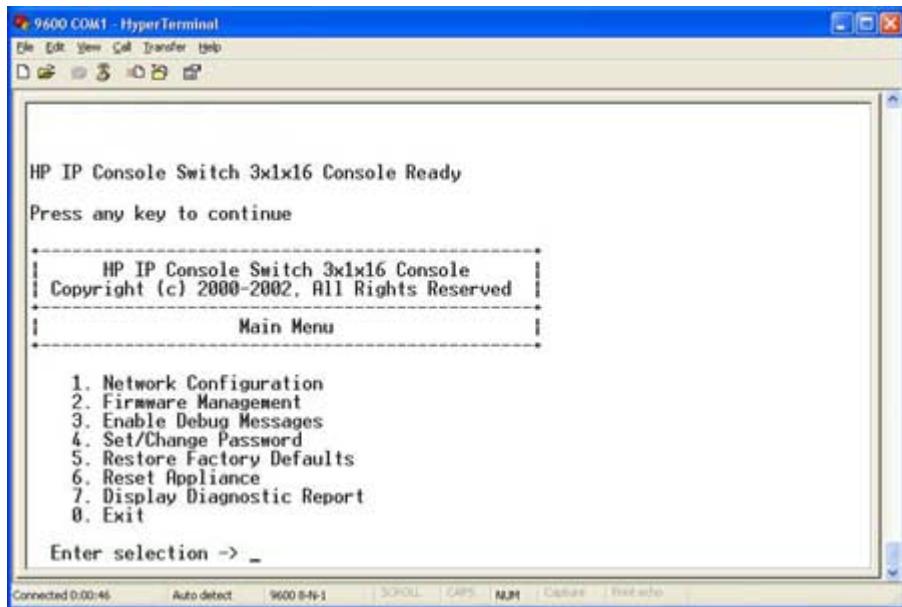


図2-3 : [IPViewer HyperTerminal]メニュー

6. [Option 2 - Firmware Management]を選択します。[Firmware Management]メニューが表示されます。

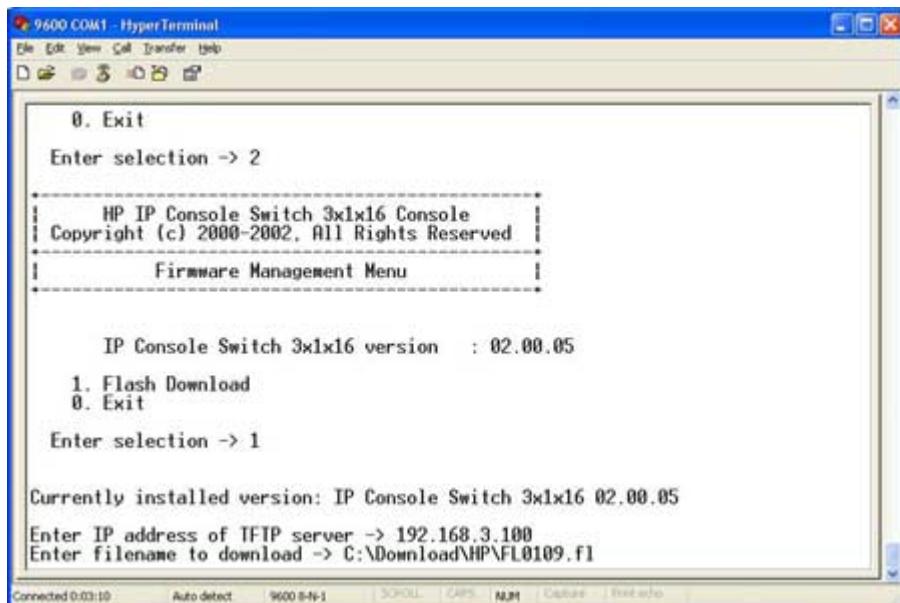


図2-4 : [Firmware Management]メニュー

7. [Option 1 - Flash Download]を選択します。
8. 更新ファイルを持っているTFTPサーバのIPアドレスと更新ファイルの正確なパス（たとえば、C:\Download\HP\FL0109.fl）を入力します。
9. プロンプトにYと入力して、指定したIPアドレスからアップグレード ファイルをダウンロードします。IPコンソールスイッチのアップグレードが開始します。



**注意：**このプロセス中は、IPコンソールスイッチの電源を切らないでください。電源を切ると、IPコンソールスイッチが動作しなくなり、修理のために返送する必要が生じます。更新は10分以内に完了しますので、それまで待ってください。

---

10. アップグレード プロセスが完了すると、IPコンソールスイッチが再起動します。[IP Console Switch is ready]メッセージが表示されます。

## IPコンソール ビューアによるIPコンソール スイッチの更新

- IPコンソール スイッチを選択し、[管理コンソール スイッチ]アイコンをクリックします。  
[IPコンソール ビューア]ウィンドウが表示されます。

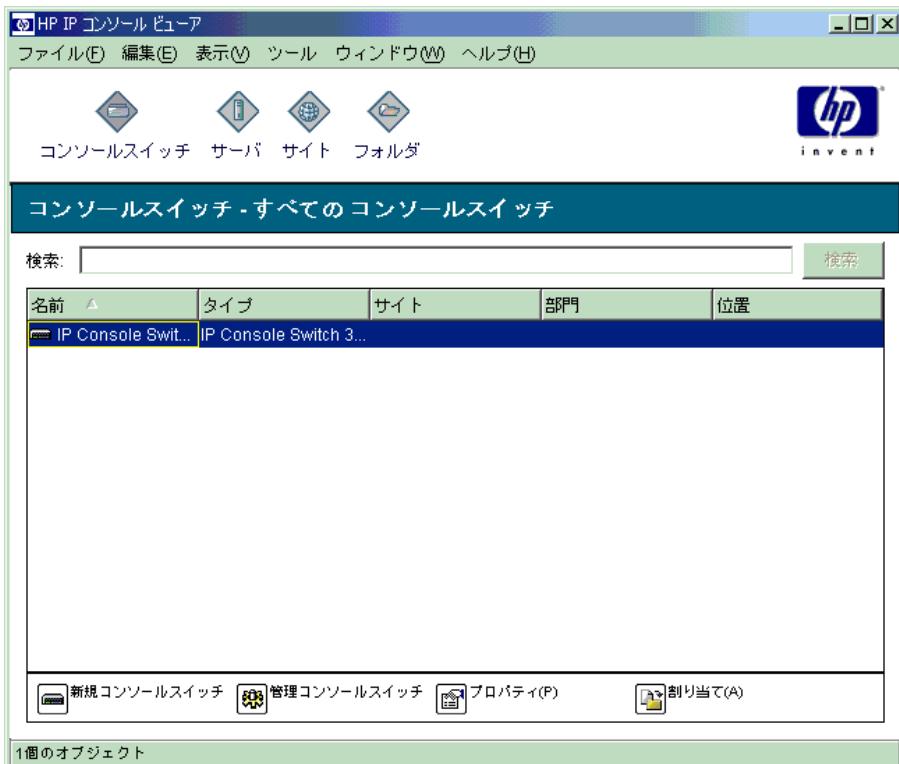


図2-5 : [IPコンソール ビューア]ウィンドウ

2. [ツール]タブを選択し、次に[コンソールスイッチ ファームウェアのアップグレード]アイコンをクリックします。

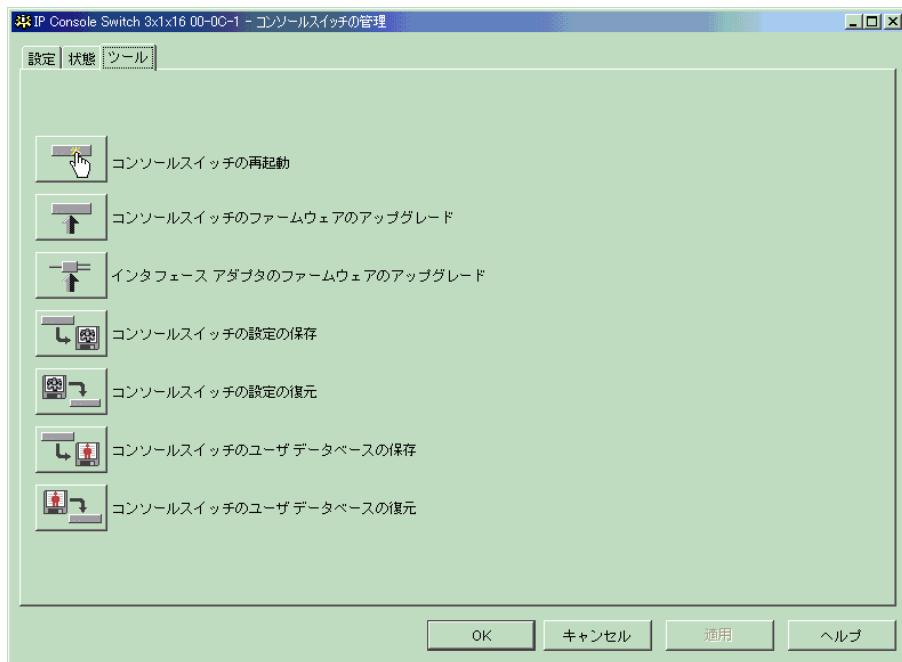


図2-6 : [ツール]タブ

3. (オプション) [TFTPサーバのIPアドレス:] フィールドに、更新ファイルが存在するコンピュータのIPアドレスを入力します。
4. (オプション) [ファームウェアのファイル名:] フィールドに、更新ファイルの完全パス(たとえば、C:\Download\HP\FL0109.fl)を入力します。

**注:** Linuxオペレーティングシステムでは、パス名は不要ですが、ファームウェアイメージをTFTPBootフォルダに保存する必要があります。

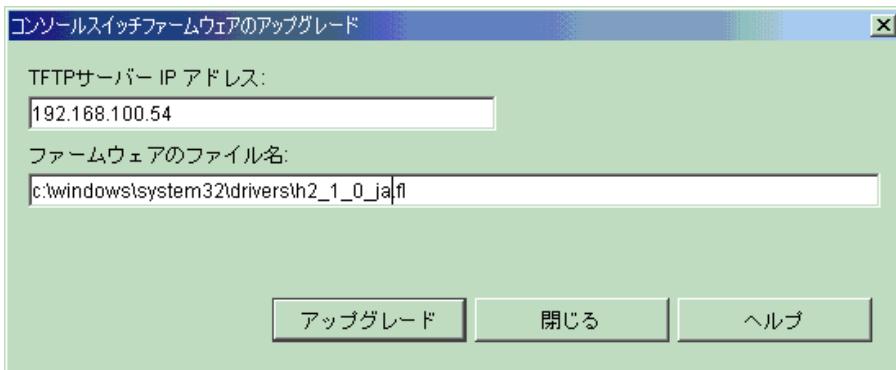


図2-7 : [コンソールスイッチ ファームウェア アップグレード]ダイアログ ボックス

5. [アップグレード]をクリックします。



**注意:** このプロセス中は、IPコンソール スイッチの電源を切らないでください。電源を切ると、IPコンソール スイッチが動作しなくなり、修理のために返送する必要が生じます。更新は10分以内に完了しますので、それまで待ってください。

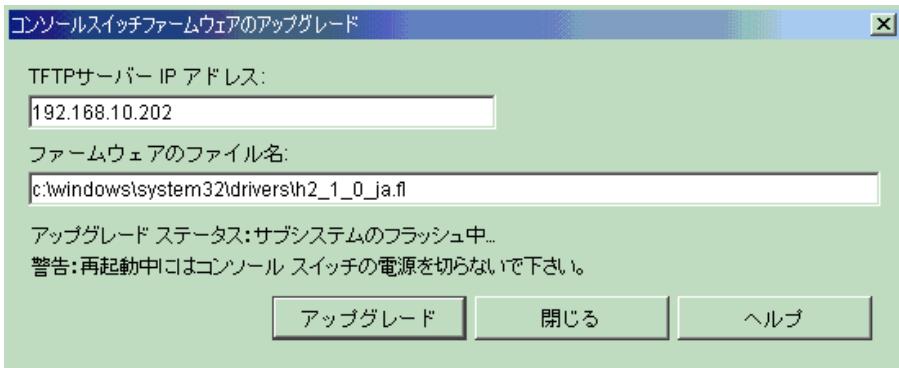


図2-8 : [コンソールスイッチ ファームウェア アップグレード]警告

6. アップグレードが完了したら、[閉じる]をクリックしてIPコンソール スイッチを再起動します。
7. 再起動後、[ファームウェアのアップグレードが完了しました。コンソール スイッチは使用可能です]メッセージが表示されます。

## LAN接続の確立

IPコンソールスイッチをネットワークに接続するには、以下の手順に従ってください。

**注：**10Base-T Ethernetも使用できますが、性能向上のために専用のスイッチ100Base-Tネットワークをおすすめします。

IPコンソールスイッチのリアパネルにあるLANポートからネットワークケーブルをネットワークに接続し、接続されているすべてのシステムの電源を入れます。現在使用できるネットワークポートは、2068、8192、3211、161です。

---

## インストール

IPコンソール ビューアをインストールする前に、以下の各項を参照して、インストールを正しく行うために必要な品目がすべて揃っていることを確認します。

### IPコンソール ビューアのインストール

以下の項では、WindowsおよびLinuxオペレーティング システムにIPコンソール ビューアをインストールし、起動する手順の概要を説明します。

#### Windowsオペレーティング システムでのIPコンソール ビューアのインストール

Windows NT、Windows 2000、またはWindows XPにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. アナログ コンソール スイッチ ポートに接続されているサーバのローカル ポートから、マウスの加速速度を調整します。

**注：**コンソール スイッチに接続されているすべてのWindowsシステムでは、デフォルトのWindows PS/2 マウス ドライバを使用することをおすすめします。

(デフォルトのドライバを使用して) Windowsオペレーティング システムのマウスの加速速度を調整するには、以下の手順に従ってください。

**注：**このプロセスは、IPコンソール スイッチを通じてWindows NTシステムにアクセスするすべてのWindows NTユーザ アカウントについて実行する必要があります。

- a. デスクトップで、[スタート]メニューから、[設定]、[コントロール パネル]の順に選択し、[マウス]アイコンをダブルクリックします。
- b. [動作]タブを選択します。

- c. Windows NTの場合は、[ポインタの速度]を[遅く]に設定します。  
-または-  
Windows 2000の場合は、[速度]を50%（デフォルト）に設定し、[加速]を[なし]に設定します。  
-または-  
Windows XPの場合は、速度を50%（デフォルト）に設定し、加速を左端から6番目の位置に設定します。
2. CD-ROM ドライブにIPコンソール ビューアCDを挿入します。自動再生がサポートされ、有効になっている場合、セットアップ プログラムが自動的に開始します。  
-または-  
自動再生がサポートされていない場合は、デフォルト ドライブをCD-ROM ドライブ文字に設定し、次のコマンドを実行してインストール プログラムを起動します。  
`<CD-ROM ドライブ>:\WIN32\SETUP.EXE`
3. 画面の指示に従います。

## Linuxオペレーティング システムでのIPコンソール ビューアのインストール

Linux 7.2および7.3オペレーティング システムにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. アナログ コンソールスイッチ ポートに接続されているサーバのローカル ポートから、マウスの加速速度を調整します。
  - a. GNOMEデスクトップから、メイン メニューをクリックします。
  - b. メイン メニューのタスク リストから、[プログラム]、[デスクトップ設定]、[周辺機器]の順に選択します。
  - c. [周辺機器]タスク リストから、[マウス]を選択します。[マウス]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、マウスを右きき用または左きき用に設定したり、マウスの動作を調整したりすることができます。マウスの動作を調整するには、スレッシュヨルドを変更し、加速速度を左端から4番目の位置に設定してください。

2. CD-ROM ドライブにIPコンソール ビューアCDを挿入します。自動再生がサポートされ、有効になっている場合、セットアップ プログラムが自動的に開始します。  
-または-  
自動再生がサポートされていない場合は、次の手順を実行してください。
  - a. 次のコマンドを実行してCD-ROM ドライブ ボリュームをマウントします。  

```
mount /mnt/cdrom
```
  - b. 次のコマンドを実行して、作業ディレクトリをマウント ポイントに変更します。  

```
cd /mnt/cdrom
```
  - c. 次のコマンドを実行して、インストール プログラムを起動します。  

```
sh ./linux/setup.bin
```
3. 画面の指示に従います。

## IPコンソール ビューアの起動

### Windowsオペレーティング システムでのIPコンソール ビューアの起動

すべてのWindowsオペレーティング システムでIPコンソール ビューアを起動するには、[スタート]メニューから、[プログラム]、[IPコンソール ビューア]の順に選択します。

-または-

デスクトップで、[IPコンソール ビューア]アイコンをダブルクリックします。IPコンソール ビューアが起動します。

## LinuxオペレーティングシステムでのIPコンソールビューアの起動

LinuxオペレーティングシステムでIPコンソールビューアを起動するには、以下の手順に従ってください。

IPコンソールビューア フォルダ (user/lib/IPViewer) に移動して、次のコマンドを実行します。

./IPViewer

-または-

/user/binディレクトリから、次のリンクを実行します。

./IPViewer

-または-

インストール時にデスクトップショートカットを作成した場合は、[IPコンソールビューア]アイコンをダブルクリックします。IPコンソールビューアが起動します。

## IPコンソール ビューアの操作

IPコンソール ビューアには、複数のコンポーネント（メイン ウィンドウ、[コンソール スイッチの管理]ウィンドウ、**ビデオ セッション ビューア** コンポーネント）があります。IPコンソール ビューアを起動すると、メイン ウィンドウが表示されます。メイン ウィンドウでは、データセンタ内のサポートされるすべてのユニットを対象にして、表示、アクセス、管理、およびカスタム グループの作成を行うことができます。

ターゲット デバイスを選択している場合は、メイン ウィンドウの[KVMセッションの開始]ボタンをクリックして、**ビデオ セッション ビューア**を起動できます。このコンポーネントによって、個々のサーバのキーボード、モニタ、およびマウスの機能を制御できます。

コンソール スイッチを選択している場合は、メイン ウィンドウの[コンソール スイッチの管理]ボタンをクリックして、[管理コンソール スイッチ]ウィンドウを起動できます。このウィンドウでは、コンソール スイッチを設定したり制御したりすることができます。

### メイン ウィンドウの表示

メイン ウィンドウは、複数の異なるビューに分かれています。これらのビューは、選択されているデバイス タイプや実行されるタスクによって変化します。いずれかのビューをクリックすると、システムは、[コンソール スイッチ]、[サーバ]、[サイト]、[フォルダ]などのカテゴリごとにまとめられて表示されます。メイン ウィンドウのデフォルト表示は、ユーザが設定できます。デフォルトで、メイン ウィンドウは、起動するたびにローカル データベースを読み込んで、表示するビューを決定します。

## メイン ウィンドウの機能

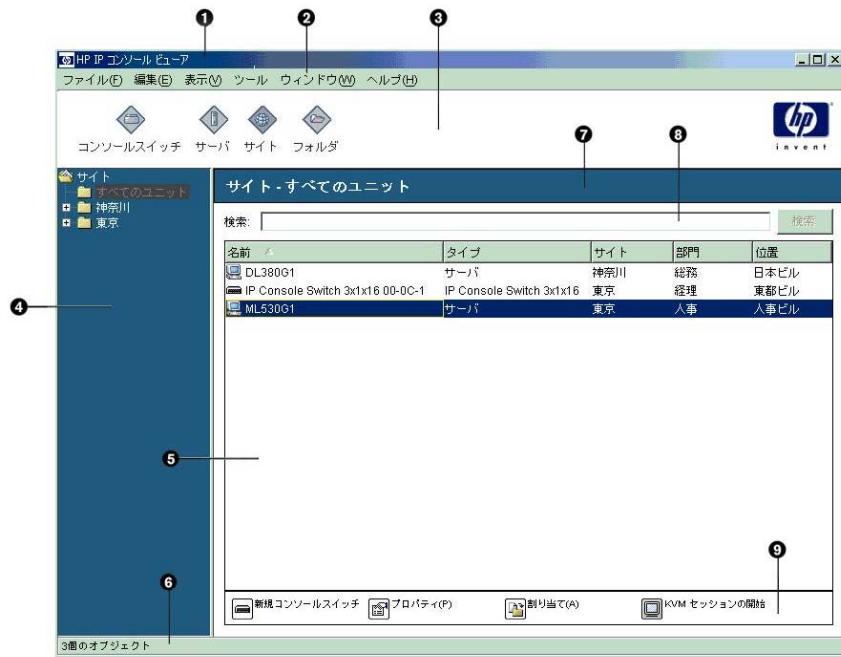


図4-1：メイン ウィンドウの機能

位置	名前	機能
1	タイトルバー	ソフトウェアのタイトルを表示します。
2	メニュー バー	6つのコマンド ( ファイル、編集、表示、ツール、ウィンドウ、ヘルプ ) があります。

続く

**図4-1：メイン ウィンドウの機能（続き）**

位置	名前	機能
3	アイコン ビュー	4つのアイコン（コンソール スイッチ、サーバ、サイト、フォルダ）があります。
4	グループ ビュー	アイコン ビューから選択したグループを表すツリー ビューを表示します。また、選択ビューに表示する内容を制御します。
5	リスト ビュー	現在選択されているグループ ビューのリストを表示するか、または検索バーから実行した検索の結果を表示します。
6	ステータス バー	リスト ビューに表示されている項目の数を表示します。
7	選択ビュー	検索バー、リスト ビュー、およびタスク ウィンドウを表示します。
8	検索バー	ユーザが入力したテキストに基づいて、選択ビューに表示されるリスト ビューの内容を制限します。
9	タスク ウィンドウ	実行できるタスクを表すアイコンがあります。一部のアイコンはリスト ビューで選択した項目タイプによって変化しますが、他のアイコンは変化せず、常に存在します。

## コンソールスイッチの追加と検出

### コンソールスイッチの追加

IPコンソールビューアからコンソールスイッチにアクセスする前に、IPコンソールビューアのデータベースにコンソールスイッチを追加する必要があります。コンソールスイッチを手動で追加すると、検出されたコンソールスイッチがリストビューに表示されます。

すでにコンソールスイッチにIPアドレスが割り当てられている場合、IPコンソールビューアは正確なIPアドレスまたはアドレス範囲を検出して、自動的にコンソールスイッチを検出します。IPアドレスが割り当てられていない場合は、手動でコンソールスイッチを追加する必要があります。複数のコンソールスイッチをインストールしている場合は、検出ウィザードの使用をおすすめします。単一のコンソールスイッチをインストールしている場合は、新規コンソールスイッチ ウィザードの使用をおすすめします。

注：IPコンソールスイッチのOSDインターフェースで、ターゲットサーバの名前を設定してから、IPコンソールビューアにターゲットサーバを追加することをおすすめします。

## コンソール スイッチの追加 (IPアドレスを割り当てない場合)

IPアドレスを割り当てていないコンソール スイッチを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. [ファイル]、[新規]、[コンソール スイッチ]の順に選択するか、または[新規コンソールスイッチ]アイコンをクリックします。

[新規コンソール スイッチ ウィザード]が表示されます。

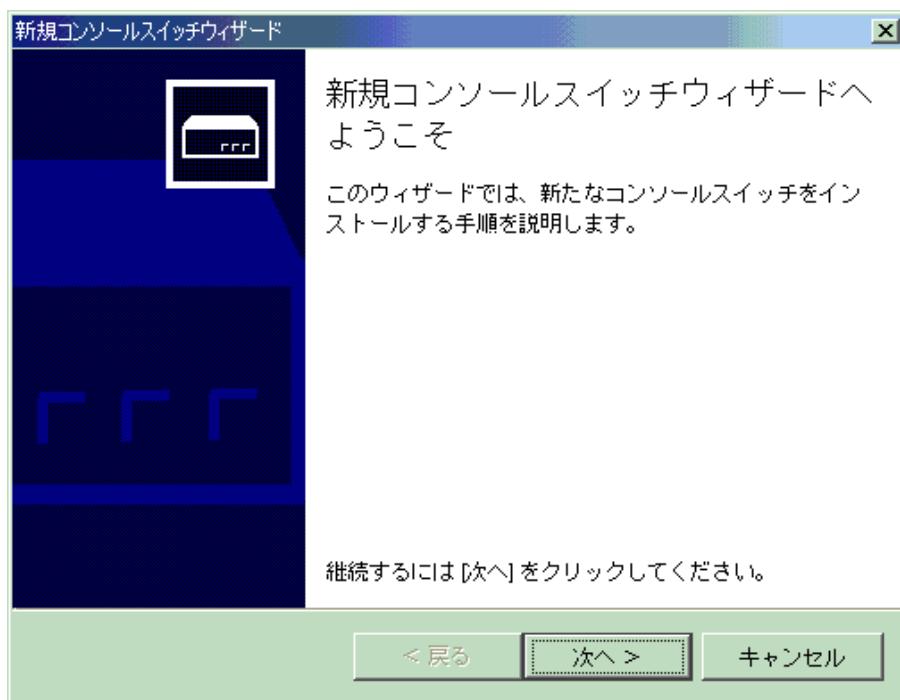


図5-1 : [新規コンソール スイッチ ウィザード]

2. [次へ]をクリックします。[製品種別]ウィンドウが表示されます。

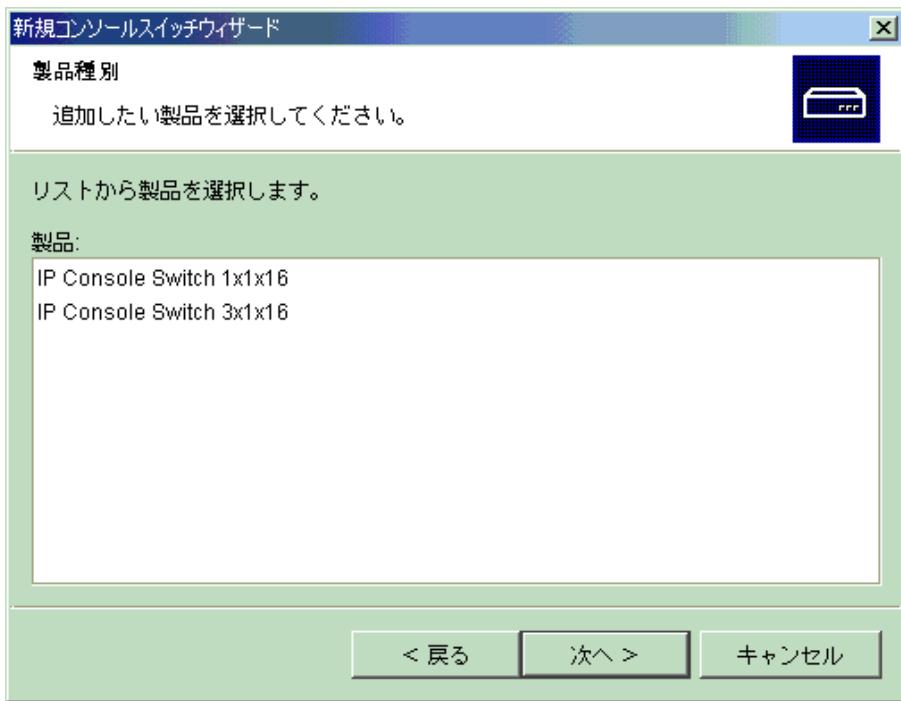


図5-2 : [製品種別] ウィンドウ

3. [製品]リストから製品を選択します。[IPアドレス]ウィンドウが表示されます。

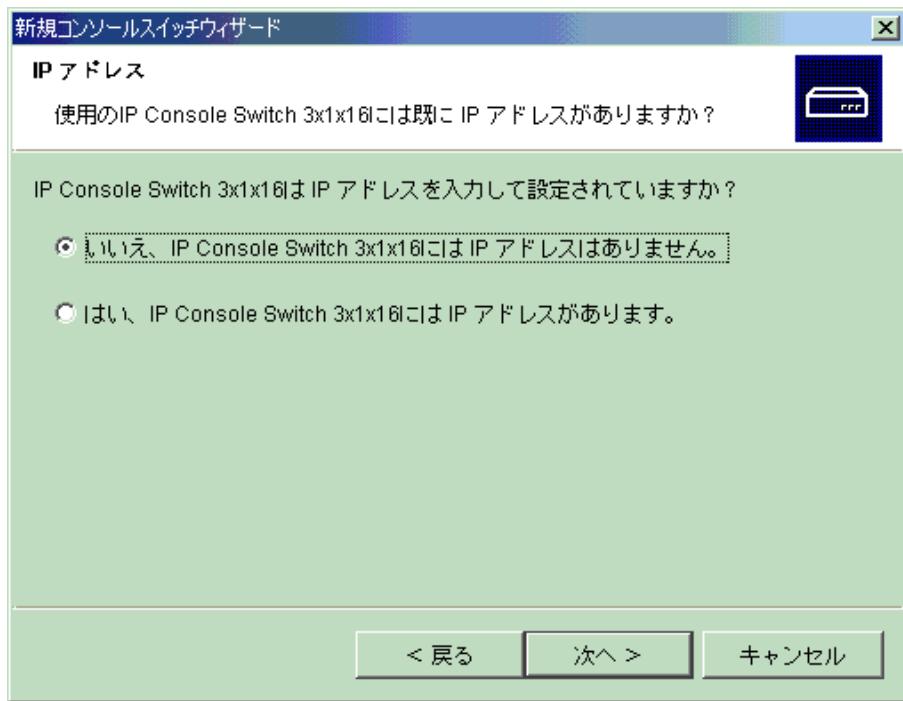


図5-3 : [IPアドレス]ウィンドウ

4. IPコンソールスイッチにIPアドレスが割り当てられていないことを表すために[いいえ]を選択し、[次へ]をクリックします。[ネットワークアドレス]ウィンドウが表示されます。

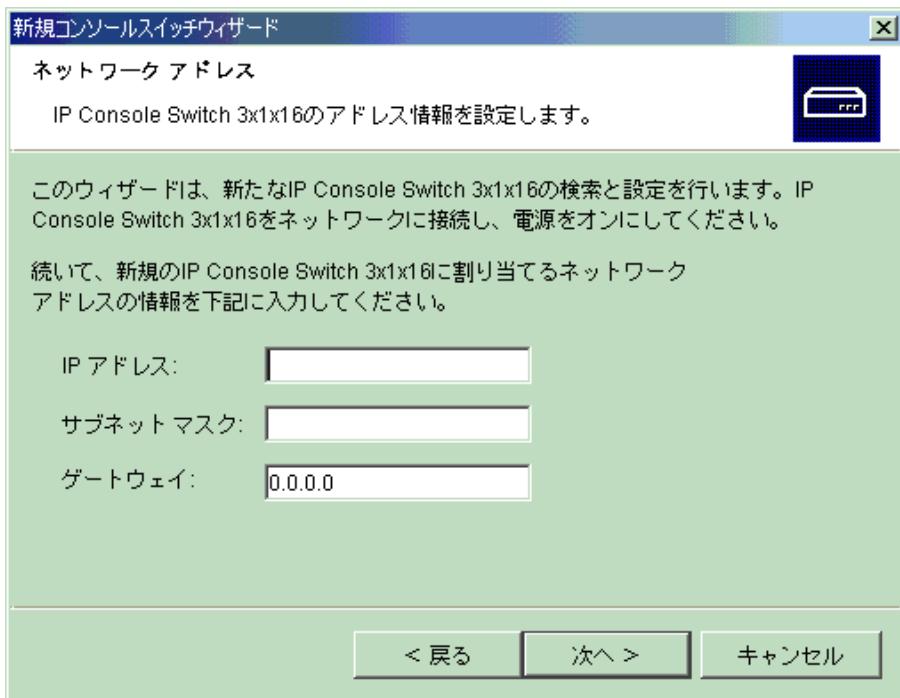


図5-4 : [ネットワークアドレス] ウィンドウ

- IPコンソールスイッチのIPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイを入力し、[次へ]をクリックします。IPコンソールビューアが、コンソールスイッチと、そのコンソールスイッチに関連したすべてのインターフェースアダプタIDとサーバ名を検索します。[検出されました]ウィンドウが表示されます。

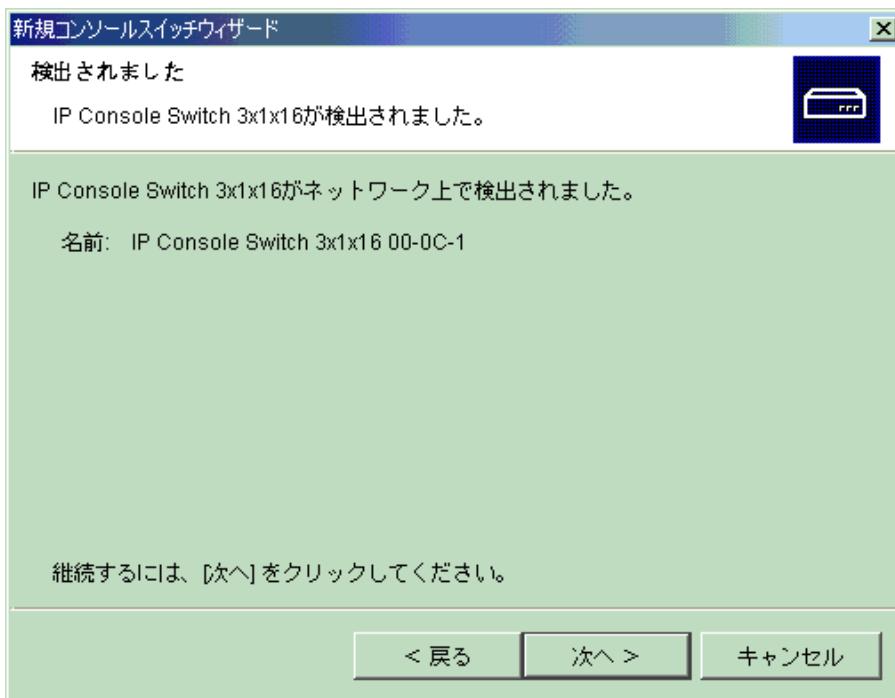


図5-5：[検出されました]ウィンドウ

6. [次へ]をクリックします。少なくとも1つのインターフェース アダプタに接続されているカスケードスイッチが検出されると、[カスケードスイッチの設定]ウィンドウが表示されます。
  - a. [カスケードスイッチの割り当て]ダイアログ ボックスには、カスケードスイッチに接続されているすべてのインターフェース アダプタのリストが表示されます。コンソールスイッチが接続されている各インターフェース アダプタに対して、プルダウンリストから選択して該当するコンソールスイッチを関連付けます。
  - b. [既存のカスケードスイッチ]ダイアログ ボックスには、データベースに定義されている現在のすべてのコンソールスイッチのリストが表示されます。リストの内容を変更するには、[追加]、[変更]、または[削除]をクリックします。  
IPコンソールビューアは、(ユーザが定義できる)コンソールスイッチ タイプで指定したサーバだけを検索します。  
[既存のカスケードスイッチ]リストにカスケードスイッチを追加した後は、カスケードスイッチを選択して[変更]または[削除]をクリックすることで、表示されるカスケードスイッチを変更または削除できます。

-または-

任意のインターフェース アダプタに接続されているカスケード スイッチが検出されない場合は、[ウィザードの完了] ウィンドウが表示されます。[完了]をクリックして終了し、メイン ウィンドウに戻ります。

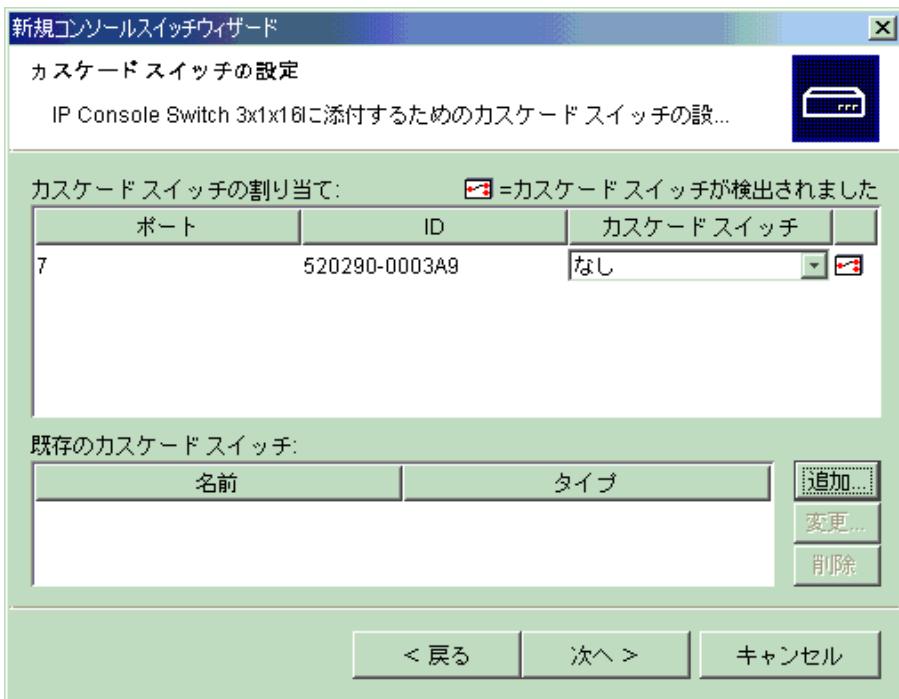


図5-6 : [カスケードスイッチ情報の入力] ウィンドウ

7. [次へ]をクリックします。[新規コンソールスイッチ ウィザードの完了] ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックして終了し、メイン ウィンドウに戻ります。リスト ビューにコンソールスイッチが表示されます。

## コンソールスイッチの追加 (IPアドレスを割り当てた場合)

IPアドレスを割り当てたコンソールスイッチを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. [ファイル]、[新規]、[コンソールスイッチ]の順に選択するか、または[新規コンソールスイッチ]アイコンをクリックします。[新規コンソールスイッチ ウィザード]ウィンドウが表示されます。
2. [次へ]をクリックします。[製品種別]ウィンドウが表示されます。
3. 製品リストから製品を選択し、[次へ]をクリックします。[IPアドレス]ウィンドウが表示されます。

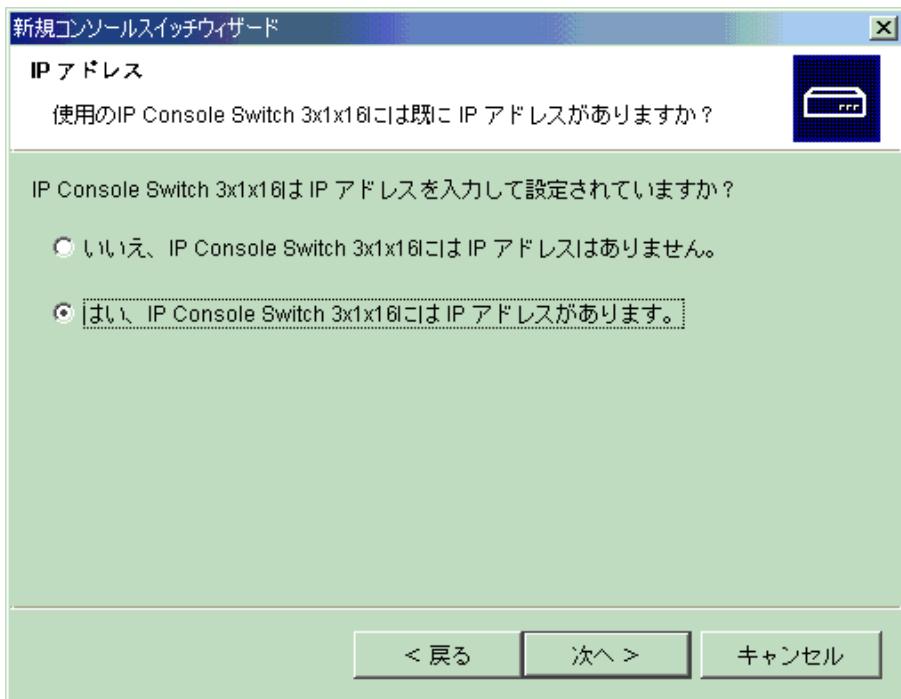


図5-7: [IPアドレス]ウィンドウ

4. IPコンソール スイッチにIPアドレスが割り当てられていることを表すために[はい]を選択し、[次へ]をクリックします。[IPコンソールスイッチの設定]ウィンドウが表示されます。

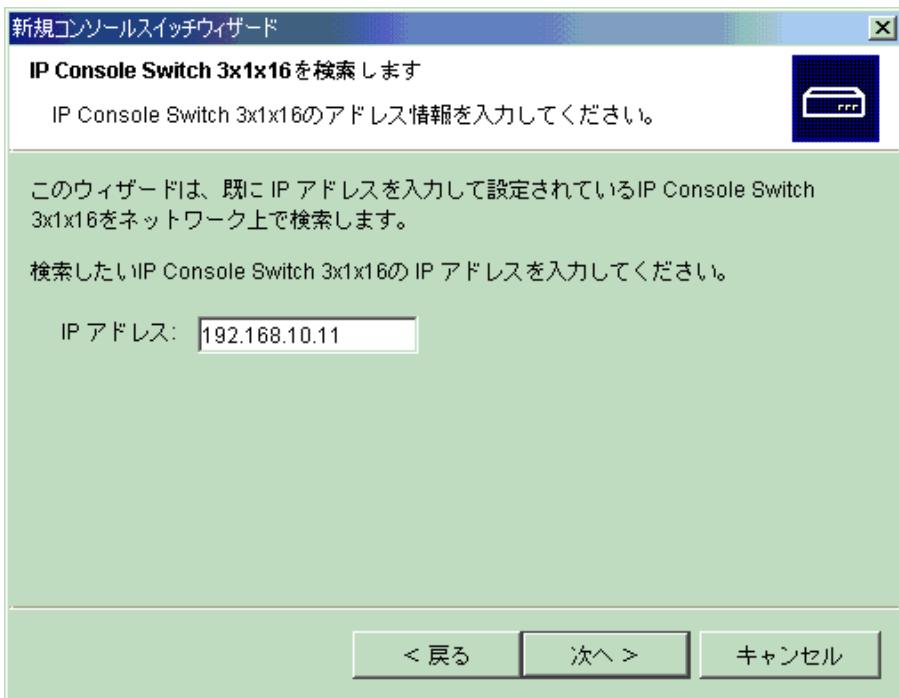


図5-8 : [IPコンソール スイッチの設定]ウィンドウ

5. IPコンソール スイッチのアドレス情報を入力し、[次へ]をクリックします。IPコンソール ビューアが、コンソール スイッチと、そのコンソール スイッチに関連したすべてのインターフェース アダプタIDとサーバ名を検索します。[検出されました]ウィンドウが表示されます。

6. [次へ]をクリックします。少なくとも1つのインターフェース アダプタに接続されているカスケードスイッチが検出されると、[カスケードスイッチ情報の入力]ウィンドウが表示されます。

- a. [カスケードスイッチの割り当て]ダイアログ ボックスには、カスケードスイッチに接続されているすべてのインターフェース アダプタのリストが表示されます。コンソールスイッチが接続されている各インターフェース アダプタに対して、プルダウンリストから選択して該当するコンソールスイッチを関連付けます。
  - b. [既存のカスケードスイッチ]ダイアログ ボックスには、データベースに定義されている現在のすべてのコンソールスイッチのリストが表示されます。リストの内容を変更するには、[追加]、[変更]、または[削除]をクリックします。

IPコンソール ピュアは、(ユーザが定義できる)コンソールスイッチ タイプで指定したサーバだけを検索します。

[既存のカスケードスイッチ]リストにカスケードスイッチを追加した後は、カスケードスイッチを選択して[変更]または[削除]をクリックすることで、表示されるカスケードスイッチを変更または削除できます。

-または-

任意のインターフェース アダプタに接続されているカスケードスイッチが検出されない場合は、[ウィザードの完了]ウィンドウが表示されます。[完了]をクリックして終了し、メイン ウィンドウに戻ります。

7. [次へ]をクリックします。[新規コンソールスイッチ ウィザードの完了]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックして終了し、メイン ウィンドウに戻ります。リスト ピューにコンソールスイッチが表示されます。

## コンソールスイッチの検出

コンソールスイッチを検出するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[検出]の順に選択します。[検出ウィザード]ウィンドウが表示されます。

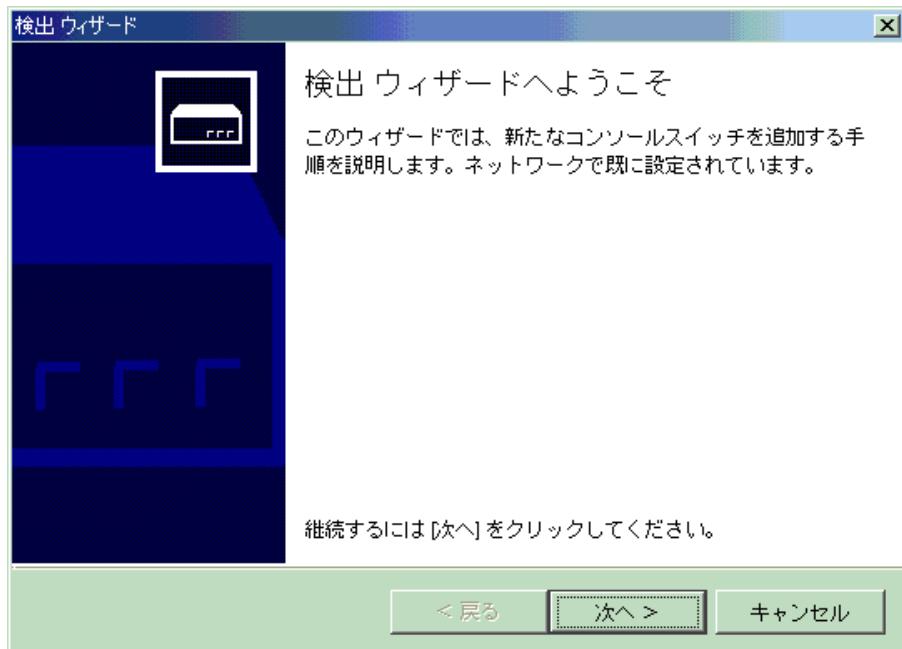


図5-9：[検出 ウィザード] ウィンドウ

- [次へ]をクリックします。[アドレス範囲の入力]ウィンドウが表示されます。

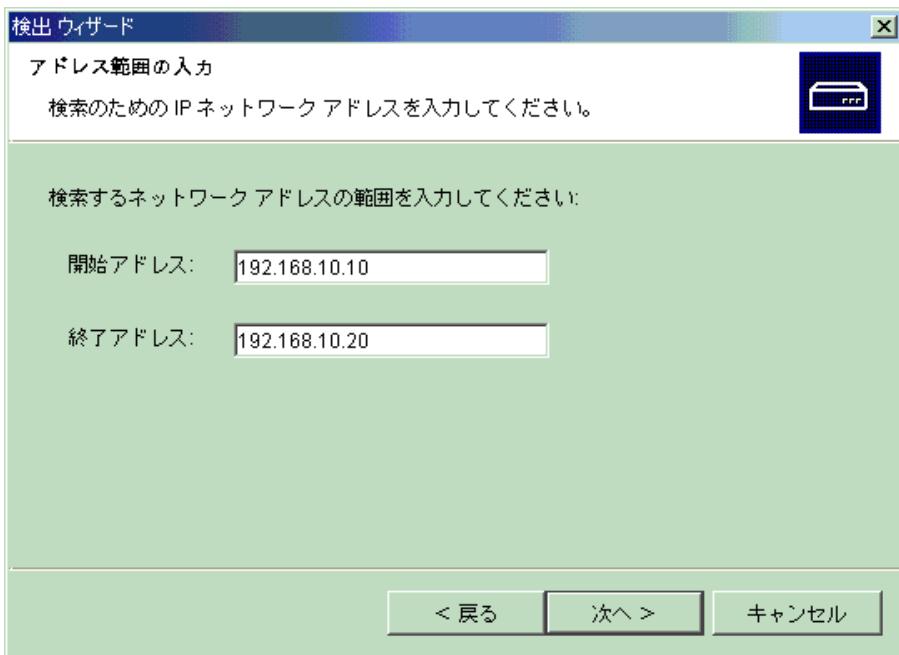


図5-10 : [アドレス範囲の入力]ウィンドウ

3. [開始アドレス:] フィールドと[終了アドレス:] フィールドに、ネットワークで検索する有効なネットワーク IP アドレス範囲を入力します。IP アドレスのドット表記法 (xxx.xxx.xxx.xxx) を使用します。
4. [次へ] をクリックします。[ネットワークの検索中] ウィンドウが表示されます。ウィザードが新しいコンソール スイッチを検索している間、進捗状況を示すバーが表示されます。



図5-11：[ネットワークの検索] ウィンドウ

5. 新しいコンソールスイッチが検出されると、[コンソールスイッチの選択]ウィンドウが表示されます。このウィンドウから、ローカルデータベースに追加するコンソールスイッチを選択できます。手順6へ進んでください。

-または-

新しいコンソールスイッチが検出されない場合や追加プロセスの途中で[停止]を押した場合は、[検出ウィザードは正しく実行されませんでした]ウィンドウが表示されます。[完了]をクリックして終了します。この場合、コンソールスイッチを手動で追加する必要があります。詳細については、この章の「コンソールスイッチの追加（IPアドレスを割り当てない場合）」を参照してください。

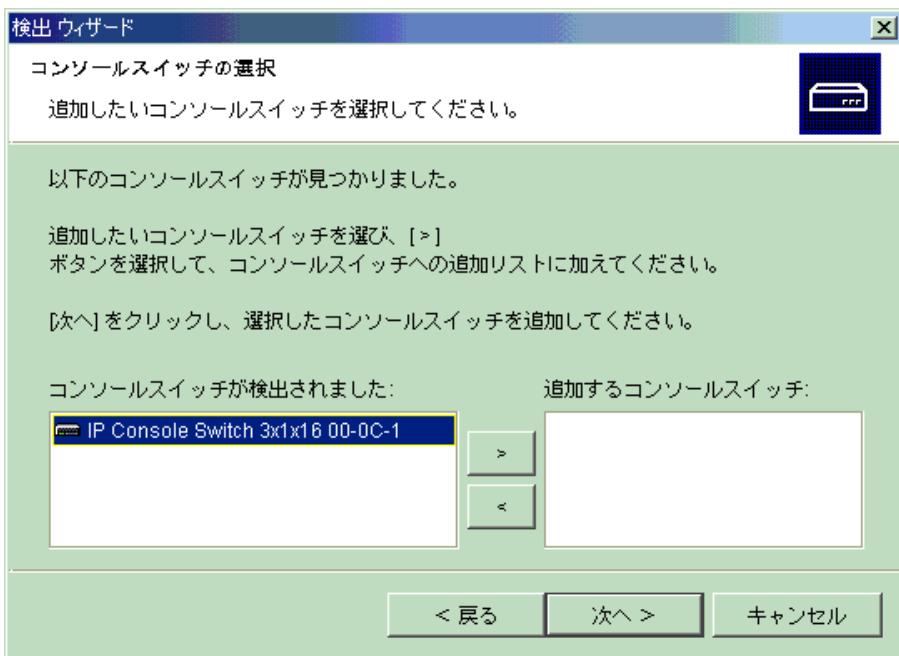


図5-12 : [コンソールスイッチの選択]ウィンドウ

6. [コンソール スイッチが検出されました:]ボックスから、追加するコンソール スイッチを選択し、>ボタンをクリックして、選択したスイッチを[追加するコンソール スイッチ:]ボックスに移動します。追加するすべてのコンソール スイッチについて、手順を繰り返します。
7. [次へ]をクリックします。[コンソール スイッチの追加中]ウィンドウが表示されます。新しいコンソールスイッチをリストに追加している間、進捗状況を示すバーが表示されます。

選択したすべてのコンソール スイッチがローカル データベースに追加されると、[検出 ウィザードの完了]ウィンドウが表示されます。[完了]をクリックして終了し、メイン ウィンドウに戻ります。リスト ビューに、新しいコンソール スイッチが表示されます。

検出 ウィザードは、コンソール スイッチに接続されているサーバを自動的には検出しません。検出 ウィザードの実行後、[管理コンソール]で[再同期化]をクリックして、コンソールスイッチに接続されているサーバを検出する必要があります。

-または-

追加プロセスの途中で[停止]を押した場合も含めて、何らかの理由でローカルデータベースに追加できなかったコンソール スイッチがある場合は、[検出 ウィザードはすべてのコンソール スイッチを追加できません]ページが表示されます。このページには、選択したすべてのコンソール スイッチと各スイッチのステータスが表示されます。コンソール スイッチがローカル データベースに追加された場合は、ステータスが表示されますが、追加されなかった場合は、プロセスが失敗した原因が示されます。リストの確認が終わったら、[完了]をクリックします。

**注:** 検出されたコンソール スイッチと同じIPアドレスをもつコンソール スイッチがすでにローカル データベースに存在する場合、検出されたコンソール スイッチは無視され、次回の[検出 ウィザード] ウィンドウには表示されません。

# 6

## コンソールスイッチへのアクセス

**[コンソールスイッチ]**アイコンをクリックすると、現在、ローカルデータベースで定義されているコンソールスイッチのリストが表示されます。

コンソールスイッチにアクセスするには、まず、有効なパスワードとユーザ名を使用して、Secure Management Protocol経由でコンソールスイッチにログインする必要があります。コンソールスイッチにログインすると、IPコンソールビューアはユーザ名とパスワードをメモリキャッシュに保存します。

**注：**ログイン証明書は消去できます。ログイン証明書の消去について詳しくは、この章の「ログイン証明書の消去」の項を参照してください。

コンソールスイッチにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. **[コンソールスイッチ]**アイコンをクリックして、**[選択]**ビューにコンソールスイッチを表示します。

2. 希望するコンソールスイッチをダブルクリックします。

-または-

コンソールスイッチを選択して、**[管理コンソールスイッチ]**アイコンを選択します。

-または-

コンソールスイッチを右クリックし、ポップアップリストから**[管理コンソールスイッチ]**アイコンを選択します。

-または-

**[コンソールスイッチ]**アイコンをクリックして、**Enter**キーを押します。

ログインダイアログボックスが表示されます。

3. パスワード プロンプトが表示されます。有効なユーザ名とパスワードを入力します。新しいユーザ名とパスワードが作成されていない場合、デフォルトのユーザ名はAdmin（大文字と小文字を区別）、デフォルト パスワード フィールドは空白です。

**重要：**同じIPコンソール ビューア セッションで、以前にそのコンソール スイッチにログインしている場合は、パスワード プロンプトは表示されません。

4. [OK]をクリックします。[コンソール スイッチの管理]ウィンドウが表示されます。コンソール スイッチの管理については、第7章を参照してください。

-または-

ログインしないで終了するには、[キャンセル]をクリックします。

## ログイン証明書の消去

ログイン証明書の消去機能は、保存されているログイン証明書を消去し（存在する場合）、次回ユーザがビデオ セッション ビューアまたは[コンソール スイッチの管理]を起動したとき、ログイン プロンプトを表示します。

ログイン証明書を消去するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[ログイン アカウント情報のクリア]の順に選択すると、メッセージが表示されます。
2. [了解]をクリックして終了します。

## コンソールスイッチの管理

新しいコンソールスイッチをインストールしたら、ユニットパラメータの表示や設定、現在アクティブなビデオセッションの表示や制御を行うことができます。また、コンソールスイッチの再起動、アップグレードなどさまざまな制御機能を実行できます。[コンソールスイッチの管理]ウィンドウは、[設定]、[状態]、[ツール]という3つのタブで構成されます。

### コンソールスイッチパラメータの表示と設定

[設定]タブを使用すると、IPコンソールスイッチの各種パラメータをカバーする拡張可能なカテゴリリストを表示できます。カテゴリを選択すると、そのカテゴリに関連するパラメータが、コンソールスイッチやデータベースから読み込まれます。ユーザは、それらのパラメータを変更して、Secure Management Protocol経由で変更をIPコンソールスイッチに送信できます。

### グローバル、ネットワーク、およびセッションパラメータの変更

[全体]カテゴリでは、IPコンソールスイッチの[製品種別]、[シリアル番号]、[言語]設定を表示できます。

[シリアル番号 ( EID )] フィールドには、IP コンソールスイッチ ハードウェアの情報とそのコンソールスイッチに付けられた EID が表示されます。

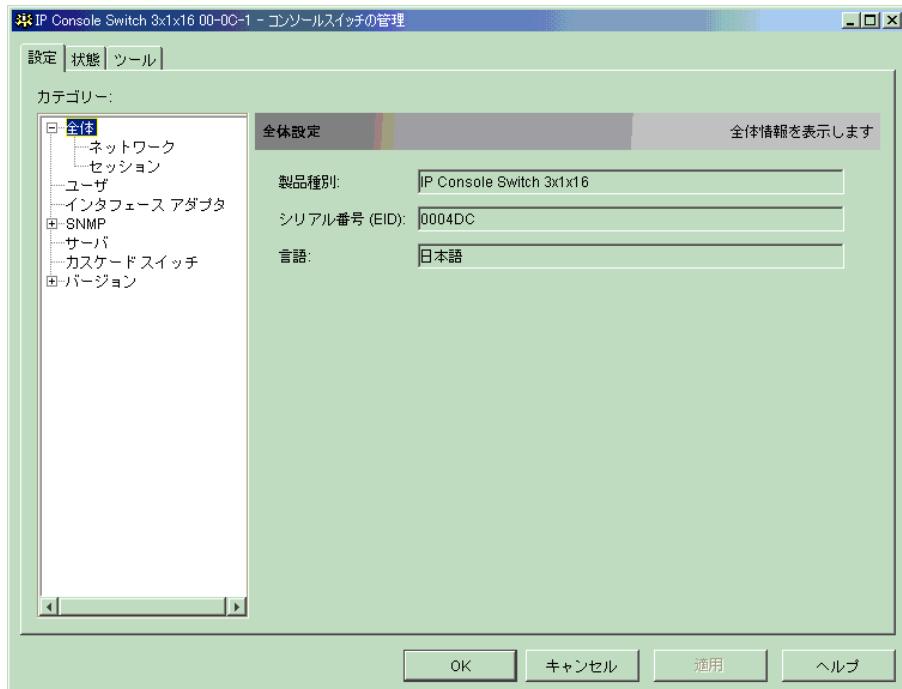


図7-1 : [全体] カテゴリー

[ネットワーク]サブカテゴリでは、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MACアドレス、LAN速度、Bootp設定などのネットワーク設定を表示できます。

注：[ネットワーク]サブカテゴリでIPアドレスを変更する場合、正常に動作するためにコンソールスイッチの[プロパティ]ウィンドウにあるIPアドレスも変更する必要があります。

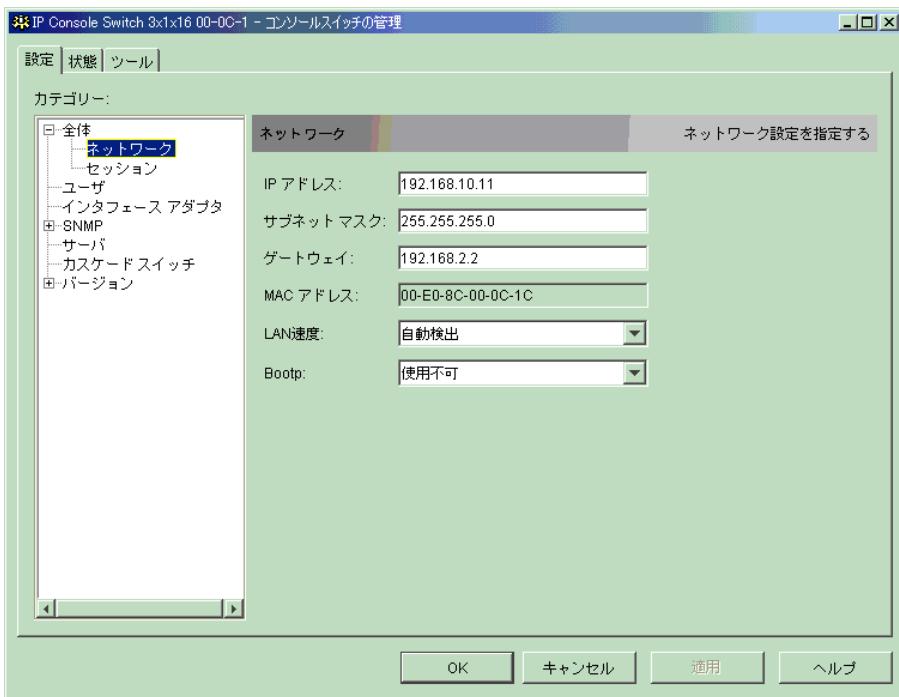


図7-2：[ネットワーク]サブカテゴリ

[セッション]サブカテゴリでは、アクティブなビデオセッションタイムアウトを指定できます。コンソールスイッチは、[ビデオセッションタイムアウト]で指定した時間(分単位)が経過した非アクティブなビデオセッションを終了します。また、このサブカテゴリでは、[キーボード/マウス暗号化レベル]も表示できます。

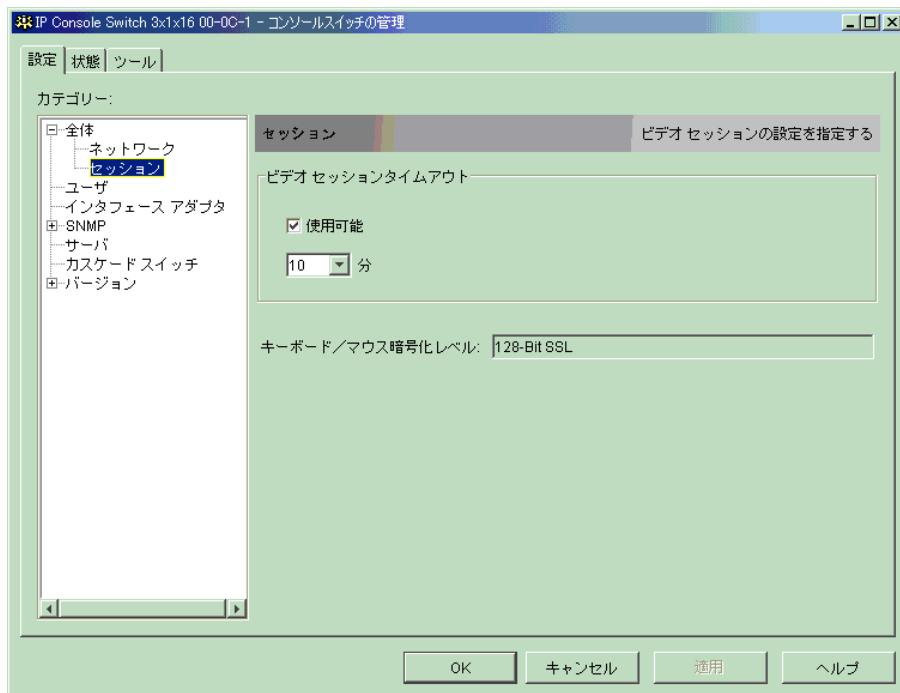


図7-3: [セッション]サブカテゴリ

## ユーザ アカウントの設定

[ユーザ]カテゴリでは、ユーザ アカウントを設定できます。[ユーザ]カテゴリを初めて選択すると、[コンソールスイッチの管理]はコンソールスイッチからユーザ名と現在のアクセスレベルのリストを取得して表示します。このリストで、ユーザを追加、変更、または削除できます。割り当てる事のできるアクセスレベルは、AdminとUserです。[アクセスレベル]では、ユーザに個々のサーバへのアクセス権限を割り当てる事ができます。

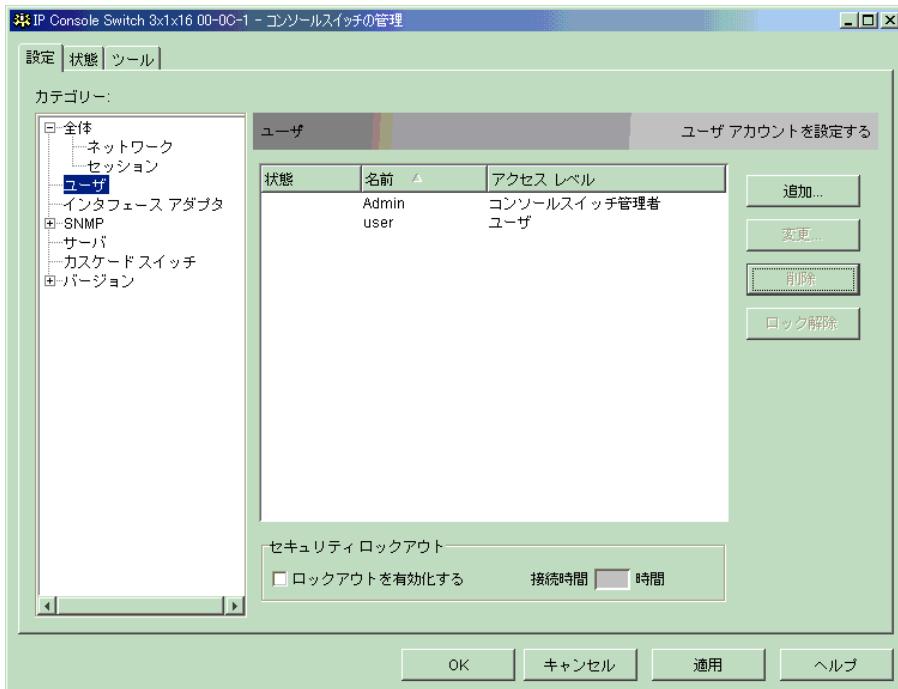


図7-4 : [ユーザ]カテゴリ

セキュリティ ロックアウト機能によって、無効なパスワードを5回続けて入力したユーザをロックアウトすることができます。[ユーザ]カテゴリでは、[セキュリティ ロックアウト]の設定、ならびにユーザのロックの解除を行うことができます。

表7-1：ユーザ アクセス レベル権限

操作	Admin	User
グローバルおよびネットワーク設定（セキュリティモード、タイムアウト、およびSNMP）	あり	なし
再起動	あり	なし
フラッシュアップグレード	あり	なし
ユーザ アカウントの管理	あり	なし
ポート設定	あり	なし
サーバステータスの監視	あり	なし
ターゲット デバイスへのアクセス	あり	Adminによって割り当て

## ユーザの追加と変更

ユーザを追加したり、変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [ユーザ]カテゴリでユーザを選択します。
2. 新しいユーザを追加する場合は、[追加]をクリックします。[ユーザの追加]ダイアログボックスが表示されます。  
-または-

現在のユーザを変更する場合は、[変更]をクリックします。[ユーザの変更]ダイアログボックスが表示されます。



図7-5 : [ユーザの追加]ダイアログボックス

3. (ユーザが割り当てた)ユーザ名とパスワードを入力し、[パスワードの確認]フィールドにパスワードを再入力してパスワードを確認します。

**重要:** パスワードの長さは5~16文字で、英数字（大文字と小文字）を使用できます。

**注:** [アクセス権]ボタンは、[アクセスレベル]プルダウンリストから選択したときだけ有効になります。

4. [アクセス レベル] プルダウン リストから、ユーザに該当するアクセス レベルを選択します。[User]オプションを選択すると、[アクセス権]ボタンが有効になります。
  - a. そのユーザについて、個々のサーバを選択するために、[アクセス権]をクリックします。[ユーザのアクセス権]ダイアログ ボックスが表示されます。

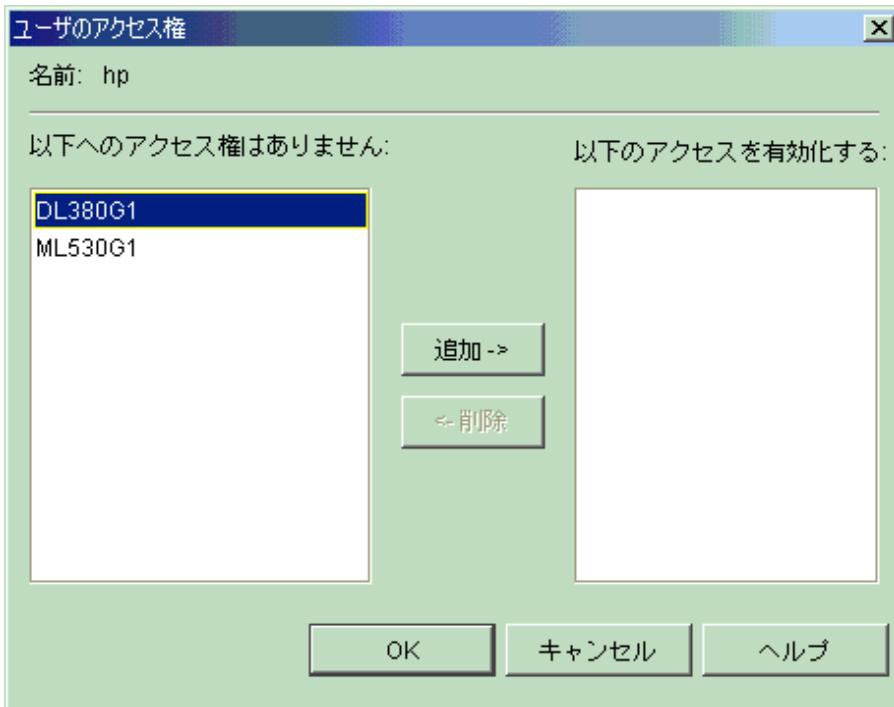


図7-6 : [ユーザのアクセス権]ダイアログ ボックス

- b. 左側のカラムから、このユーザがアクセス権をもつ必要があるサーバを選択して、[追加]をクリックします。
- c. 右側のカラムから、ユーザのアクセス権を削除する必要のあるサーバを選択し、[削除]をクリックします。
- d. このユーザに該当するサーバ アクセスが右側のカラムに表示されるまで手順bと手順cを繰り返し、[OK]をクリックします。

5. [OK]をクリックして設定を保存しメイン ウィンドウに戻るか、または[キャンセル]をクリックして終了します。

## ユーザの削除

ユーザを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [ユーザ]カテゴリでユーザを選択します。
2. [削除]をクリックします。[削除の確認]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [はい]をクリックして、削除を確認するか、または[いいえ]をクリックして、ユーザを削除しないでウィンドウを終了します。

## ユーザアカウントのロックとアンロック

あるユーザが無効なパスワードを5回続けて入力すると、そのアカウントは、セキュリティロックアウト機能によって一時的に無効にされます。ユーザが再度ログインしようとすると、ソフトウェア クライアント アプリケーションにより、エラー メッセージが表示されます。すべてのアカウント (UserおよびAdmin) は、このロックアウトポリシーの対象となります。

Admin権限を持つユーザは、アカウントがロックされる時間 (1~99) を指定できます。[ロックアウトを有効化する]が選択されていない場合は、セキュリティ ロックアウト機能は無効になり、どのユーザもロックアウトされません。

アカウントがロックされると、[接続時間]が経過するか、コンソールスイッチの電源が再投入されるか、または[コンソールスイッチの管理]を介して管理者がアカウントのロックを解除するまでは、アカウントはロックされたままになります。

## アカウントのロック解除

アカウントのロックを解除するには、以下の手順に従ってください。

1. [ユーザ]カテゴリでユーザを選択します。
2. [ロック解除]をクリックします。ユーザ名の横の[ロック]アイコンが消えます。
3. [OK]または[適用]をクリックすると、そのユーザは再びログインできるようになります。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして、保存しないで終了します。

## セキュリティ ロックアウト時間の指定

ユーザ アカウントのロックアウトを継続する時間を指定するには、以下の手順に従ってください。

1. [ユーザ]カテゴリでユーザを選択します。
2. [ロックアウトを有効化する]をチェックします。
3. [ロックアウトを有効化する]フィールドに、ユーザのロックアウトを継続する時間数 (1 ~ 99) を入力します。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

## セキュリティ ロックアウトの無効化

セキュリティ ロックアウト機能を無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. [ユーザ]カテゴリでユーザを選択します。
2. [ロックアウトを有効化する]の選択を解除します。
3. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

注: [セキュリティ ロックアウト]を無効にしても、すでにロックアウトされているユーザの状態は変わりません。

## インターフェース アダプタの表示

[インターフェース]カテゴリには、IPコンソールスイッチに接続されているインターフェースアダプタとそのステータスのほか、[ポート]、インターフェースアダプタの[ID]、[タイプ]、および[言語]のリストが表示されます。緑色の丸は、そのインターフェースアダプタがオンラインであることを示します。黄色の丸は、そのインターフェースアダプタがアップグレード中であることを示します。赤色のXはオフラインであることを示します。

**注：**インターフェースアダプタのステータス、[ポート]、[ID]、[タイプ]および[言語]を示す各カラムは、カラム名を選択するとソートできます。

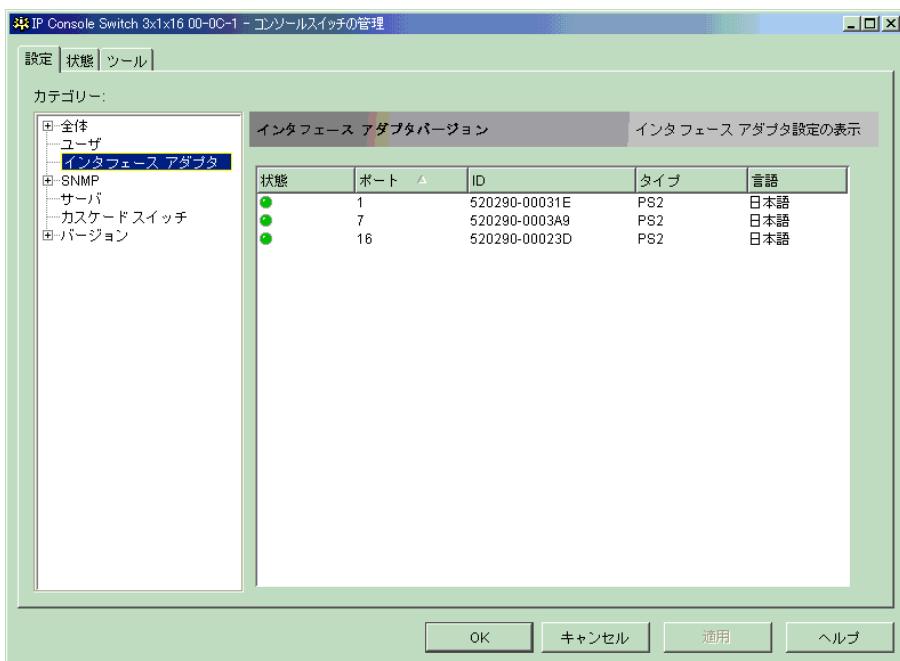


図7-7 : [インターフェースアダプタ]カテゴリ

## SNMPの有効化と設定

SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）は、ネットワーク管理アプリケーションとコンソール スイッチとの間で管理情報を交信する際に使用されるプロトコルです。他のSNMPマネージャは、MIB-II（Management Information Base）およびエンタープライズMIBのpublic部分にアクセスすることにより、コンソール スイッチと通信できます。MIB-IIは、多くのSNMPサーバがサポートする標準MIBです。

[SNMP]カテゴリを初めて選択すると、[コンソール スイッチの管理]はユニットからSNMPパラメータを取得します。[SNMP]カテゴリでは、システム情報やコミュニティ ストリングを入力したり、コンソール スイッチを管理することのできる管理ステーションを指定したりすることができます。また、ユーザは、コンソール スイッチからSNMPトラップを受信することができます。[SNMPの有効化]を選択すると、ユニットはUDP（User Datagram Protocol）ポート161を介して、SNMP要求に応答します。ポート161は、SNMPメッセージを送受信するために使用される標準UDPポートです。

**注：**[コンソール スイッチの管理]は、SNMPをセキュア トンネル内で使用してコンソール スイッチを管理します。このため、UDPポート161は、ファイアウォール上で開放できます。他社製のSNMPベース管理ソフトウェアを使用してコンソール スイッチを監視するには、UDPポート161を開放しなければなりません。

最大4つのSNMP対応マネージャを定義でき、デフォルトですべてのIPアドレスが空白になっています。4つの項目すべてを空白のままにすると、（正しいSNMPコミュニティ ストリングを持っている）すべてのIPアドレスがIPコンソール スイッチに読み取り/書き込みアクセスできるようになります。項目が空白でないSNMP対応マネージャが存在する場合は、定義されたSNMP対応マネージャだけがアクセスできます。

SNMP対応マネージャの設定は、IPコンソールビューアでIPコンソールスイッチを表示または管理する機能には影響しません。

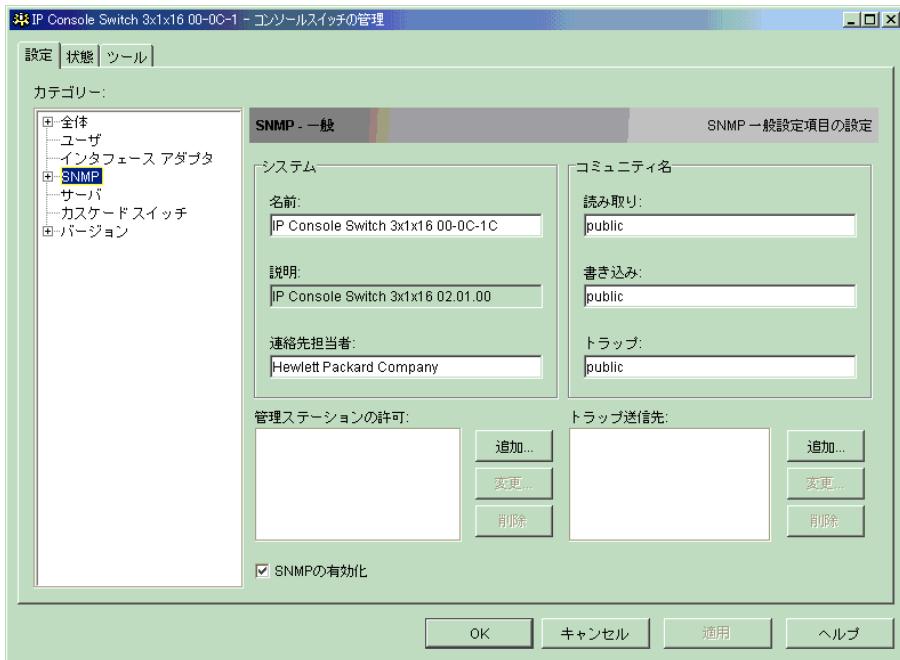


図7-8 : [SNMP]カテゴリ

## 一般的なSNMP設定

一般的なSNMP設定を行うには、以下の手順に従ってください。

1. [SNMP]カテゴリを選択します。
2. [SNMPの有効化]をチェックし、コンソール スイッチがUDPポート161経由のSNMP要求に応答するように設定します。
3. [システム]セクションで、[名前]フィールドにシステムの完全修飾ドメイン名、[説明]フィールドに説明、[連絡先担当者]フィールドに連絡先担当者を入力します。
4. [読み取り]フィールド、[書き込み]フィールド、および[トラップ]フィールドに、コミュニティ名を入力します。これらのフィールドは、SNMP動作に使用するコミュニティストリングを指定します。読み取りストリングと書き込みストリングは、UDPポート161経由のSNMPだけに適用され、コンソール スイッチのアクセスを保護するパスワードとして機能します。値の長さは最大64文字です。
5. コンソール スイッチを監視できるSNMP管理ステーション（たとえば、Insightマネージャ7）を最大4つまで追加するか、フィールドを空白のままにして任意のSNMP管理ステーションがIPコンソール スイッチを管理できるようにします。

**注：**[管理ステーションの許可]フィールドにIPアドレスを追加した場合でも、ユーザはIPコンソール ピュアを使用してIPコンソール スイッチを管理できます。

- a. [追加]をクリックして、SNMP対応マネージャを定義します。[管理ステーションの許可]ダイアログ ボックスが表示されます。
- b. 追加したいSNMP管理ステーションのIPアドレスを入力します。
- c. [OK]をクリックして、SNMP管理ステーションを追加します。[管理ステーションの許可]フィールドに、IPアドレスが表示されます。

6. [トラップ送信先]フィールドに、このコンソール スイッチがトラップを送信するSNMPトラップ送信先を最大4つまで追加します。
  - a. [追加]をクリックして、トラップ送信先を定義します。[トラップ送信先]ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. 追加したいトラップ送信先のIPアドレスを入力します。
  - c. [OK]をクリックして、トラップ送信先を追加します。再起動の警告が表示されます。

7. [OK]をクリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

-または-

[適用]をクリックして設定を保存し、開いたウィンドウで作業を続けます。

-または-

[キャンセル]をクリックして、保存を行わないでウィンドウを終了します。

## 個々のSNMPトラップの有効化

SNMPトラップとは、スイッチで処置が必要な異常イベントが発生したことを示すために、IPコンソールスイッチが管理ステーションに送信する通知のことです。リストの該当するチェックボックスを選択解除または選択することにより、管理ステーションに送信されるSNMPトラップの種類を指定できます（デフォルトでは、[SNMP認証エラー トラップ]は選択されません）。

[トラップ]カテゴリを初めて選択すると、[コンソールスイッチの管理]は、SNMPトラップのリストをコンソールスイッチから取得して表示します。[すべてを有効化]または[すべてを無効化にする]を選択すると、リスト全体を選択または選択解除できます。

注：IPコンソールビューアCDには、Insightマネージャ7や他のSNMP管理ステーションが正しくSNMPトラップを受信できるようにするCPQKVM.MIBファイルが収められています。

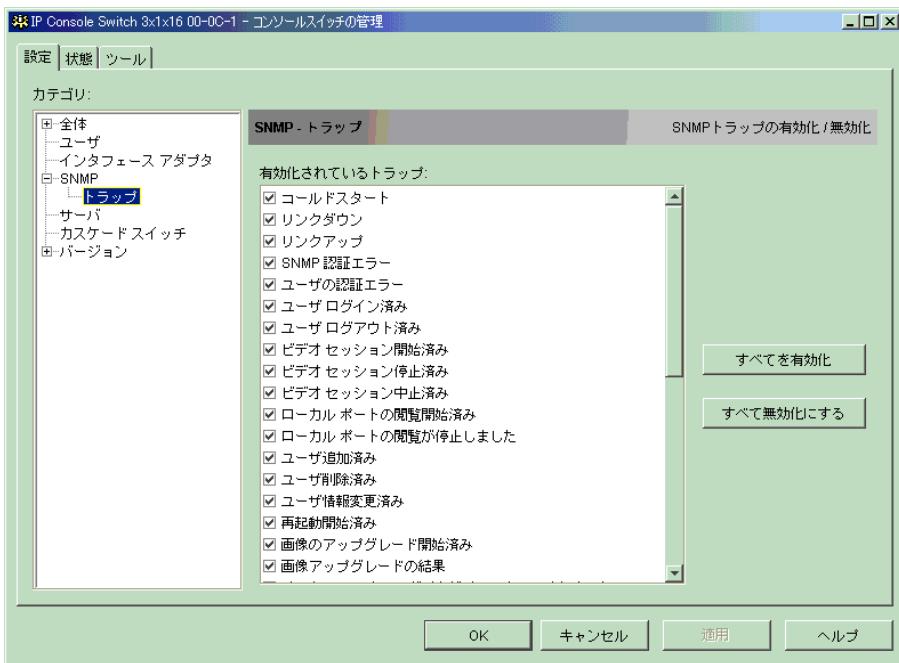


図7-9：[SNMP]の[トラップ]サブカテゴリ

## [サーバ]カテゴリの表示

[サーバ]カテゴリを初めて選択すると、[コンソールスイッチの管理]は、IPコンソールビューアのデータベースに情報が保存されているサーバの名前、および選択されているコンソールスイッチとそのサーバの接続方式に関する情報を取得して表示します。[サーバ]カテゴリでは、新しく検出されたサーバのリストを表示したり、IPコンソールビューアのデータベースを更新したりすることができます。

[接続]カラムには、インターフェースアダプタまたはカスケードスイッチとの現在のサーバ接続が表示されます。サーバがインターフェースアダプタに接続されている場合、[接続]カラムにはインターフェースアダプタIDが表示されます。サーバがカスケードスイッチに接続されている場合は、カスケードスイッチとそのすべてのチャネルが表示されます。

[接続]カラムでインターフェース アダプタまたはカスケード スイッチを選択すると、**ビデオセッションビューア**が表示されます。

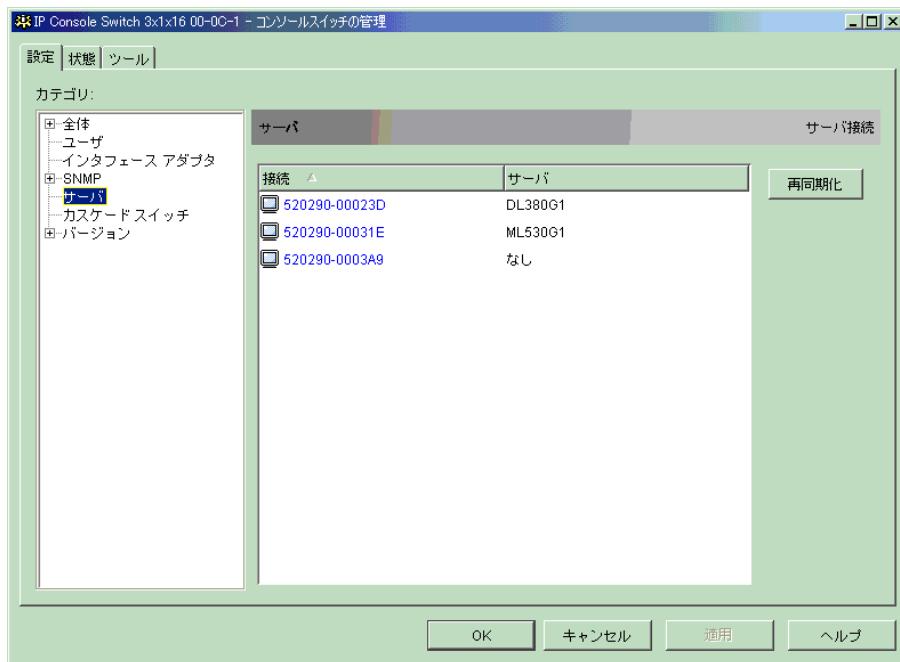


図7-10 : [サーバ]カテゴリ

## サーバリストの再同期化

IPコンソール ビューア クライアントのデータベースとコンソールスイッチに格納されているデータベースとの再同期化を定期的に行うことができます。ローカルアナログワークステーションでサーバ名が変更された場合や、インターフェースアダプタが追加または取り外された場合、再同期化を行なうことができます。

**注:** この手順では、ご使用のIPコンソール ビューア クライアントだけが再同期化されます。複数のIPコンソール ビューア クライアントがある場合は、再同期化したローカルデータベースを保存して、他のIPコンソール ビューア クライアントにロードし、整合性を保つようにしてください。

サーバのリストを再同期化するには、以下の手順に従ってください。

1. [再同期化]をクリックします。[再同期化コンソールスイッチウィザードへようこそ]ウィンドウが表示されます。

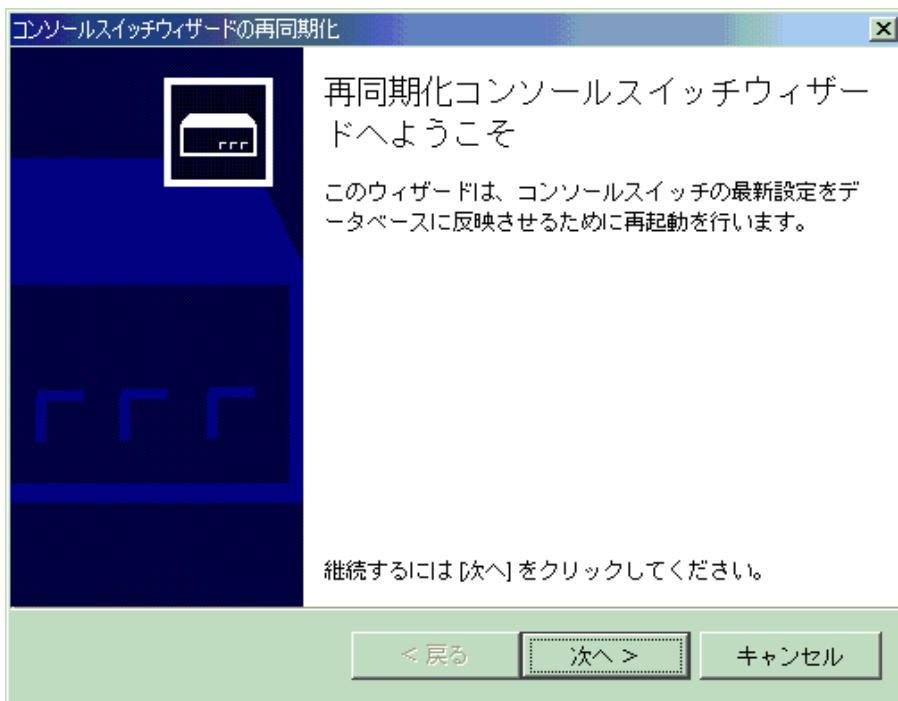


図7-11: [再同期化コンソールスイッチウィザードへようこそ]

2. [次へ]をクリックします。[警告]ウィンドウが表示されます。
3. (オプション) 電源が入っていないサーバがある場合は、[オフラインインターフェース アダプタを含めます]チェックボックスを選択します。

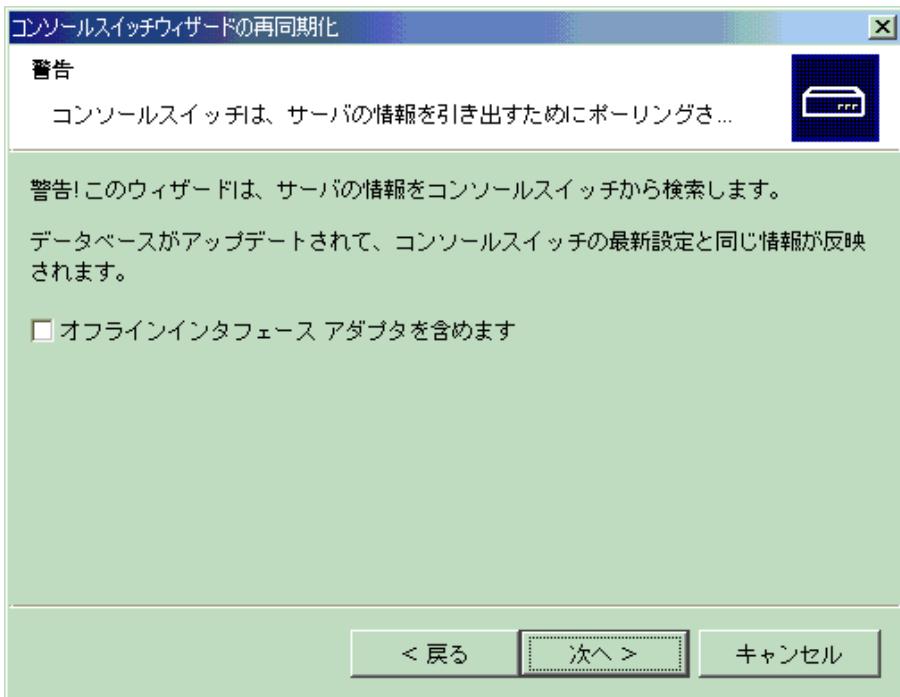


図7-12：再同期化の[警告]ウィンドウ

4. [次へ]をクリックします。進捗状況を示すバーが表示され、コンソールスイッチの情報を確認中であることを示します。

インターフェースアダプタに接続されているカスケードスイッチが検出されない場合は、[コンソールスイッチ再同期化ウィザードの完了]ページが表示されます。[完了]をクリックして終了します。

-または-

変更が検出されると、[変更内容が検出されました]ウィンドウが表示されます。

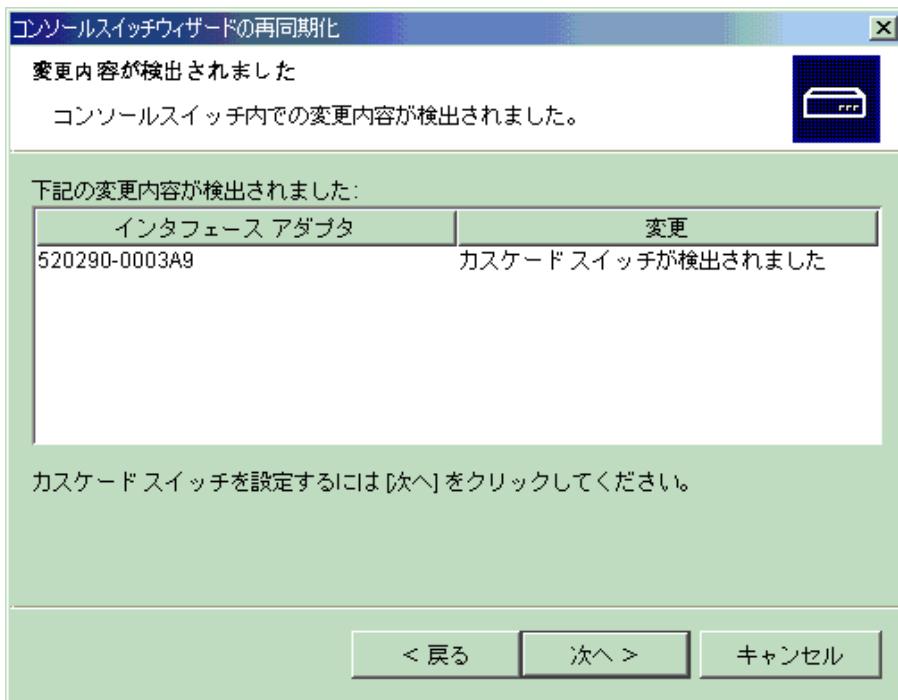


図7-13 : [変更内容が検出されました] ウィンドウ

5. [次へ]をクリックして、データベースを更新します。  
少なくとも1つのインターフェース アダプタに接続されているカスケード スイッチが検出されると、[カスケード スイッチの情報を入力する]ウィンドウが表示されます。プルダウンメニューから、コンソール スイッチに接続されているカスケード スイッチの種類を選択します。選択したい種類が提供されていない場合は、[追加]をクリックして追加することができます。詳細については、この章の「カスケード スイッチ接続の設定」の項を参照してください。
6. [次へ]をクリックします。[再同期化コンソールスイッチウィザードの完了]ウィンドウが表示されます。
7. [完了]をクリックして終了します。

## カスケードスイッチ接続の設定

[カスケードスイッチ]カテゴリでは、IPコンソールビューアのデータベース内のカスケードスイッチを表示、変更、追加できます。[カスケードスイッチの割り当て]リストには、データベース内のカスケードスイッチが現在接続されているインターフェースアダプタのIDだけが表示されます。

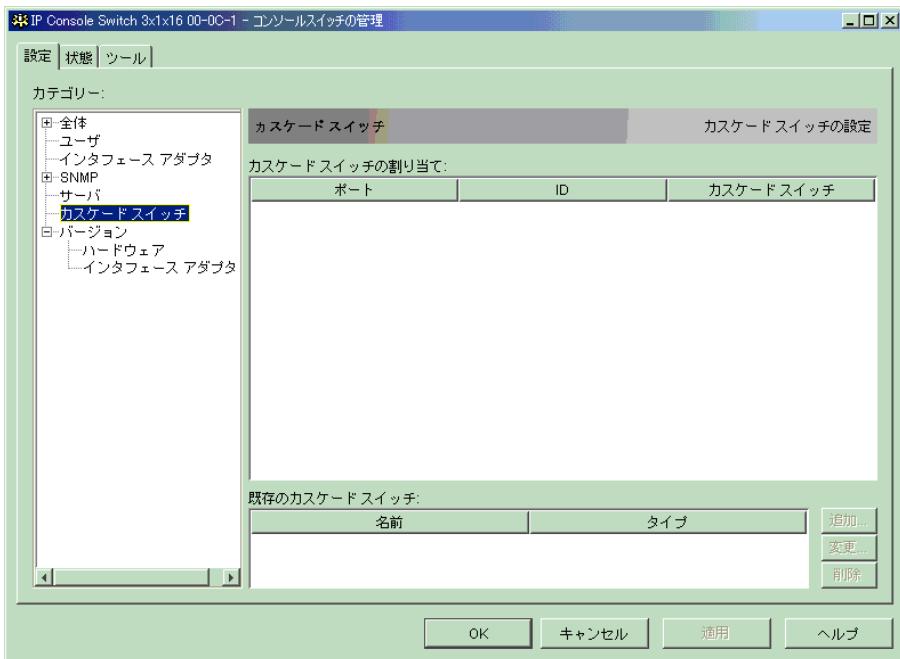


図7-14 : [カスケードスイッチ]カテゴリ

カスケード スイッチ接続を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. [カスケード スイッチ]カテゴリを選択します。
2. IDカラムの横にある[カスケード スイッチ]プルダウン リストを選択し、設定したいカスケード スイッチを選択して、割り当てたいコンソール スイッチ タイプを選択します。  
-または-  
プルダウン リストにコンソール スイッチが入っていない場合は、[追加]をクリックして[既存のカスケード スイッチ]リストにコンソール スイッチを追加します。[カスケード スイッチの追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
  - a. コンソール スイッチの名前を入力し、リストからコンソール スイッチ タイプを選択します。
  - b. [OK]をクリックしてコンソール スイッチを追加します。[既存のスイッチ]リストと[カスケード スイッチ]プルダウン リストに、コンソール スイッチが表示されます。
3. インタフェース アダプタごとに、手順2を繰り返します。
4. 終了したら、[適用]をクリックし、[OK]をクリックして、新しい設定を保存します。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして、保存しないで終了します。

## ファームウェアのアップグレード

コンソール スイッチまたはインターフェース アダプタのファームウェアをアップグレードできます。インターフェース アダプタは、個別または同時にアップグレードできます。アップグレードが始まると、現在のステータスを示すメッセージが表示されます。アップグレードの進行中に、別のアップグレードは開始できません。

[バージョン]カテゴリを初めて選択すると、[コンソールスイッチの管理]は、ユニット自体からファームウェアバージョンを取得します。[ハードウェア]サブカテゴリには、ユニット自体のバージョン情報が表示されます。[インターフェースアダプタ]サブカテゴリでは、システム内のすべてのインターフェースアダプタを表示およびアップグレードできます。

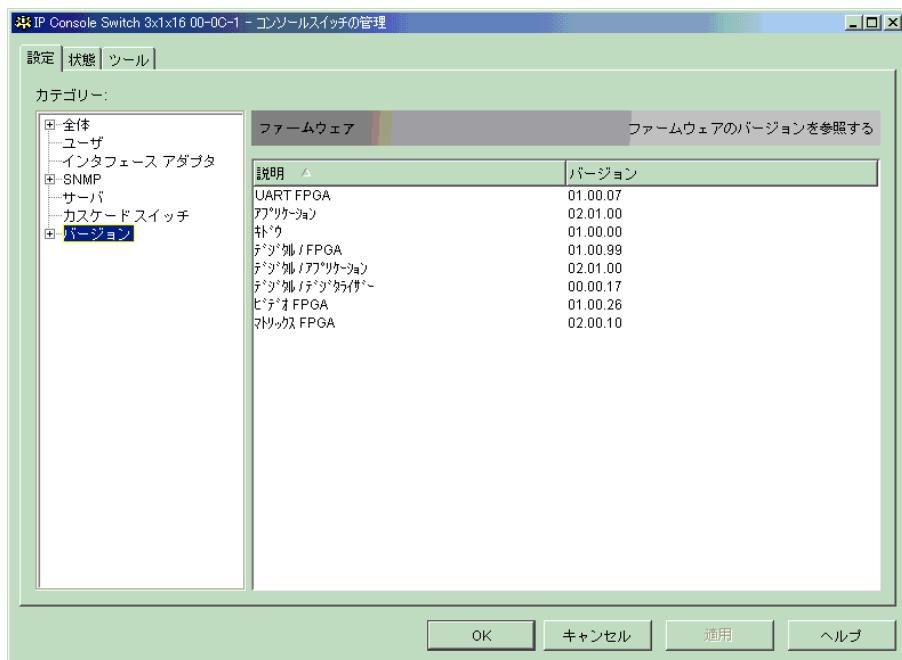


図7-15：[バージョン]カテゴリ

## 個々のインターフェースアダプタのファームウェアのアップグレード

個々のインターフェースアダプタのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. [コンソールスイッチの管理]で[設定]タブを選択します。
2. [バージョン]、[インターフェースアダプタ]の順に選択します。

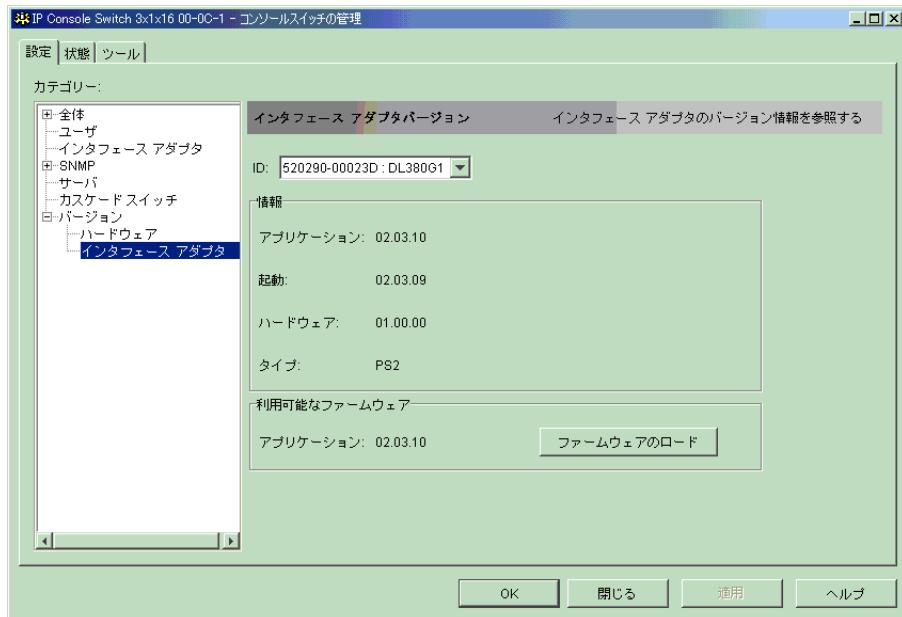


図7-16: [インターフェースアダプタバージョン]サブカテゴリ

3. ID プルダウン リストを選択し、ファームウェア情報を表示したいインターフェース アダプタを選択します。  
プルダウン リストに表示されるIDは、IDとサーバ名またはコンソールスイッチ名を組み合わせたものであり、インターフェース アダプタにどちらが接続されているかにより異なります。インターフェース アダプタに何も接続されていない場合は、プルダウンリストに[なし]と表示されます。  
インターフェース アダプタを選択すると、[情報]ボックスにファームウェア情報が表示されます。
4. [情報]ボックスの内容と、[利用可能なファームウェア]ボックスの内容を比べて、そのインターフェース アダプタでファームウェア アップグレードを利用できるかどうかを確認します。インターフェース アダプタをアップグレードする必要がある場合は、[ファームウェアのロード]をクリックします。アップグレード中は、[利用可能なファームウェア]ダイアログ ボックスの下に進行メッセージが表示され、[ファームウェアのロード]ボタンは使用できなくなります。アップグレードが完了すると、アップグレードを確認するメッセージが表示されます。
5. 各インターフェース アダプタをアップグレードするには、手順2~4を繰り返します。
6. 完了したら、[OK]をクリックします。

## ユーザセッションの管理

[コンソールスイッチの管理]の[状態]タブでは、現在アクティブなユーザ接続の表示および切断、ならびにユーザアカウントのロック解除を行うことができます。このタブでは、ユーザの接続時間、ユーザが接続しているサーバ名またはインターフェース アダプタ、ユーザのシステムアドレスを表示できます。

## ユーザステータスの制御

ユーザセッションを切断するには、以下の手順に従ってください。

4. [状態]タブを選択します。[現在進行中のビデオセッション]ウィンドウが表示されます。

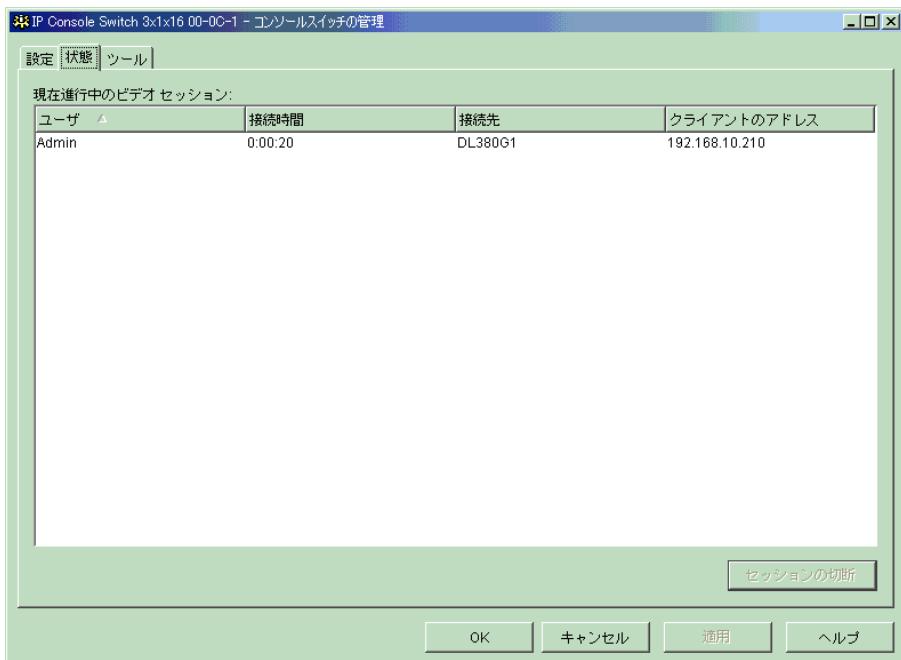


図7-17：[現在進行中のビデオセッション]ウィンドウ

2. 切断するユーザを選択します。
3. [セッションの切断]をクリックします。[切断の確認]ダイアログボックスが表示されます。
4. [いいえ]をクリックして切断を確認し、[OK]をクリックします。  
-または-  
[いいえ]をクリックして、切断コマンドを実行しないで終了します。

## [ツール]タブの使用

[ツール]タブでは、再起動、ファームウェアのアップグレード、設定ファイルとユーザ データベース ファイルの保存および復元を行うことができます。

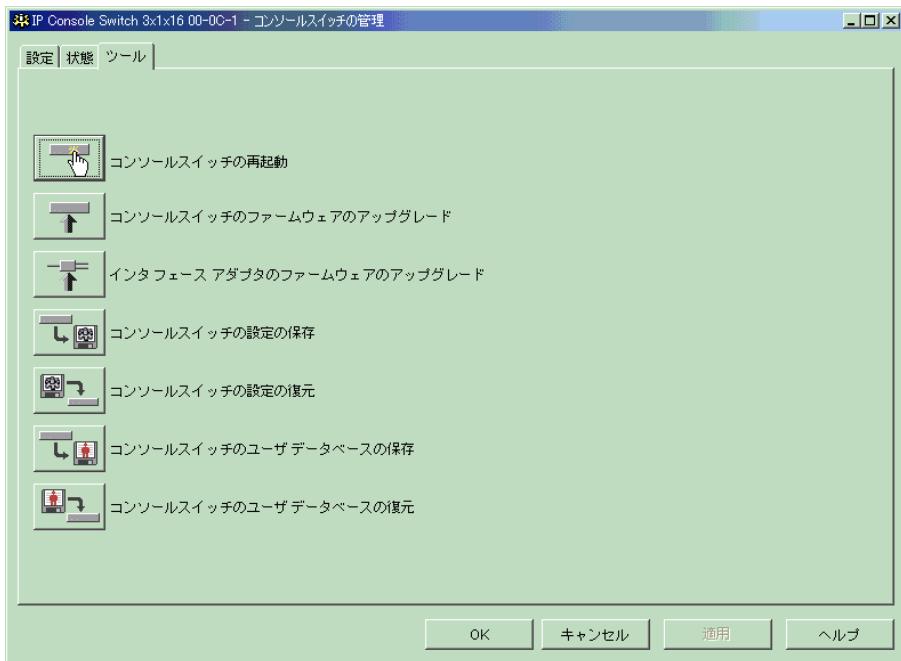


図7-18 : [ツール]タブ

## システムの再起動

[コンソール スイッチの管理] ウィンドウの[ツール]タブでは、IPコンソール スイッチを再起動できます。[コンソール スイッチの再起動]アイコンをクリックすると、コンソール スイッチは、すべてのアクティブ ユーザに切断メッセージをブロードキャストし、現在のユーザをログアウトし、ただちにコンソール スイッチを再起動します。

コンソール スイッチを再起動するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソール スイッチの再起動]アイコンをクリックします。再起動の警告が表示されます。
3. [はい]をクリックします。

## コンソール スイッチのファームウェアのアップグレード

IPコンソール スイッチまたはインターフェース アダプタのファームウェアをアップグレードできます。インターフェース アダプタは、個別または同時にアップグレードできます。

TFTPダウンロードを実行するには、TFTPを有効にする必要があります。詳細については、このキットに同梱のドキュメンテーションCDに収録されている『HP IPコンソール スイッチ ユーザ ガイド』を参照してください。

コンソールスイッチのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。



**注意：**アップグレード中は、コンソールスイッチの電源を切らないでください。このプロセスには最大10分かかります。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソールスイッチのファームウェアのアップグレード]アイコンをクリックします。[スイッチのファームウェアのアップグレード]ダイアログボックスが表示されます。ファームウェアが存在するTFTPサーバのIPアドレス、ファームウェアファイル名、およびディレクトリ位置を入力します。



図7-19：[コンソールスイッチのファームウェアのアップグレード]ダイアログボックス

3. [アップグレード]をクリックします。[アップグレード]ボタンが無効になり、進行メッセージが表示されます。TFTPファイル転送が完了すると、再起動を確認するプロンプトメッセージが表示されます。新しいファームウェアは、コンソール スイッチが再起動されるまで使用されません。
4. [はい]をクリックしてコンソール スイッチを再起動します。この場合、[コンソール スイッチのファームウェアのアップグレード]ダイアログ ボックスに、アップグレードが完了したことと再起動が完了したことを示す進行メッセージが表示されます。[閉じる]をクリックして終了します。  
-または-  
[いいえ]をクリックして、後で再起動します。

### 複数のインターフェース アダプタのファームウェアのアップグレード

複数のインターフェース アダプタのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [インターフェース アダプタのファームウェアのアップグレード]アイコンをクリックします。[インターフェース アダプタのファームウェアのアップグレード]ダイアログ ボックスが表示されます。

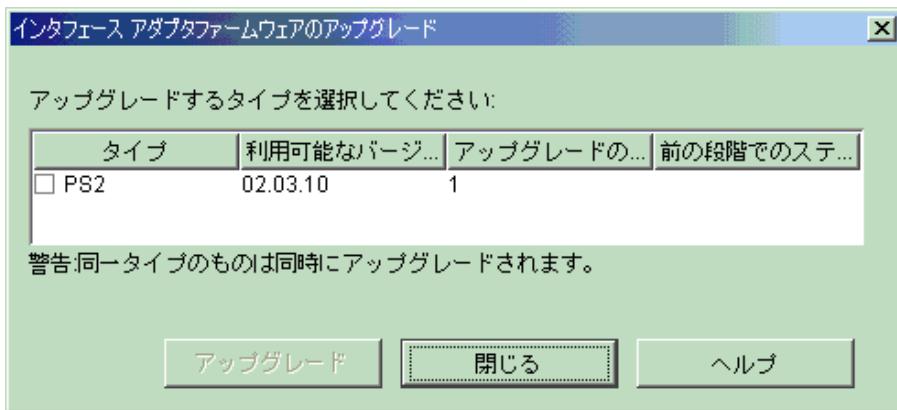


図7-20 : [インターフェース アダプタのファームウェアのアップグレード]ダイアログ ボックス

3. アップグレードしたいインターフェース アダプタのタイプ (PS2) の前にあるチェックボックスを選択します。すべてのインターフェース アダプタが最新のファームウェアになっている場合、タイプ (PS2) の前にあるチェックボックスは選択できません。

4. [アップグレード]をクリックします。[アップグレード]ボタンが無効になります。[最新の状態]カラムに[進行中]が表示され、そのインターフェースアダプタタイプのアップグレードが完了すると[正常に終了しました]が表示されます。選択したすべてのインターフェースアダプタがアップグレードされるまで、[ファームウェアのアップグレードは現在進行中です]メッセージが表示されます。
5. [閉じる]をクリックして終了します。

## コンソールスイッチの設定ファイルの管理

設定ファイルには、ネットワーク設定、インターフェースアダプタ設定、SNMP設定、接続されているサーバなど、コンソールスイッチのすべての設定が保存されています。また、設定ファイルは、新しいコンソールスイッチに書き込むことができるので、手動で新しいコンソールスイッチを設定する必要がなくなります。

**注:** ユーザアカウント情報は、設定ファイルではなく、ユーザデータベースに保存されます。詳細については、この章の「コンソールスイッチのユーザデータベースの管理」の項を参照してください。

### コンソールスイッチの設定の復元と保存

コンソールスイッチから読み出した設定をファイルに保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソールスイッチの設定の保存]アイコンをクリックします。[コンソールスイッチ設定の保存]ダイアログボックスが表示されます。
3. [参照]をクリックして、設定ファイルを保存する位置を選択します。[ファイル名:]フィールドに位置が表示されます。
4. [開く]をクリックして、[保存]をクリックします。コンソールスイッチから設定ファイルが読み出され、選択した位置に保存されます。進捗状況を示すウィンドウが表示されます。
5. 読み出しが完了すると、読み出し完了の確認を指示するメッセージが表示されます。[OK]をクリックして、メインウィンドウに戻ります。

## 設定ファイルのコンソール スイッチへの復元

設定ファイルをコンソール スイッチに復元するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソール スイッチ設定の復元]アイコンをクリックします。[コンソール スイッチ設定の復元]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [参照]をクリックして、保存されている設定ファイルの位置を選択します。[ファイル名] フィールドにファイル名と位置が表示されます。
4. [開く]をクリックして、[復元]をクリックします。設定ファイルがコンソール スイッチに書き込まれます。進捗状況を示すウィンドウが表示されます。
5. 書き込みが完了すると、書き込み完了の確認を指示するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして、メイン ウィンドウに戻ります。

## コンソールスイッチのユーザ データベースの管理

ユーザ データベース ファイルには、コンソールスイッチに割り当てられているすべてのユーザ アカウントが入っています。ユーザアカウント データベース ファイルを保存し、そのユーザアカウント ファイルを新しいコンソールスイッチに書き込むことにより、複数のコンソールスイッチにユーザを設定できます。

**注:** ユーザアカウント ファイルは暗号化されており、ユーザは、ファイル保存時にパスワードの作成を指示されます。新しいユニットにファイルを書き込む際は、このパスワードを入力する必要があります。

### コンソールスイッチのユーザ データベースの保存

コンソールスイッチからユーザ データベースを保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソールスイッチのユーザ データベースの保存]アイコンをクリックします。[コンソールスイッチのユーザ データベースの保存]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [参照]をクリックして、ユーザ データベース ファイルを保存する位置を選択します。[ファイル名:]フィールドに位置が表示されます。
4. [開く]をクリックして、[保存]をクリックします。コンソールスイッチからユーザ データベース ファイルが読み出され、特定の位置に保存されます。進捗状況を示すウィンドウが表示されます。
5. 読み出しが完了すると、読み出し完了の確認を指示するメッセージが表示されます。確認後、[コンソールスイッチのユーザ データベースの保存]ダイアログ ボックスが閉じ、[ツール]ウィンドウが表示されます。

## コンソール スイッチのユーザ データベースの復元

ユーザ データベース ファイルをコンソール スイッチに復元するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]タブを選択します。
2. [コンソール スイッチのユーザ データベースの復元]アイコンをクリックします。[コンソール スイッチのユーザ データベースの復元]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [参照]をクリックして、保存されているユーザ データベース ファイルの位置を選択します。[ファイル名:]フィールドにファイル名と位置が表示されます。
4. [開く]をクリックして、[復元]をクリックします。ユーザ データベース ファイルが、コンソール スイッチに書き込まれます。進捗状況を示すウィンドウが表示されます。
5. 書き込みが完了すると、書き込み完了の確認を指示するメッセージが表示されます。確認後、[コンソール スイッチのユーザ データベースの復元]ダイアログ ボックスが閉じて、[ツール]ウィンドウが表示されます。

## コンソール スイッチのプロパティの変更

コンソール スイッチの個々のプロパティを変更するには、選択ビューからコンソール スイッチを選択します。コンソール スイッチの[プロパティ]ダイアログ ボックスには、次に示す複数のタブがあります。

- **一般** - コンソール スイッチの名前、コンソール スイッチのタイプ、およびコンソール スイッチのアイコンを変更したり、コンソール スイッチにサイト、位置、または部門を割り当てることができます。
- **ネットワーク** - コンソール スイッチのブラウザ URLを確立できます。
- **情報** - 説明、連絡先担当者、コメントなど、コンソール スイッチに関する情報を入力できます。

コンソールスイッチのプロパティを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 選択ビューから、個々のコンソールスイッチを選択します。
2. メインメニューから[表示]、[プロパティ]の順に選択します。  
-または-  
[プロパティ]をクリックします。  
-または-

コンソールスイッチを右クリックし、ポップアップリストから[プロパティ]を選択します。[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



図7-21：コンソールスイッチの[プロパティ]ウィンドウ（[一般]）

3. コンソールスイッチの新しい名前を入力します。重複する名前を入力すると、警告が表示されます。
4. [タイプ]フィールドは、省略します。このフィールドは、コンソールスイッチでは読み出し専用です。
5. コンソールスイッチ用のアイコンを選択します。

6. (オプション) コンソール スイッチを割り当てる、[サイト]、[部門]、または[位置]を選択します。プルダウン リストに選択肢がない場合は、テキスト フィールドに新しく割り当てる名前を入力します。新しい名前を入力すると、その後割り当てを行う際に、プルダウン リストでそのオプションを使用できるようになります。
7. (オプション) [ネットワーク]タブを選択し、IPアドレスを入力します。このフィールドには、ドット表記のIPアドレスまたはドメイン名を入力できます。アドレスの重複は許可されず、フィールドを空白のままにすることはできません。最大128文字を入力できます。



図7-22 : [ネットワーク]タブ

8. (オプション) [情報]タブを選択し、ユニットの説明を入力します。このタブのフィールドには、任意の情報を入力できます。
9. 入力が完了したら、[OK]をクリックして新しい設定を保存します。保存を行わないで終了する場合には、[キャンセル]をクリックします。

## リモート サーバへのアクセス

ローカル データベース内のリモート サーバにアクセスするには、グループ ビューで[すべてのユニット] フォルダ選択するか、選択ビューから特定のリモート サーバをクリックします。リモート サーバを選択したら、ビデオ セッション ビューアからそのリモート サーバを管理できます。ビデオ セッション ビューアを使用すると、キーボード、モニタ、マウスでリモート サーバを制御できます。

また、個々のサーバをサムネイル ビューアに表示できるようにすることにより、カスタマイズされたサーバ リストをスキャンすることもできます。このビューには、一連のサムネイル フレームが表示され、それぞれのフレームには、サーバのスクリーン イメージの縮小版（この画面を介して対話形式の操作を行うことはできません）が表示されます。詳細については、第9章の「スキャン モードを使用した複数のサーバの表示」の項を参照してください。

リモート サーバにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. メイン ウィンドウで、[サーバ]アイコンをクリックします。
2. サーバ名をダブルクリックします。

-または-

サーバを選択して、[KVMセッションの開始]アイコンをクリックします。

-または-

サーバ名を右クリックして、[KVMセッションの開始]アイコンを選択します。

-または-

サーバをクリックして、Enterキーを押します。新しいウィンドウで、ビデオ セッション ビューアが起動します。

## ローカル データベースでのサーバの検索

ローカル データベースでサーバを検索するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン ウィンドウで[サーバ]アイコンをクリックします。
2. [検索]テキスト ボックスにカーソルを合わせて、検索情報を入力します。
3. [検索]をクリックします。
4. 検索結果を確認します。  
-または-  
[結果をクリアする]をクリックして、リスト全体を再度表示します。

## リスト ビューでのサーバの自動検索

リスト ビューでサーバを自動検索するには、以下の手順に従ってください。

1. [サーバ]アイコンをクリックし、リスト ビューの任意の項目をクリックします。
2. サーバ名の最初の数文字を入力します。入力した文字列で始まるいくつかのデバイス名のうち最初のデバイス名が強調表示されます。

検索をリセットして別のデバイスを検索できるようにするには、数秒待ってから、次のサーバの最初の数文字をタイプします。

---

## リモート サーバの管理

サーバに接続すると、**ビデオ セッション ビューア**と呼ばれる独立したウィンドウにサーバのデスクトップが表示されます。ローカル カーソルとサーバのカーソルの両方が表示されます。両方のカーソルが協調動作しない場合は、カーソルを調整しなければならない場合があります。また、カーソルの動作が途切れるように思える場合は、ビデオを調整しなければならない可能性があります。カーソルの調整については、この章の「マウスの位置の調整とリセット」の項を参照してください。

サーバの通常の機能には、**ビデオ セッション ビューア**からすべてアクセスできます。サーバへのマクロ コマンドの送信など、**ビデオ セッション ビューア**固有のタスクも実行できます。

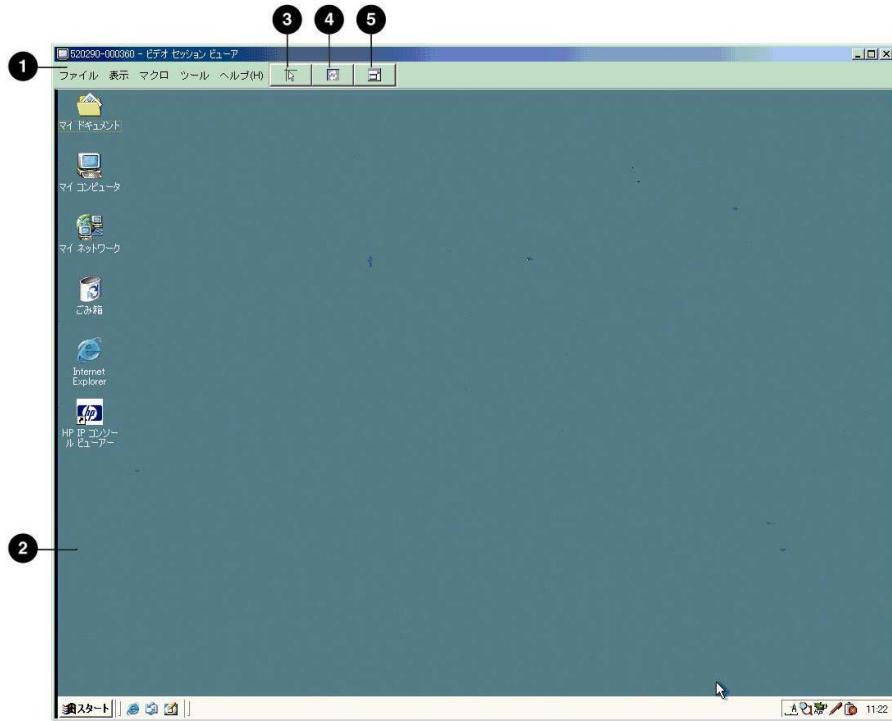


図9-1：ビデオ セッション ビューア

番号 説明

1	メニュー バー - ここから各機能にアクセスできます。
2	サーバ デスクトップ - このウィンドウを介してサーバを対話形式で操作できます。
3	[フル スクリーン モード]アイコン - アクセスしたサーバのデスクトップを画面全体に拡大できます。
4	[画像の更新]アイコン - サーバ デスクトップのデジタル化されたビデオ イメージを再生成できます。
5	[ローカル カーソルの位置を合せる]アイコン - ローカル カーソルが正しく追跡されて、リモート サーバのカーソルに反映されるように再設定できます。

## ビデオ セッション ビューアの拡大と更新

**ビデオ セッション ビューア**上部にある3つのアイコンを使用して、表示内容を調整できます。最初のアイコンの[ローカル カーソルの位置を合せる]を使用すると、マウス カーソルを調整できます。2番目のアイコンの[画像の更新]を使用すると、ビデオを更新できます。3番目のアイコンの[フル スクリーン モード]を使用すると、**ビデオ セッション ビューア**を拡大できます。**ビデオ セッション ビューア**を拡大すると、メニュー バーは消えますが、小さなフローティング パレットが表示され、このパレットに、これら3個のボタン、マクロ ブルダウン リスト、およびサーバ名が表示されます。

### ローカル カーソルの調整

ローカル カーソルを調整するには、[ローカル カーソルの位置を合せる]アイコンをクリックします。ローカル カーソルは、リモート サーバのカーソルと協調して動くようになります。

### 画面の更新

画面を更新するには、[画像の更新]アイコンをクリックします。

-または-

**ビデオ セッション ビューア** メニューから、[表示]、[更新]の順に選択します。デジタル化されたビデオ イメージが、完全に再生成されます。

### フル スクリーン モードへの拡大

フル スクリーン モードに拡大するには、[フル スクリーン]アイコンをクリックします。

-または-

**ビデオ セッション ビューア** メニューから、[表示]、[フル スクリーン]の順に選択します。デスクトップ ウィンドウが消え、アクセスしたサーバのデスクトップだけが表示されます。画面の領域は、最大1024×768ピクセルまで変更されます。デスクトップの解像度がそれより高い場合は、フル スクリーン イメージの周りに黒色の背景が表示されます。フル スクリーン モードでは、フローティング ツールバーが表示されます。

フル スクリーン モードを終了するには、フローティング ツールバーの[フル スクリーン]アイコンをクリックします。

## ビデオ セッション ビューアの調整

**ビデオ セッション ビューア**の解像度と画質を調整できます。また、セッションを全画面表示にしたり、いつでも最新状態に更新することができます。

## ビデオ セッション ビューアのサイズの調整

**ビデオ セッション ビューア**では、ウィンドウの自動スケーリングまたは手動スケーリングを設定できます。[自動スケール]を選択すると、デスクトップのサイズは一定で、**ビデオ セッション ビューア**がデスクトップに合わせてスケーリングされます。[手動スケール]を選択すると、サポートされている**ビデオ セッション ビューア**サイズのポップアップリストが表示されます。

ビデオ セッション ビューアのサイズを調整するには、以下の手順に従ってください。

[表示]、[自動スケール]の順に選択し、ビデオ セッション ビューアのサイズを自動調整します。

-または-

[表示]、[手動スケール]の順に選択し、ビデオ セッション ビューアのサイズを選択します。

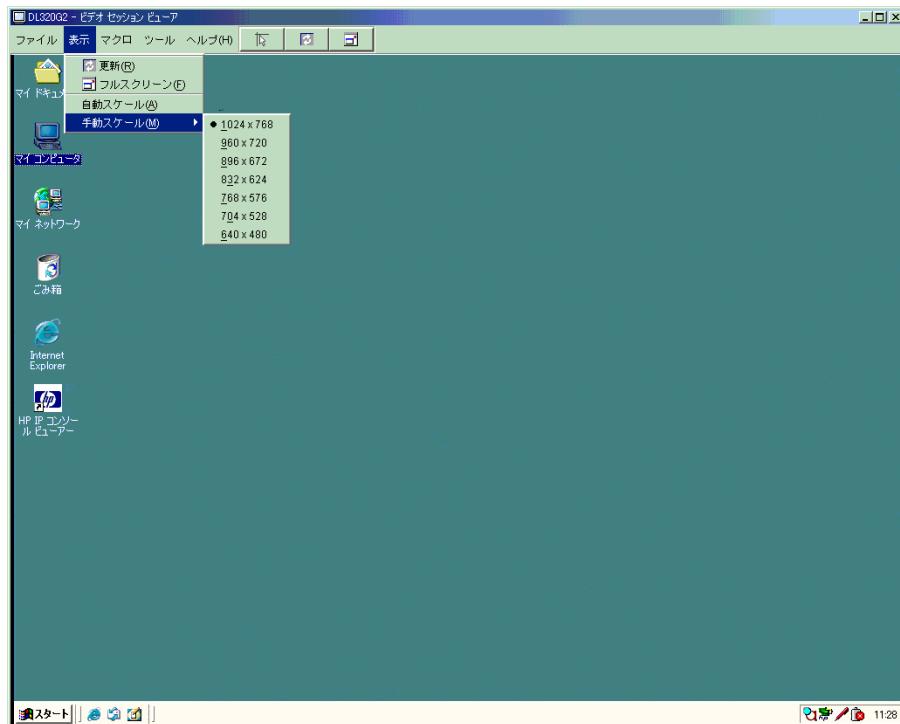


図9-2：ビデオ セッション ビューアの手動スケーリング

## 画質の調整

**ビデオ セッション ピューア**では、自動または手動で画質を調整できます。ほとんどの場合、[自動画質調整]で最適な画質が得られます。

設定を調整するとき、[パフォーマンス モニタ]にフィードバックが提供されます。[パフォーマンス モニタ]に値が表示されなくなるまで、設定値を調整します。

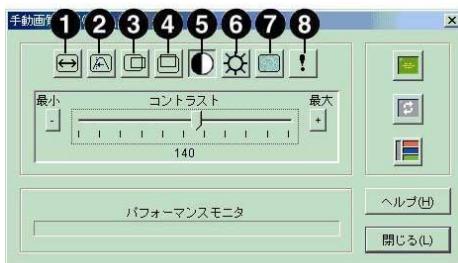


図9-3 : [手動画質調整]ダイアログ ボックス

### 番号 説明

1	画像キャプチャの幅 - スクリーン イメージの幅を調整します。
2	ピクセル サンプリング微調整 - スクリーンのイメージ ピクセルの鮮明度を調整します。
3	画像キャプチャの水平位置 - スクリーン イメージの位置を左右に調整します。
4	画像キャプチャの垂直位置 - スクリーン イメージの垂直位置を上下に調整します。
5	コントラスト - スクリーン イメージの明暗比を調整します。
6	明るさ - スクリーン イメージの輝度を増減します。
7	ノイズ スレッショルド - ビデオ データをクライアントに送信するための変更検出の対象となるブロック内のピクセル数を調整します。
8	プライオリティ スレッショルド - ビデオ ブロック内の変更レベルを調整して、ビデオ ブロックが優先度の高いものとしてマークされるために十分とされるレベルを決定します。

**ビデオ セッション ピューア** ウィンドウの画質を調整するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[手動画質調整]の順に選択します。[手動画質調整]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 調整するアイコンをクリックして、スライダ バーを動かすかまたは[最小 -]または[最大 +]ボタンをクリックします。調整はただちに表示されます。
3. [閉じる]をクリックして終了します。

## マウス設定の調整

**ビデオ セッション ピューア** では、5種類のマウス カーソル オプションの中から選択したり、マウスの移動倍率を設定したりすることができます。また、正しい追跡が行われなくなった場合は、マウスを再同期化できます。マウス設定は、ターゲット デバイスにより異なり、デバイスごとに異なる設定が可能です。

マウスの設定を調整するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[セッション オプション]の順に選択します。[セッション オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

**注：**[セッション オプション]ダイアログ ボックスでは、選択したサーバの設定だけを制御できます。[セッション オプション]ダイアログ ボックスのタイトル バーの[セッション オプション]の後に、選択したサーバのファイル名が表示されます。

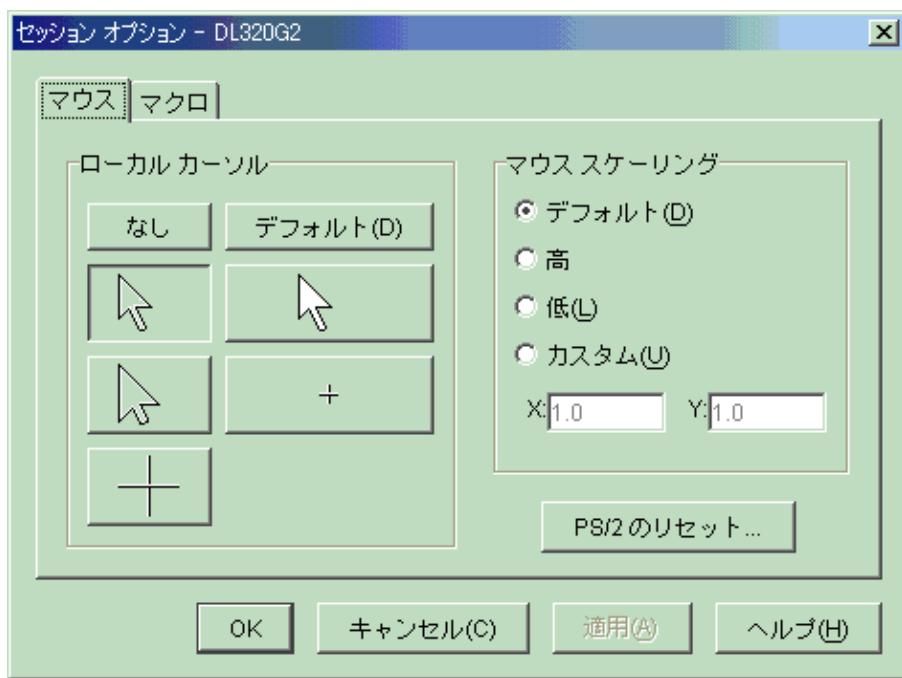


図9-4: [セッション オプション]ダイアログ ボックス

2. [マウス]タブを選択し、調整したい[カーソル]アイコンをクリックします。
3. [適用]をクリックして変更を表示し、[OK]をクリックして終了します。

## マウスの移動倍率の設定

3つの設定済みマウス移動倍率オプションから選択するかまたは移動倍率をカスタマイズすることができます。設定済みのマウス移動倍率は、デフォルト (1:1)、高 (2:1)、または低 (1:2) です。1:1の比率では、デスクトップ上のすべてのマウスの動きがそのままサーバに送信されます。2:1の比率では、すべてのマウスの動きが2倍になってサーバに送信されます。1:2の比率では、すべてのマウスの動きが1/2倍になってサーバに送信されます。[カスタム]を選択すると、X方向とY方向のマウス移動倍率編集ボックスが表示されます。編集ボックスに、マウス移動倍率を入力します。

**注：**マウス移動倍率をデフォルト (1:1)、高 (2:1)、または低 (1:2) に設定することをおすすめします。カスタム設定する場合は、XフィールドとYフィールドに.40を入力してください。

カスタムのマウス移動倍率を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[セッション オプション]の順に選択します。[セッション オプション]ダイアログボックスが表示されます。
2. [マウス]タブを選択します。
3. [カスタム]チェックボックスを選択します。XフィールドとYフィールドが有効になります。
4. XフィールドとYフィールドに、マウス移動倍率を入力します。すべてのマウス入力で、マウスの動きがそれぞれX倍とY倍になります。有効な入力範囲は、.25 ~ 3.00です。
5. [適用]をクリックして[OK]をクリックするか、または[キャンセル]をクリックして終了します。

## マウスの位置の調整とリセット

マウスが正常に応答しなくなったら、マウスを調整して正しい追跡が行われるように再設定するか、またはPS/2接続をリセットできます。この接続をリセットすると、マウス ケーブルをいったん抜き取って再接続するのと同じように、サーバ側でマウスが再接続されます。調整を行うと、ローカルカーソルは、リモート サーバのカーソルと協調して動くようになります。



**注意：**サーバがマウスの切断/再接続の機能をサポートしない場合マウスは無効になり、サーバを再起動しなければなりません。

## マウスの位置の調整

ほとんどのオペレーティング システムでマウス ポインタの位置を調整するには、[ローカル カーソルの位置を合せる]をクリックします。

### UnixWare用のマウスの位置の調整

UnixWareオペレーティング システム用にマウスの位置を調整するには、以下の手順に従ってください。

1. [Style Manager]で、ローカル/ターゲット サーバを以下に設定します。
  - [Handedness] - [Right]
  - [Button 2] - [Right]
  - [Double-click] - [5]
  - [Acceleration] - [1]
  - [Threshold] - [1]
2. [OK]をクリックします。

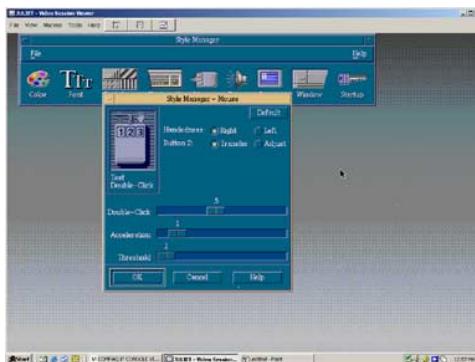


図9-5 : [UnixWare Style Manager] ウィンドウ

3. リモート コンソール スイッチから、メニュー バーの[ローカル カーソルの位置を合せる]アイコンをクリックします。

## マウスのリセット

[PS/2のリセット]ボタンは、ターゲット サーバのマウス接続をリセットします。



注意：[PS/2のリセット]ボタンは、Windows対応機能です。Windows以外のオペレーティング システムでPS/2をリセットすると、マウスが機能しなくなる場合があります。

マウスをリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. **ビデオ セッション ビューア**で、[ツール]、[セッション オプション]の順に選択します。  
[セッション オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

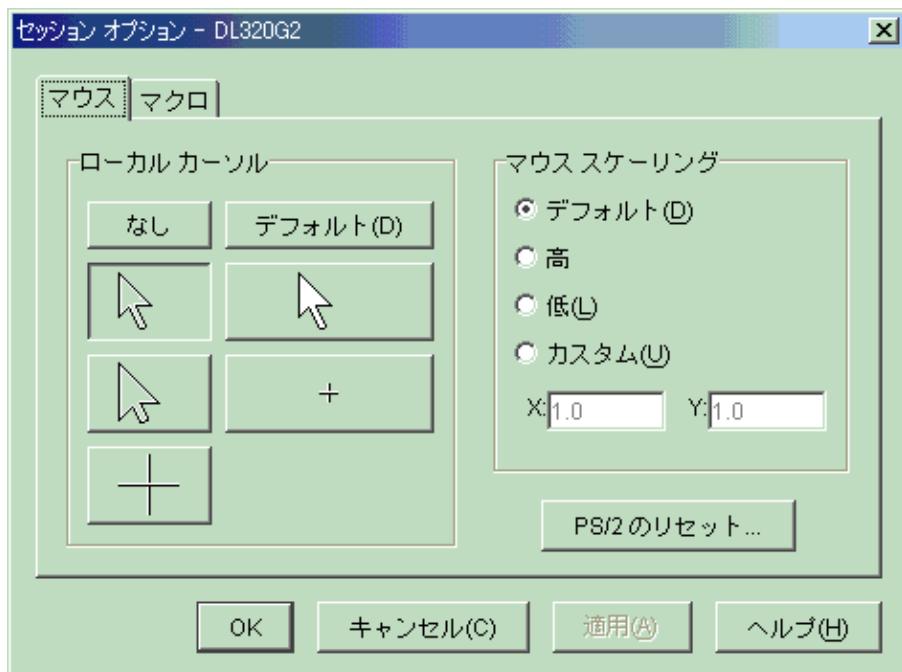


図9-6：[セッション オプション]ダイアログ ボックス

2. [マウス]タブを選択し、[PS/2のリセット]をクリックします。確認を指示するダイアログ ボックスが表示されます。
3. [PS/2のリセット]チェックボックスを選択し[OK]をクリックするか、または[キャンセル]をクリックして終了します。

## スキャン モードを使用した複数のサーバの表示

**ビデオ セッション ビューア**では、スキャン モードのサムネイル ビューアを介して複数のサーバを同時に表示できます。このビューには、一連のサムネイル フレームが表示され、それぞれのフレームには、サーバのスクリーン イメージの縮小版（この画面を介して対話形式の操作を行うことはできません）が表示されます。サーバ名とステータス インジケータは、各サムネイルの下に表示されます。デフォルトのサムネイル サイズは、スキャン リストに含まれるサーバの数によって異なります。

### サーバのスキャン

サムネイル ビューアを介して、最大16台のサーバのスキャン シーケンスを設定して、各サーバを監視できます。スキャン モードでは、ユーザは、1つのサムネイル イメージから次のイメージに移動しながら、各サーバにログインし、指定した時間（**サーバ当たりの表示時間**）、最新のサーバ イメージを表示した後、サーバからログアウトします。次のサムネイルが表示されるまでの間隔も指定できます（**サーバ間の時間**）。次のサムネイルが表示されるまでの間、スキャン シーケンスに含まれるすべてのサーバの最新のサムネイル イメージが表示されますが、どのサーバにもログインできません。

サムネイル ビューアを初めて起動するときは、サーバ イメージが表示されるまで、各フレームには、白色の背景が表示されます。各フレームの下のインジケータ ライトは、サーバのステータスを示します。緑色のLEDは、サーバを現在スキャン中であることを示します。赤色のXのLEDは、サーバの最後のスキャンが失敗したことを示します。スキャンは、証明書やパス障害（IPコンソール スイッチのサーバ パスが使用できなかった）が原因で失敗する可能性があります。LEDのツールチップには、失敗の原因が示されます。

アクティブな接続は、スキャン モードより優先されます。ユーザが、あるサーバと対話形式のセッションを行っている場合、スキャン シーケンス内ではそのサーバは省略され、スキャンは次のサーバに移ります。ログイン エラー メッセージは表示されません。対話形式のセッションが終了すると、そのサーバはスキャン シーケンスに再び組み込まれます。別のユーザによるサーバへの接続がアクティブになっている場合は、スキャン リストにそのサーバのサムネイルを表示できます。

## スキャン モードへのアクセス

スキャン モードにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. IPコンソール ビューアで、[サーバ]タブや[サイト]タブ、[フォルダ]タブを選択します。
2. **Shift**キーまたは**Control**キーを押したままサーバをクリックして、複数のサーバを選択します。[スキャン モード]ボタンが表示されます。
3. [スキャン モード]をクリックします。[スキャン モード]ウィンドウが表示されます。

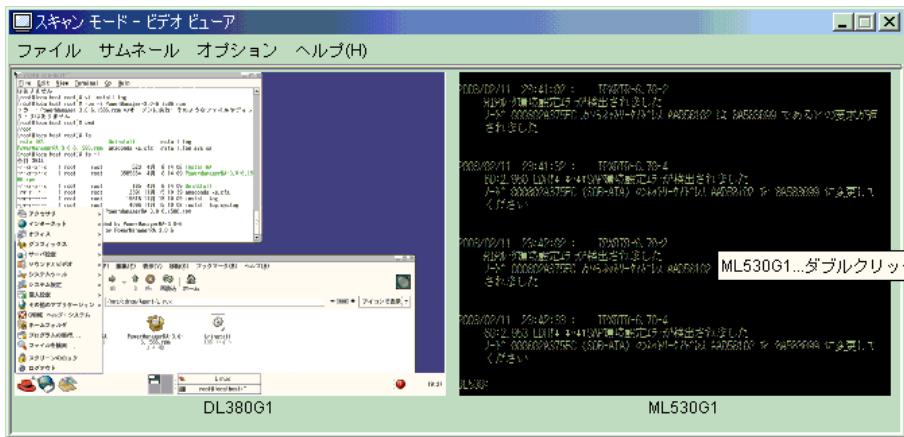


図9-7: ビデオ セッション ビューアのサムネイル ビュー

## スキャン設定

スキャンを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. サムネイル ビューで、[オプション]、[設定]の順に選択します。[スキャン モード設定]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. スキャンの実行中に各サムネイルをアクティブにする時間（5～60秒）を、[サーバ当たりの表示時間]フィールドに入力します。
3. 次のサーバが表示されるまでにスキャンが停止する時間（1～60秒）を、[サーバ間の時間]フィールドに入力します。
4. [OK]をクリックするか、または[キャンセル]をクリックして終了します。



図9-8 : [スキャン モード設定]

## サムネイル ビューの操作

個々のサムネイル フレームを強調表示して、[サムネイル]メニューを選択すると、そのサーバとの対話形式のセッションを起動したり、そのサーバをスキャン シーケンスに追加したりすることができます。また、そのサーバのログイン証明書を設定することもできます。

[オプション]メニューを使用して、スキャン設定にアクセスしたり、スキャンを一時停止したり、すべてのサーバのサムネイル サイズを設定したりすることができます。

### サムネイル ビューからのサーバ ビデオ セッションの起動

サーバ サムネイルを選択します。サムネイル ビューアから、[サムネイル]、[<サーバ名>]、[インタラクティブセッションの表示]の順に選択してください。

-または-

サーバ サムネイルを右クリックして、[インタラクティブ セッションの表示]を選択します。  
対話形式の[ビデオ セッション ビューア]ウィンドウに、そのサーバのビデオが起動します。

-または-

サーバ サムネイルをダブルクリックします。



図9-9 : [スキャン モード]サムネイル ビュー

## スキャン シーケンスへの個々のサーバの追加

個々のサーバをスキャン シーケンスに追加するには、以下の手順に従ってください。

1. [スキャン モード]サムネイル ビューで、サーバ サムネイルを右クリックします。
2. [サムネイル]、[有効化]の順に選択します。

当該のスキャンで、そのサーバ サムネイルがスキャン シーケンスに含まれます。

**注**：ユーザがアクセス中のサーバの場合、そのサーバのサムネイルについては[有効化]メニューが無効になっています。

## サーバ証明書の設定

サーバ証明書を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. サーバ サムネイルを選択します。  
サムネイル ビューから、[サムネイル]、[<サーバ名>]、[アカウント情報]の順に選択してください。  
-または-  
サーバ サムネイルを右クリックして、[アカウント情報]を選択します。ログイン ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 選択したサーバ用のユーザ名とパスワードを入力します。Enterキーを押します。

## スキャン シーケンスの一時停止と再開

サムネイル ビューアから、[オプション]、[スキャン一時停止]の順に選択します。サムネイル ビューアでスキャンが進行中の場合、スキャン シーケンスは現在のサムネイルで一時停止します。現在停止中の場合は、再開されます。

## サムネイル サイズの変更

サムネイル ビューアで、[オプション]、[サムネイル サイズ]の順に選択します。続いて表示されるプルダウン リストから、希望するサムネイル サイズを選択します。

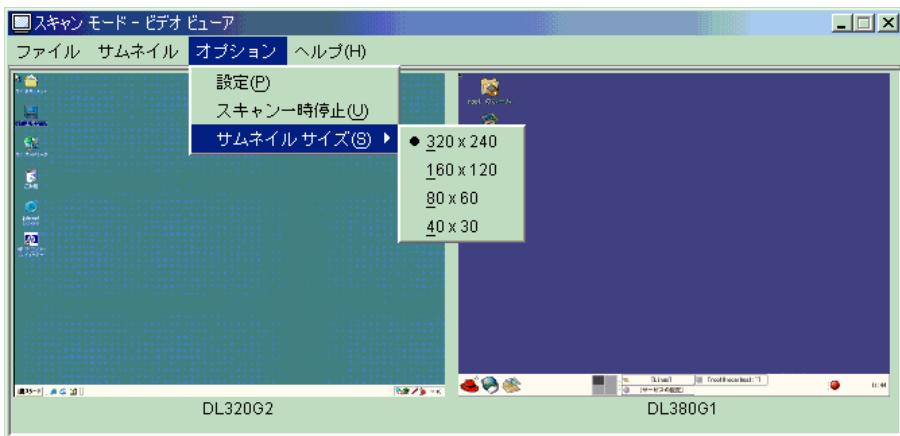


図9-10 : [スキャン モード]オプション

## マクロの使用

ビデオ セッション ビューアの[マクロ]メニューを使用すると、サーバへの複数のキーストロークの送信や、Control-Alt-Deleteなどローカル システムに影響を与えてしまうキーストロークの送信を、簡単に行えます。

**ビデオ セッション ピューア**にはデフォルトのキーストローク選択リストがありますが、[マクロ]プルダウン リストの一番下にある[設定オプション]を使用すると、カスタム マクロを設定できます。

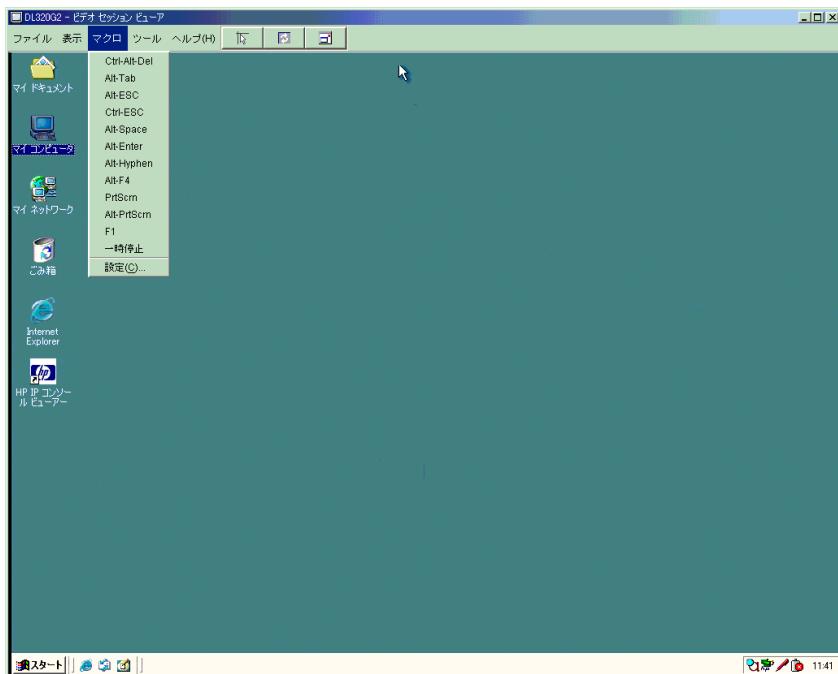


図9-11：[マクロ]メニュー

サーバにキーストロークを送信するには、[マクロ]をクリックし、送信するマクロを選択します。

### デバイスへのキーストロークの送信

**ビデオ セッション ピューア**の[マクロ]メニューを選択し、サーバに送信するマクロを選択します。リストに使用したいキーストロークがない場合は、[設定]を選択して、[マクロ]ダイアログ ボックスにアクセスします。このダイアログ ボックスで、マクロを作成、変更、削除、およびグループ化できます。

マクロ グループは、ターゲット デバイスごとに設定できるため、サーバごとに異なる設定が可能です。これらの設定は、ローカル クライアント データベースに保存され、各デバイスに対するセッションを開始するたびに適用されます。

## デフォルトのマクロ グループの変更

デフォルトのマクロ グループを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [コンソール スイッチの管理]で、[ツール]、[セッション オプション]の順に選択します。  
[セッション オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [マクロ]タブを選択します。

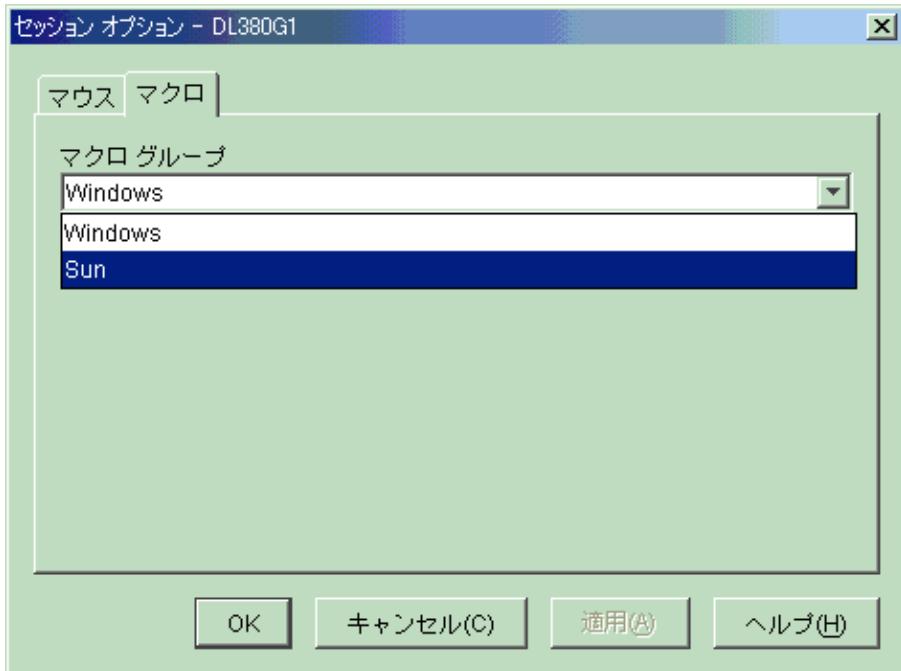


図9-12 : [セッション オプション]ダイアログ ボックス

3. [マクロ グループ]プルダウン リストから、マクロ グループを選択します。
4. [OK]をクリックするか、または[キャンセル]をクリックして終了します。

## 新しいマクロの作成

[マクロ]ダイアログ ボックスで、カスタム マクロ キーストロークを作成したり、既存のマクロを編集または削除することができます。

新しいマクロを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [コンソール スイッチの管理]で、[マクロ]、[設定]の順に選択します。[マクロ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [作成]をクリックします。[マクロの作成]ダイアログ ボックスが表示されます。

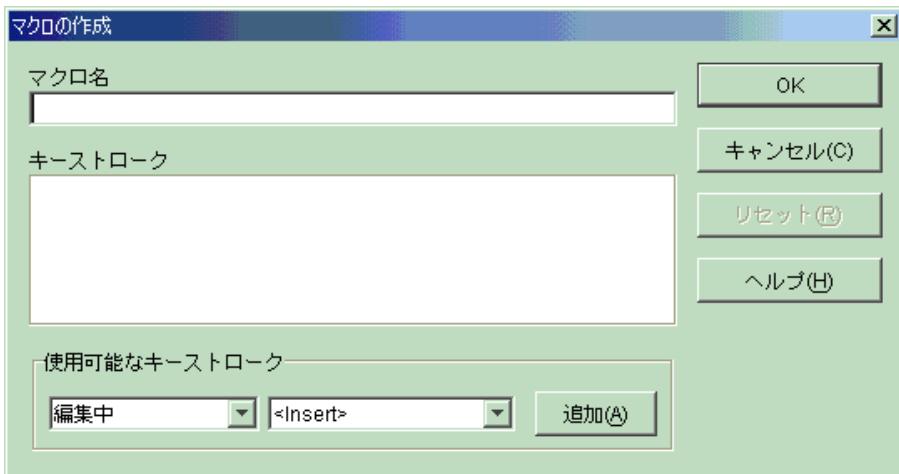


図9-13 : [マクロの作成]ダイアログ ボックス

3. [マクロ名]フィールドに、マクロの名前を入力します。
4. [使用可能なキーストローク]のリストから希望するカテゴリおよびキーストロークを選択して、[追加]をクリックします。

-または-

[キーストローク]フィールドにキーストロークを入力します。

**Enter**、**Home**、**Insert**などのキーストロークを入力するには、各キーストロークを不等号 ((<) および (>)) で囲んでください。

-または-

文字または数字を入力するには、文字または数字を単独で入力してください。

-または-

1つのコマンドを完成させるために、押し、押し続け、離す必要のあるキーストローク（例：**Control**、**Shift**、**Alt**など）を補助キーストロークといいます。これらの補助キーストロークの場合は、最初にキーを押す動作（例：**<Ctrl-Press>**）を入力してから、コマンドの文字または数字のキーストロークを入力し、最後にキーを離す動作を入力します（例：**<Ctrl-Release>**）。

5. [OK]をクリックしてマクロを受け入れ、[マクロ]ダイアログ ボックスに戻ります。

-または-

[リセット]をクリックして、[キーストローク]フィールドに入力したすべてのキーストロークを消去します。

-または-

[キャンセル]をクリックして終了します。

6. [閉じる]をクリックして、[マクロ]ダイアログ ボックスを閉じます。

## マクロのグループ化

[マクロ グループ]ダイアログ ボックスを使用すると、マクロを論理グループにグループ化できます。Windows用のマクロ グループはすでに定義されていますが、グループも変更することも、新しいグループを作成することもできます。また、作成したグループの名前を変更したり、グループを削除することもできます。

マクロ グループを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [マクロ]、[設定]の順に選択します。[マクロ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [グループ]をクリックします。[マクロ グループ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [作成]をクリックします。マクロ グループの名前を入力するダイアログ ボックスが表示されます。



図9-14 : [マクロ グループ]ダイアログ ボックス

4. 希望する名前を入力し、[OK]をクリックして名前を保存し、[マクロ グループ]ダイアログ ボックスに戻ります。新しい名前をもつタブが表示されます。

### 既存のグループへのマクロの追加

既存のグループにマクロを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. [マクロ]、[設定]の順に選択します。[マクロ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [グループ]をクリックします。[マクロ グループ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ダイアログ ボックスの左側にある[使用可能なマクロ]リストから、追加する実際のマクロを選択します。
4. [追加]をクリックします。[グループ内のマクロ]リストに、マクロが表示されます。上方ボタンと下方向ボタンを使用して、マクロを上下に移動します。
5. [グループ内のマクロ]リストにすべてのマクロが表示されるまで、手順3と4を繰り返します。
6. [適用]をクリックし、[OK]をクリックして、マクロ グループを受け入れ、[マクロ]ダイアログ ボックスに戻ります。

-または-

[キャンセル]をクリックして終了します。

### マクロ グループの名前の変更

[名前の変更]ボタンを使用すると、既存のマクロ グループの名前を変更できます。[名前の変更]をクリックして、既存マクロ グループの名前を変更してください。

## サーバのプロパティの選択

個々のサーバのプロパティを変更するには、選択ビューからサーバを選択します。サーバの [プロパティ]ダイアログ ボックスには、複数のタブがあります。

- **[一般]** - サーバの名前、サーバのタイプ、サーバのアイコンを変更したり、サーバにサイト、位置、またはフォルダを割り当てるすることができます。
- **[ネットワーク]** - サーバのブラウザURLを確立できます。
- **[情報]** - 説明、連絡先担当者、コメントなど、サーバに関する情報を入力できます。
- **[接続]** - サーバの接続オプションを表示できます。

## サーバのプロパティの変更

サーバのプロパティを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 選択ビューから個々のサーバを選択します。
2. メニュー バーから[表示]、[プロパティ]の順に選択します。

-または-

[プロパティ]をクリックします。[プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。

-または-

サーバを選択して右クリックし、[プロパティ]を選択します。

[一般]タブが表示されます。

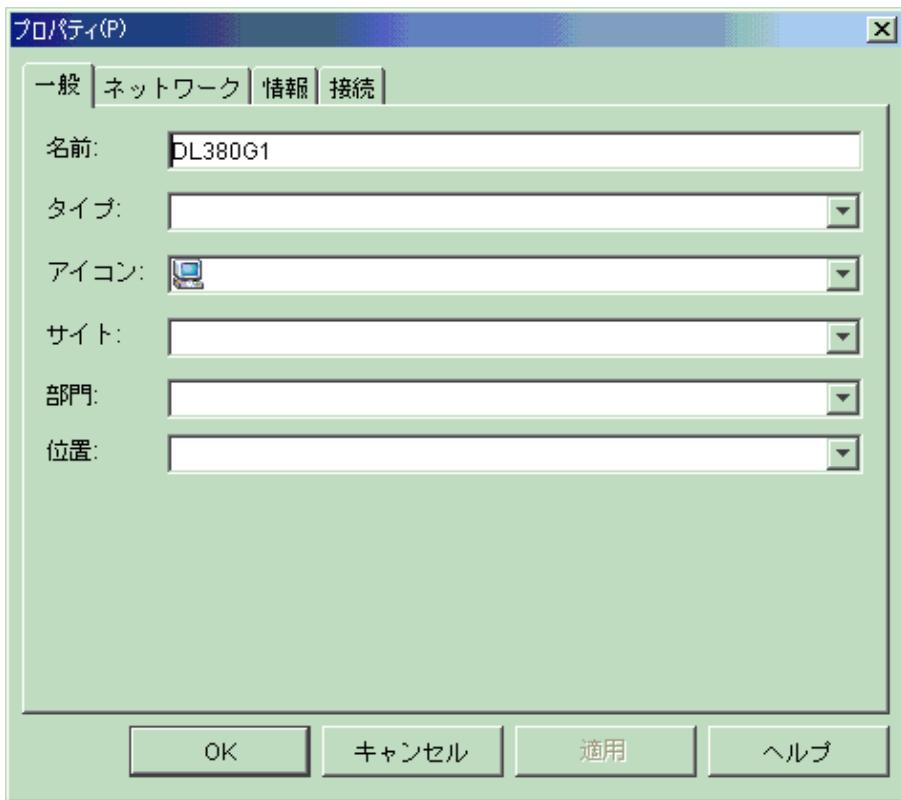


図9-15 : [一般]タブ

3. (オプション) サーバの(ユーザが定義できる)[**タイプ**]を選択します。プルダウンリストに選択肢がない場合は、新しいタイプの名前を入力します。
4. (オプション) サーバ用のアイコンを選択します。
5. (オプション) サイト、部門、位置を選択します。プルダウンリストに選択肢がない場合は、新しく割り当てる名前を入力します。
6. (オプション) [**ネットワーク**]タブを選択し、[**ブラウズするURL**]フィールドにURLを入力します。このフィールドはオプションであり、空白のままにすることができます。このフィールドに値を入力すると、[タスク]ウィンドウに指定したURLを起動する[**ブラウザ**]ボタンが表示されます。



図9-16 : [ネットワーク]タブ

7. (オプション) [情報]タブを選択し、情報を入力します。

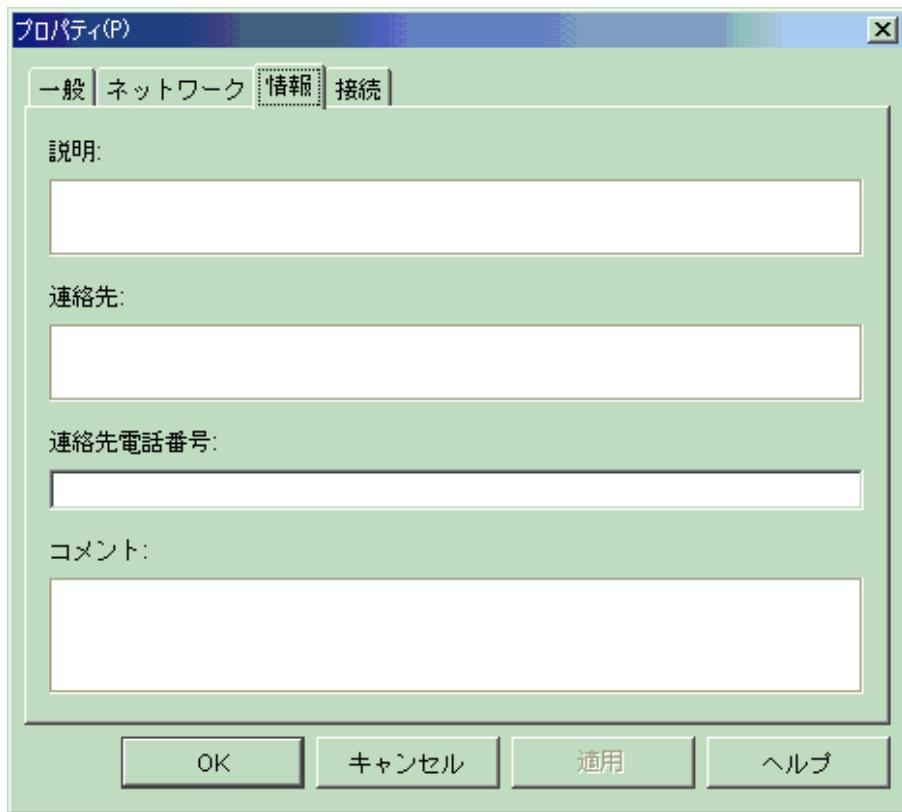


図9-17 : [情報]タブ

8. [接続]タブを選択して、接続パスを表示します。

サーバがカスケード接続されたコンソール スイッチに接続されている場合、接続シーケンスは、括弧内にIPアドレスを含むコンソール スイッチ名、インターフェース アダプタのポート番号、インターフェース アダプタID、カスケード接続されたコンソール スイッチ名、カスケード接続されたコンソール スイッチが接続されているチャネル サーバ、サーバ名の順で構成されます。

サーバが直接コンソールスイッチに接続されているか、または拡張モジュールに接続されている場合は、接続シーケンスは、括弧内にIPアドレスを含むコンソールスイッチ名、インターフェースアダプタのポート番号、インターフェースアダプタID、サーバ名の順で構成されます。

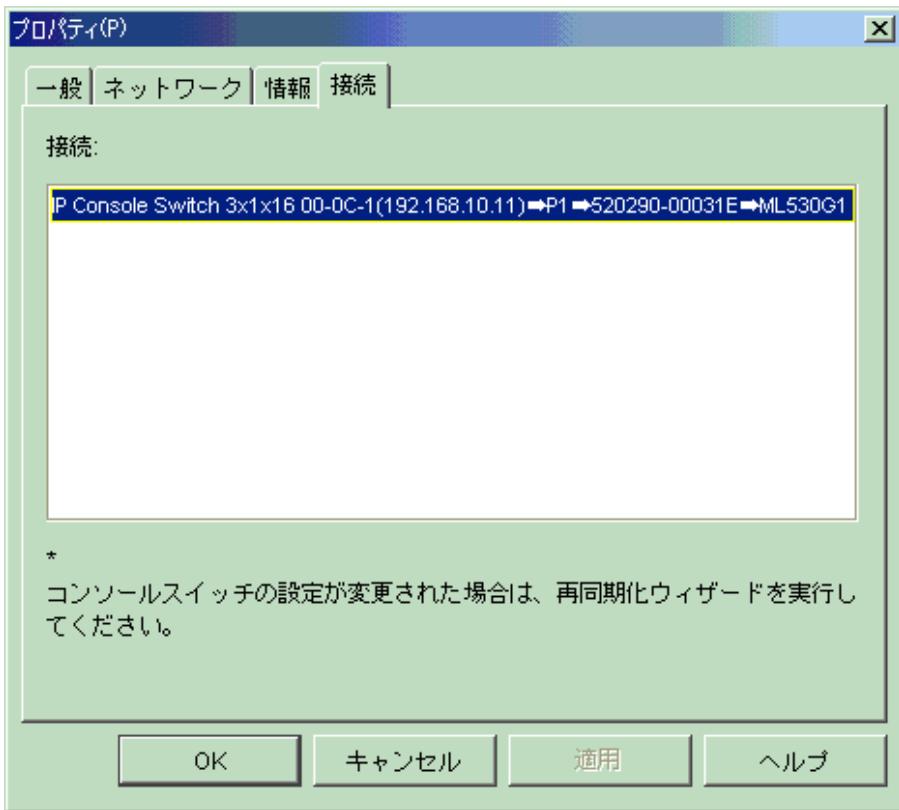


図9-18 : [接続]タブ

9. [適用]をクリックし、[OK]をクリックして、新しい設定を保存します。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして終了します。

## システムの組織化

サイト ビューとフォルダ ビューには、コンソール スイッチとサーバがカスタム グループ別に表示されます。このビューでは、コンソール スイッチとサーバを表示したり、管理することができます。ユーザは、サーバを右クリックしてタスクのポップアップ メニューにアクセスしたり、画面の一番下にあるいずれかのタスク ボタンを選択することができます。画面の一番下にあるタスク ボタンは、コンソール スイッチを選択したか、サーバを選択したかによって変化します。

### カスタム フィールド ラベルの作成

カスタム フィールド ラベルを使用すると、グループ ビューと選択ビューに表示されるカラムの見出しの名前を変更できます。これにより、位置や正しいフォルダ名によってコンソール スイッチとサーバをグループ化したり、ソートすることができます。

## カスタム フィールド ラベルの設定

カスタム フィールド ラベルを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューから、[ツール]、[オプション]の順に選択します。[オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

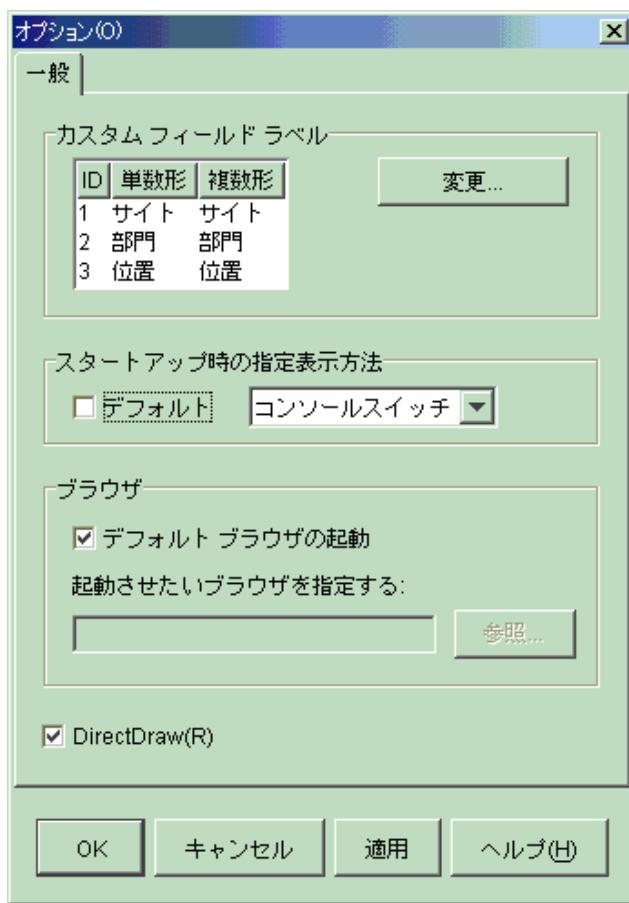


図10-1 : [オプション]ダイアログ ボックス

2. カスタム フィールド ラベルを選択します。
3. [変更]をクリックします。[カスタム フィールドの変更]ダイアログ ボックスが表示されます。

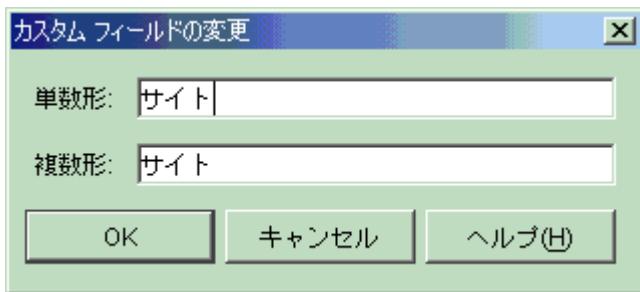


図10-2 : [カスタム フィールドの変更]ダイアログ ボックス

4. 単数と複数のフィールド ラベルを入力します。長さは1~32文字です。空白は使用できません。スペースは、先頭と末尾以外で使用できます。ラベルは、キーボードから入力できる任意の文字の組み合わせから作成できます。
5. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして終了します。

## 新しいサイト、部門、または位置の作成

新しいサイト、部門、または位置を作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [表示]、[プロパティ]の順に選択するか、またはデバイスを選択し、[プロパティ]をクリックします。[プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。

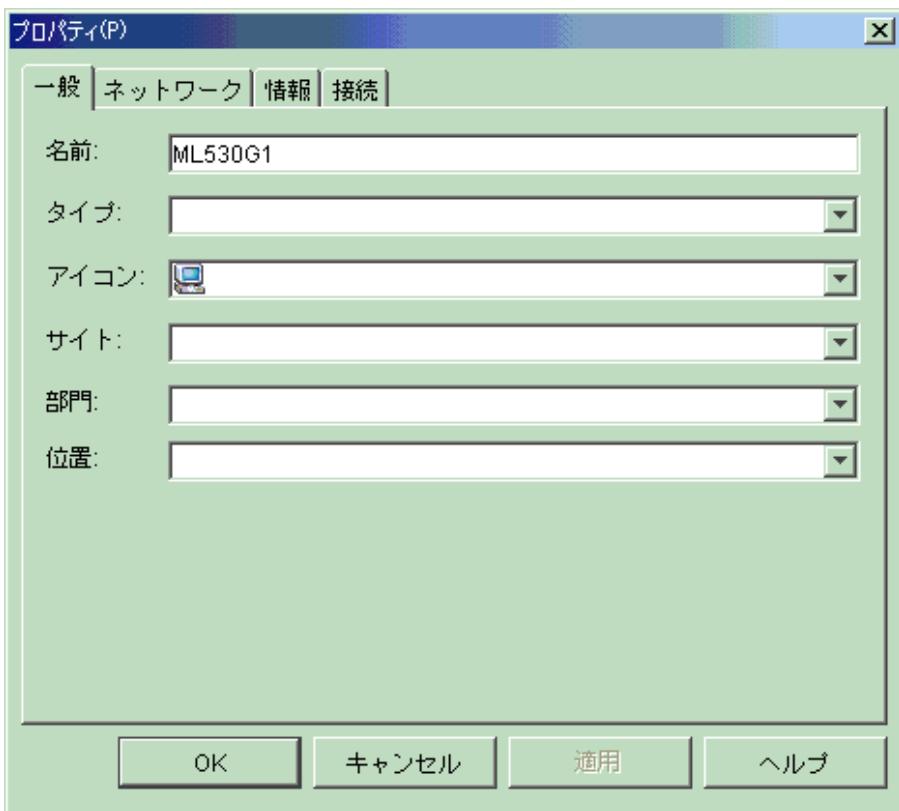


図10-3 : [プロパティ]ダイアログ ボックス

2. [一般]タブを選択し、プルダウン リストから[サイト]、[部門]、または[位置]を選択します。  
注：選択したカテゴリに複数の名前を入力するまで、プルダウン リストは空です。
3. 1～32文字の名前を入力します。名前では大文字と小文字が区別されず、キーボードから入力できる任意の文字の組み合わせを使用できます。スペースは、先頭と末尾以外で使用できます。重複する名前は使用できません。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。グループ ビューに、新しいサイト、部門、または位置が表示されます。

## 新しいフォルダの作成

新しいフォルダを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. アイコン ビューで[フォルダ]を選択します。
2. フォルダディレクトリをクリックし、タスク バーから[ファイル]、[新規]、[フォルダ]の順に選択します。[カスタム フォルダの作成]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 1～32文字の名前を入力します。名前では大文字と小文字が区別されず、キーボードから入力できる任意の文字の組み合わせを使用できます。スペースは、先頭と末尾以外で使用できます。同じレベルでは重複する名前を使用できませんが、異なるレベルでは使用できます。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。グループ ビューに、新しいフォルダが表示されます。

## サイト、部門、位置、またはフォルダへのデバイスの割り当て

ユーザは、コンソール スイッチまたはサーバをサイト、部門、位置、またはフォルダに割り当てるすることができます。このメニュー項目は、選択ビューで单一のコンソール スイッチまたはサーバを選択したときだけ有効になります。これらのカスタム ターゲットは、[プロパティ]ダイアログ ボックスの[一般]タブに定義されています。

デバイスをサイト、部門、位置、またはフォルダに割り当てるには、以下の手順に従ってください。

1. 選択ビューでデバイスを選択します。
2. メニュー バーで、[編集]、[割り当て]の順に選択するか、または[タスク]ウィンドウで[割り当て]をクリックします。[割り当て]ダイアログ ボックスが表示されます。

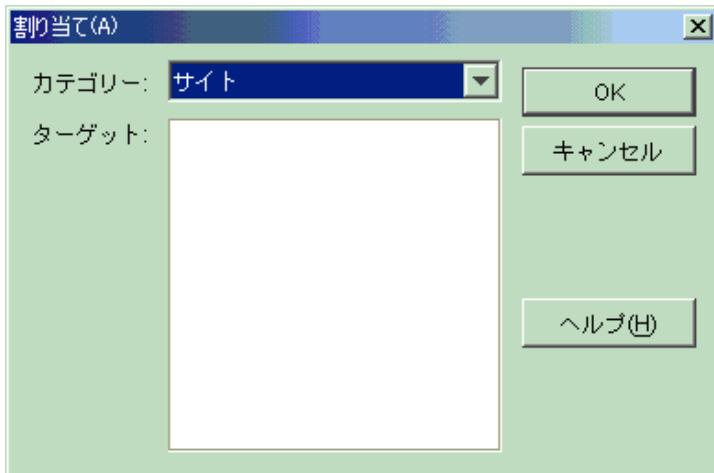


図10-4 : [割り当て]ダイアログ ボックス

3. プルダウン リストから、カテゴリ（サイト、部門、位置、またはフォルダ）を選択します。
4. 使用できるターゲットのリストから、選択したカテゴリの中でコンソール スイッチに割り当てることができるターゲットを選択します。これは、ローカル データベースにサイト、部門、位置、フォルダが定義されていない場合、空になります。
5. [OK]をクリックして割り当てを保存するか、または[キャンセル]をクリックして終了します。

デバイスをサイト、部門、位置、またはフォルダにドラッグ アンド ドロップするには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューから、選択ビューの希望する行をクリックします。
2. クリックしたまま、グループ ビューの希望するディレクトリまで項目をドラッグし、マウス ボタンを放します。

注：デバイスは、すべての部門、全コンソール スイッチ、全サーバ、またはルート サイト ディレクトリには移動できません。デバイスは一度に1つしか移動できません。

## デバイスの削除と名前の変更

削除機能は、グループ ビューと選択ビューで何が選択されているかによって変化します。選択 ビューでデバイスを選択して削除すると、デバイスはローカル データベースから削除されます。グループ ビューのツリー ビューで項目を選択して削除すると、サーバのタイプ、サイト、部門、位置、フォルダを削除できます。ただし、この場合、コンソール スイッチは、ローカル データベースからは削除されません。また、IPコンソール ビューアには、個々のデバイス、サイト、部門、位置、フォルダなど、データベース項目の名前を変更する機能もあります。

注：アナログ ポートにOSDがあり、IPコンソール ビューアからサーバを削除したり、名前を変更すると、OSDのサーバリストは更新されません。サーバの削除や名前の変更は、必ずOSDから実行してください。

## デバイスの削除

デバイスを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. 選択ビューから、削除するデバイスを選択します。
2. [編集]、[削除]の順に選択します。削除するデバイスの数を確認する[削除]ダイアログ ボックスが表示されます。  
-または-  
Deleteキーを押します。
3. [はい]をクリックします。構成によっては、追加メッセージ プロンプトが表示される場合があります。

## デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダの削除

デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. グループ ビューから、削除するデバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダを選択します。
2. [編集]、[削除]の順に選択します。削除するデバイスの数を確認するダイアログ ボックスが表示されます。  
-または-  
Deleteキーを押します。
3. [はい]をクリックします。構成によっては、追加メッセージ プロンプトが表示される場合があります。

## デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダの名前の変更

デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダの名前を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. **デバイス、サイト、部門、位置、またはフォルダ**を選択します。
2. [編集]、[名前の変更]の順に選択します。[名前の変更]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 1~32文字の名前を入力します。名前では大文字と小文字が区別されず、キーボードから入力できる任意の文字の組み合わせを使用できます。スペースは、先頭と末尾以外で使用できます。部門名とフォルダ名を除き、重複する名前は使用できません。部門名は異なるサイトで重複でき、フォルダ名は異なるレベルで重複できます。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして終了します。

## メイン ウィンドウのカスタマイズ

メイン ウィンドウは、サイズを変更できます。IPコンソール ビューアが表示されるたびに、デフォルトのサイズと位置でウィンドウが表示されます。デフォルトのサイズと位置はアプリケーションの動作中に変更できますが、情報は保存されません。

グループ ビューと選択ビューが、左右に分割表示されます。分割線を左右方向に動かすと、グループ ビューと選択ビューの表示領域が変化します。IPコンソール ビューアが表示されるたびに、分割線はデフォルトの位置に表示されます。

## 起動時の選択ビューの変更

ユーザは、IPコンソール ビューアが表示されるときの起動ウィンドウ（またはメイン ウィンドウ）を変更できます。デフォルト オプションを選択すると、ローカル データベースに定義されているコンソール スイッチに基づいて、メイン ウィンドウに表示されるビューが決定されます。デフォルト オプションの選択を解除すると、メイン ウィンドウにはプルダウン リストで選択したビューが表示されます。プルダウン リストは、デフォルト チェックボックスの選択を解除したときだけ有効になります。

起動時の選択ビューを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[オプション]の順にクリックします。[オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. デフォルト チェックボックスを選択し、[OK]をクリックして終了します。  
-または-  
デフォルト チェックボックスを選択しないまま、手順3へ進みます。
3. プルダウン リストから、[コンソール スイッチ]、[サーバ]、[サイト]、または[フォルダ]を選択します。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックして、変更を保存します。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして終了します。

## デフォルト ブラウザの変更

ユーザは、ブラウザ ウィンドウにサーバURLが表示されるときにどのブラウザを表示するかを指定できます。ユーザは、特定のブラウザを選択したり、デフォルト ブラウザを使用することができます。

デフォルト ブラウザを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [ツール]、[オプション]の順に選択します。[オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [デフォルト ブラウザの起動]チェックボックスの選択を解除します。[ブラウザ]ボタンが有効になります。
3. [参照]ボタンをクリックし、ブラウザまで移動します。
4. [適用]をクリックし、[OK]をクリックして、変更を保存します。  
-または-  
[キャンセル]をクリックして終了します。

## Direct Draw

Direct Drawは、グラフィック デバイス インタフェース (GDI) の介入なしで、ビデオディスプレイ メモリ、ハードウェア ビデオ データ転送、ハードウェア オーバレイ、およびページ反転を直接操作するための規格です。この直接操作により、アニメーションがより滑らかになり、ビデオ ソフトウェアが高速動作し、画面のちらつきがなくなります。デフォルトで、Java™は Direct Drawを使用してビデオ性能を強化しています。

## ローカル データベースの管理

IPコンソール ビューアを実行する各サーバには、デバイスに関して入力されるすべての情報を記録するローカル データベースがあります。複数のサーバやワークステーションがデバイスにアクセスする場合、ユーザは、サーバまたはワークステーションを設定し、データベースのコピーを保存し、他のサーバとワークステーションにデータベースを読み込むことで、1台ずつ再設定する必要がなくなります。また、別のアプリケーション用にデータベースをエクスポートすることもできます。

## ローカル データベースの保存

IPコンソール ビューアを使用すると、ローカル データベースのコピーを保存できます。保存したデータベースは、データベースを作成した元のコンピュータに読み込んだり、別のIPコンソール ビューアクライアント ステーションで読み込むことができます。保存したデータベースは、1つのzipファイルに圧縮されます。

データベースの保存が実行されている間は、他の活動は許可されません。ビデオ セッション ビューアや[コンソール スイッチの管理]ウィンドウのような他のすべてのウィンドウを閉じる必要があります。他のウィンドウが開いている場合は、続行してすべてのウィンドウを閉じるか、中止してデータベースの保存をキャンセルするかを尋ねるメッセージが表示されます。

ローカル データベースを保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [ファイル]、[データベース]、[保存]の順に選択します。[データベースの保存]ダイアログ ボックスが表示されます。

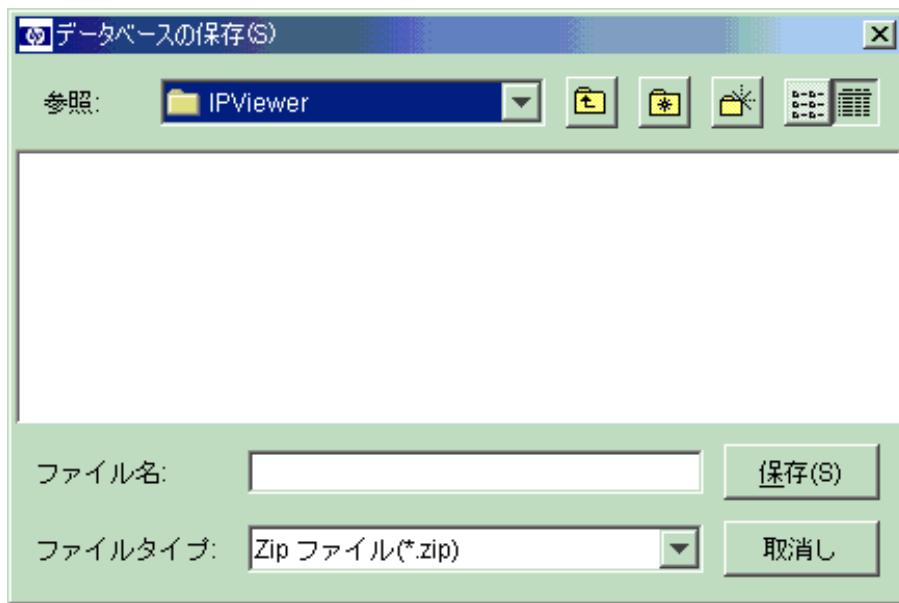


図10-5 : [データベースの保存]ダイアログ ボックス

2. ファイル名を入力し、ファイルを保存する位置まで移動します。
3. [保存]をクリックします。保存の実行中は、進捗状況を示すバーが表示されます。保存が完了すると、保存が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

## ローカル データベースのエクスポート

この機能を使用すると、コンマで値を区切ったASCIIファイル（CSV）やタブで値を区切ったファイル（TSV）に、ローカル データベースのフィールドをエクスポートできます。

注：[アドレス]フィールドはコンソール スイッチだけに適用され、[ブラウズするURL]フィールドはサーバだけに適用されます。エクスポート ファイルでは、サーバの[アドレス]フィールド データが空になり、コンソール スイッチの[ブラウズするURL]フィールド データが空になります。

ローカル データベースをエクスポートするには、以下の手順に従ってください。

1. [ファイル]、[データベース]、[エクスポート]の順に選択します。[データベースのエクスポート]ダイアログ ボックスが表示されます。

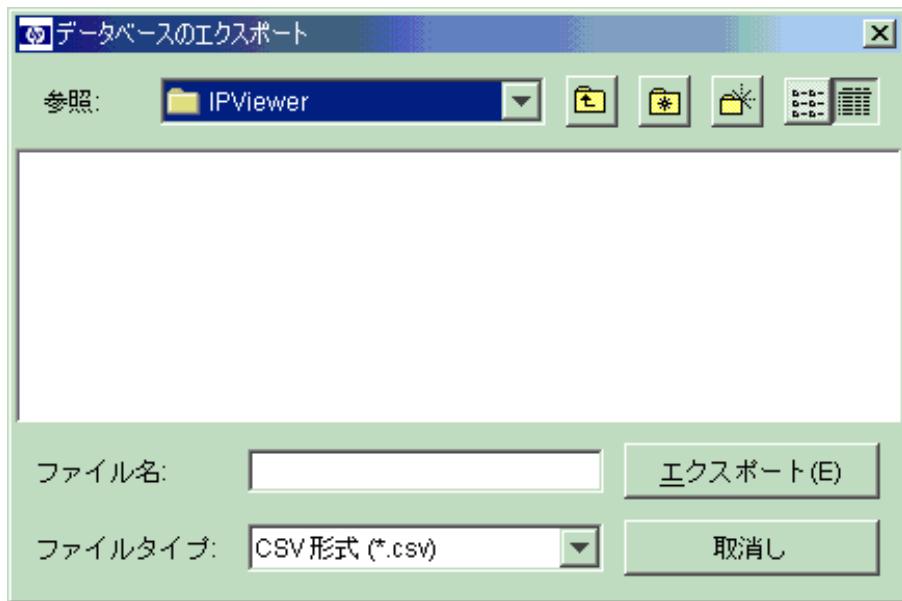


図10-6：[データベースのエクスポート]ダイアログ ボックス

2. [ファイル名] フィールドにファイル名を入力し、エクスポート ファイルを保存したい位置まで移動します。
3. [ファイル タイプ] プルダウン リストから、エクスポート フォーマットのタイプを選択します。
4. [エクスポート] をクリックします。エクスポートの実行中は、進捗状況を示すバーが表示されます。エクスポートが終了すると、エクスポートが正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

## ローカル データベースの読み込み

この機能を使用すると、保存したデータベースを読み込むことができます。データベースの読み込みが実行されている間は、他の活動は許可されません。ビデオ セッション ビューアや[スイッチの管理]ウィンドウのような他のすべてのウィンドウを閉じる必要があります。他のウィンドウが開いている場合は、続行してすべてのウィンドウを閉じるか、中止してデータベースの保存をキャンセルするかを尋ねるメッセージが表示されます。

ローカル データベースを読み込むには、以下の手順に従ってください。

1. [ファイル]、[データベース]、[ロード]の順に選択します。[データベースのロード]ダイアログ ボックスが表示されます。

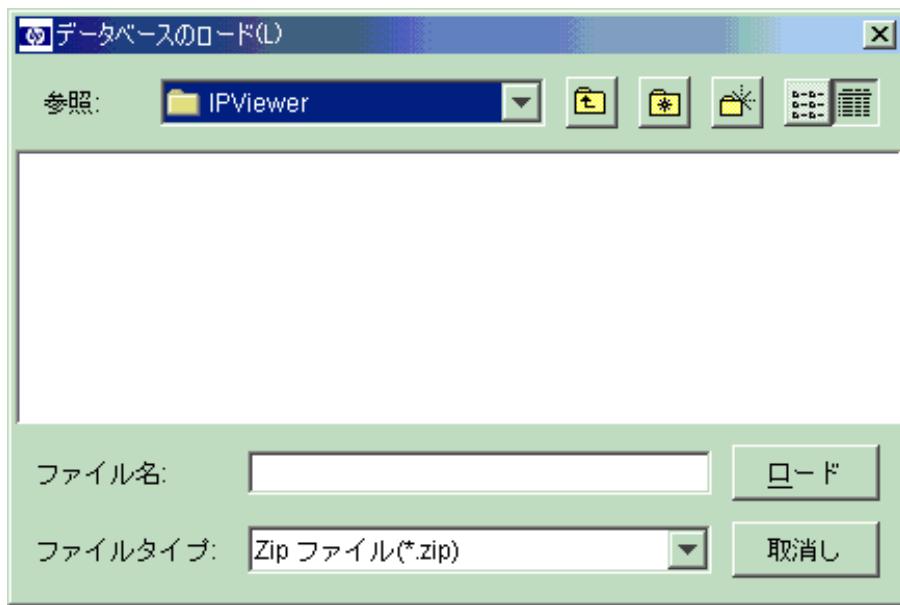


図10-7 : [データベースのロード]ダイアログ ボックス

2. ファイル名を入力し、読み込むデータベースを選択する位置まで移動します。
3. [ロード]をクリックします。進捗状況を示すバーが表示されます。読み込みが終了すると、読み込みが正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

## トラブルシューティング

問題	処置
IPアドレスを変更した後、コンソールスイッチ上のサーバにアクセスできません。	正常に動作するには、[ネットワーク] サブカテゴリにあるIPアドレスとコンソールスイッチの[プロパティ] ウィンドウにあるIPアドレスが一致している必要があります。
[アクセス権] ボタンが有効になっていません。	[アクセス権] ボタンは、[アクセス レベル] ドロップダウン リストから選択したときだけ有効になります。
アップグレードするインターフェースアダプタのタイプ (PS/2) の前にあるチェックボックスを選択できません。	すべてのインターフェースアダプタに最新のファームウェアがある場合は、チェックボックスを選択できません。
コンソールスイッチの[プロパティ] ウィンドウの下にあるプルダウン リストが空です。	選択したカテゴリにユーザが複数の名前を入力するまで、プルダウン リストは空です。
ビデオ セッション ビューアを起動しようとすると、黒い画面が表示されます。	サーバと通信していません。以下を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>サーバの電源が入っている。</li><li>施設電源が有効である。</li><li>ケーブル接続が正しい。</li></ul>

続く

続き

問題	処置
ターゲット サーバがWindows XP、Windows 2000 ( SP2 )、またはWindows NT 4.0 ( SP6 )を実行しているとき、表示色が縞になります。	現在の解像度を、800×600 ( 60Hz ) から1024×768 ( 60Hz ) に変更してください。
ローカルとリモートのカーソル位置が一致しません。	第9章を参照してください。
[コンソール スイッチの管理]にアクセスしようとすると、ユーザ名とパスワードが受け付けられません。	新しいユーザ名とパスワードが作成されていない場合、デフォルトのユーザ名はAdmin ( 大文字と小文字を区別 ) 、デフォルト パスワード フィールドは空白です。
マウス カーソルが安定しません。	ビデオ ドライバが正しくDirect Drawをサポートしていません。[ツール]、[オプション]の順に選択して、[Direct Draw] チェックボックスの選択を解除してください。
マウスのピクセル数が安定しません。	ノイズ スレッショルドを減らして、ピクセルを細分化して表示を更新してください。
Discover Wizardがコンソール スイッチを検出しません。	[開始アドレス : ] フィールドと[終了アドレス : ] フィールドからIPアドレスを消去し、正しい情報を入力してください。
RILOEおよびILOEがIPコンソール スイッチ システム内で正しく動作しません。	HP IPコンソール スイッチのファームウェアは、バージョン2.0.6以上でなければいけません。
Discover WizardによるIPアドレスの範囲の検出に時間がかかっています。	各IPアドレスにつき4秒かかります。もっと少ないIPアドレスの範囲を入力してください。
SNMP認証失敗トラップが受信されていません。	SNMP認証失敗トラップはInsightマネージャではデフォルトで無効になっています。詳細については、Insightマネージャに付属のマニュアルを参照してください。

---

# 索引

## B

Bootp設定 7-3

## D

Direct Draw 10-10

## E

Ethernet 2-16

## I

IPアドレス 5-6、5-14、7-3、7-38

IPコンソールスイッチ

LAN接続 2-16

シリアル、接続 2-6

セットアップ 1-5

ファームウェア、アップグ

レード 2-6

IPコンソールビューア

機能 1-2

製品 1-2

利点 1-2

## K

[KVMセッションの開始]アイコ  
ン 8-1

## L

LAN

接続 2-16

速度 7-3

Linux

TFTP、確認 2-3

TFTP、有効化 2-3

インストール

IPコンソールビューア 3-2

オペレーティングシステム 2-8

起動

IPコンソールビューア 3-4

サポートされているオペレ

ティングシステム 1-4

マウス

調整 3-2

## M

MACアドレス 7-3

Minicom 1.831-16.i386.rpmファ

イル、ユーティリティ 2-8

## P

[PS/2のリセット]ボタン 9-11

## R

Red Hat 2-8

## S

Secure Management Protocol 6-1, 7-1  
SNMP  
　設定、有効化 7-12  
[SNMP]カテゴリ 7-12  
SNMPトラップ  
　表示 7-16  
　有効化 7-15

## T

TFTP  
　確認、Linux 2-3  
　サーバ、必要 2-1  
　ダウンロード 7-30

## U

UDP ( User Datagram  
Protocol ) 7-12

## W

Windows  
　TFTP、有効化 2-1  
　インストール  
　　IPコンソール ビューア 3-1  
　起動  
　　IPコンソール ビューア 3-3  
　サポートされているオペレー  
　　ティングシステム 1-4  
　設定、TFTP 2-4  
　マウス  
　　調整 3-1

## あ

アイコン  
　コンソール スイッチの[プロパ  
　ティ] 7-37  
　サーバ、プロパティ 9-27

アイコン ビュー 4-3

アクセス  
　コンソール スイッチ 6-1  
　スキャン モード 9-13  
　リモート サーバ  
　　アクセス 8-1  
[アクセス権]ボタン 7-7  
アクセス レベルのリスト、表示 7-5  
新しいサイト、部門、または位置  
　作成 10-4  
アップグレード  
　インターフェース アダプタ  
　　ファームウェア 7-26, 7-32  
　ファームウェア 2-6  
　　IPコンソール スイッチ 7-30  
アンロック  
　ユーザ アカウント 7-9

## い

位置  
　削除 10-8  
　プロパティ 9-27  
インストール  
　IPコンソール ビューア 3-1  
インターフェース アダプタ  
　ID 7-11, 7-23  
　アップグレード、ファーム  
　　ウェア 7-26, 7-32  
　　カテゴリ 7-11  
　　[言語] 7-11  
　　[タイプ] 7-11  
　　サブカテゴリ 7-25  
　表示 7-11  
　　[ポート] 7-11

## え

エクスポート  
　ローカル データベース 10-12

## お

- [オプション]ダイアログ ボック  
ス 10-2
- [オフラインインターフェース アダ  
プタを含めます]  
電源が入っていないサーバ  
がある場合 7-20
- オペレーティングシステム、  
サポート 1-4
- Linux 1-4
- Windows 1-4

## か

- 拡大と更新  
ビデオ セッション ビューア 9-3
- 確認  
Linux用TFTP 2-3
- 画質、調整 9-6
- カスケードスイッチ  
変更 5-7、5-11  
割り当て 5-7、5-11
- [カスケードスイッチ]カテゴ  
リ 7-23
- カスタマイズ  
メイン ウィンドウ 10-9
- [カスタム フィールドの変更]ダ  
イアログ ボックス 10-3
- カスタム フィールド ラベル  
作成 10-1  
設定 10-2
- [画像の更新]アイコン 9-2
- 簡易ネットワーク管理プロトコル  
(SNMP)  
設定、有効化 7-12
- 管理  
コンソールスイッチ  
設定ファイル 7-33  
ユーザ データベース 7-35  
リモート サーバ 9-1

## き

- キーストローク  
デバイスへの送信 9-19
- [キーボード/マウス暗号化レベ  
ル] 7-4
- 起動  
IPコンソール ビューア 3-3
- サーバ ビデオ セッション、  
サムネイル  
ビュー 9-15

## く

- グループ化  
マクロ 9-23
- グループ ビュー 4-3

## け

- ゲートウェイ 5-6、7-3
- [言語]設定 7-1
- 検索  
サーバ、ローカル データ  
ベース 8-2
- 検索バー 4-3
- 検出  
コンソールスイッチ 5-12
- [検出ウィザード]ウィンドウ 5-12

## こ

- 更新  
IPコンソールスイッチ 2-6  
画面 9-3
- [サーバ]カテゴリー、データ  
ベース 7-17
- コンソールスイッチ  
IPアドレス 7-38  
アクセス 6-1

- [位置] 7-38
- 検出 5-12
- [サイト] 7-38
- [タイプ] 7-37
- 追加
- [部門] 7-38
  - IPアドレスを割り当て
    - た場合 5-9
  - IPアドレスを割り当て
    - ない場合 5-2
- 表示、パラメータ 7-1
- プロパティの変更 7-36
- [コンソールスイッチの管理]
  - [インターフェースアダプタ]カテゴリ 7-11
  - [カスケードスイッチ]カテゴリ 7-23
  - [サーバ]カテゴリ 7-17
  - [設定]タブ 7-1
  - [全体]カテゴリ 7-1
  - [バージョン]カテゴリ 7-25
  - [ユーザ]カテゴリ 7-5

**さ**

- サーバ
  - TFTP、必要 2-1
  - 検索、ローカルデータベース 8-2
  - サーバ：自動検索、リストビュー 8-2
  - 再同期化 7-19
  - 証明書 9-17
  - スキャンモード 9-12
  - 電源
    - [オフラインインターフェースアダプタを含めます] 7-20

- プロパティ
  - アイコン 9-27
  - 位置 9-27
  - サイト 9-27
  - 選択 9-25
  - [タイプ] 9-27
  - 部門 9-27
  - [ブラウズするURL] 9-27
  - 変更 9-25
- [サーバ]カテゴリ 7-17
  - データベース、更新 7-17
- 再起動
  - システム 7-30
- サイト
  - サーバのプロパティ 9-27
  - 削除 10-8
- [再同期化]
  - 再同期化コンソールスイッチウィザード 7-19
- 削除
  - デバイス 10-7
  - サイト、部門、位置、またはフォルダ 10-8
  - ユーザ 7-9
- 作成
  - 新しいサイト、部門、または位置 10-4
  - マクロ 9-21
  - サブネットマスク 5-6、7-3
  - サムネイル
    - サイズ、変更 9-18
    - ビューア 9-12

**し**

- システムの組織化 10-1
- システム要件 1-4
- 自動画質調整 9-6
- 自動検索、リストビューでのサーバ 8-2

[手動画質調整] 9-6  
 [手動スケール]  
   [表示] 9-5  
 使用  
   マクロ 9-18  
 消去  
   ログイン証明書 6-2  
 [状態]タブ 7-27  
 [情報]タブ 9-28  
 シリアルケーブル  
   接続 2-6  
 [シリアル番号]設定 7-1  
 [新規コンソールスイッチ ウィザード] 5-2

## す

スキャン  
   シーケンス 9-17  
   停止と再開 9-17  
   設定 9-14  
   モード 9-12、9-13  
 ステータスバー 4-3  
 ステータス、表示  
   サムネイルビューア 9-12

## せ

制御  
   ユーザステータス 7-28  
 [製品種別] 7-1  
 セキュリティロックアウト  
   時間の指定 7-10  
   設定 7-6  
   無効化 7-10  
 接続  
   LAN 2-16  
   シリアルケーブル 2-6  
 [接続]カラム  
   ビデオセッションビューア、  
   表示 7-18

切断  
 ユーザセッション 7-28  
 設定  
   SNMP、有効化 7-12  
   TFTP、Windows用 2-4  
   カスタムフィールドラベル 10-2  
   サーバ証明書 9-17  
   スイッチハードウェア 2-6  
   スキャン 9-14  
 [設定]タブ 7-1  
 設定ファイル、管理  
   コンソールスイッチ 7-33  
 セットアップ、手順 1-5  
 [全体]カテゴリ 7-1  
 選択  
   サーバのプロパティ 9-25  
 選択ビュー 4-3  
   変更、起動時 10-9

## そ

操作  
   IPコンソールビューア 4-1  
   サムネイルビュー 9-15  
 送信  
   キーストローク、デバイス 9-19

## た

タイトルバー 4-2  
 [タイプ]  
   サーバのプロパティ 9-27  
 タスクウインドウ 4-3

## ち

調整  
   画質 9-6  
   ビデオセッションビューア 9-4  
   マウス 3-1、3-2  
   マウス設定 9-7

## つ

### 追加

- コンソールスイッチ
  - IPアドレスを割り当てた場合 5-9
  - IPアドレスを割り当てない場合 5-2
- サーバ、スキャンシーケンス 9-17
- マクロ、既存グループ 9-24
- ユーザ 7-7
- [ツール]タブ 7-29

## て

### データベース

- 管理、ローカル 10-10
- [データベースの保存]ダイアログ
  - ボックス 10-11
- 手順、セットアップ 1-5
- デバイス
  - 削除 10-8
  - 削除と名前の変更 10-7
  - 割り当て
    - サイト、部門、位置、またはフォルダ 10-6
- デフォルト
  - マクロ グループの変更 9-20
  - ユーザ名とパスワード 6-2
- デフォルト ブラウザ
  - 変更 10-10

## と

- [トラップ]カテゴリ 7-16
- トラブルシューティング 11-1

## な

- 名前の変更
  - デバイス 10-7

## ね

### ネットワーク

- LAN接続 2-16
- サブカテゴリ 7-3
- [ネットワーク アドレス]ウィンドウ 5-5
- [ネットワークの検索中] 5-14
- ネットワーク ポート 2-16

## は

- [バージョン]カテゴリ 7-25
- ハードウェア
  - 更新 2-6
- [ハードウェア]サブカテゴリ 7-25
- ハイパーテーミナル 2-7
- パスワード 7-7
- パスワード プロンプト 6-2

## ひ

- 非アクティブなビデオ セッション 7-4
- ビデオ セッション
  - サブカテゴリ 7-4
  - タイムアウトを指定 7-4
- ビデオ セッション ビューア
  - 拡大と更新 9-3
  - [手動スケール] 9-5
  - 調整 9-4
- 表示
  - [インターフェース アダプタ] 7-11
  - メイン ウィンドウ 4-1

## ふ

- ファームウェア、アップグレード 7-26, 7-30, 7-32

**フォルダ**  
 削除 10-8  
 作成 10-5

**復元**  
 コンソールスイッチ、ユーザ  
 データベース 7-36

**部門**  
 削除 10-8  
 プロパティ 9-27

**ブラウザ要件** 1-4

[ブラウズするURL] 9-27

[フルスクリーンモード]アイコン 9-2

フルスクリーンモードへの拡大 9-3

[プロパティ]ダイアログボックス 10-4

[プロパティ]タブ  
 一般 7-36、9-25  
 情報 7-36、9-25  
 接続 9-25  
 ネットワーク 7-36、9-25

**△**

**変更**  
 [既存のカスケードスイッチ] 5-7、5-11  
 サーバのプロパティ 9-25  
 サムネイルサイズ 9-18  
 選択ビュー 10-9  
 ユーザ 7-7

**○**

**ポート**  
 161 7-12  
 LAN 2-16

**保存**  
 コンソールスイッチ  
 設定の復元 7-33  
 ユーザデータベース 7-35  
 ローカルデータベース 10-11

本文中の記号 xi

**ま**

**マウス**  
 移動倍率の設定 9-9  
 調整  
 Linux 3-2  
 Windows 3-1  
 位置、UnixWare 9-10  
 設定 9-7  
 リセット 9-9

**マクロ**  
 グループ化 9-23  
 グループの変更、デフォルト 9-20  
 作成 9-21  
 使用 9-18  
 追加  
 既存グループ 9-24  
 名前の変更 9-24

**め**

**メイン ウィンドウ**  
 カスタマイズ 10-9  
 機能 4-2  
 表示 4-1  
 メニュー バー 4-2

**ゆ**

**有効化**  
 Linux用TFTP 2-3  
 Windows NT用TFTP 2-1  
 ロックアウト機能 7-9

**ユーザ**  
 削除 7-9  
 ステータス、制御 7-28  
 セッション、切断 7-28  
 追加と変更 7-7

**ユーザアカウント**  
 アンロック 7-9  
 ロック 7-9

[ユーザ アクセス レベル] 7-5  
[ユーザ] カテゴリ 7-5  
ユーザ データベース  
  管理  
    コンソール スイッチ 7-35  
  コンソール スイッチ  
    復元 7-36  
    保存 7-35  
[ユーザの追加]  
  ダイアログ ボックス 7-7  
ユーザ名 6-2、7-5  
ユーザ名とパスワードが作成さ  
  れていらない場合 6-2

## よ

読み込み  
  ローカル データベース 10-13

## り

リスト ビュー 4-3  
  サーバ、自動検索 8-2  
リモート サーバ  
  アクセス 8-1  
  管理 9-1

## ろ

ローカル カーソルの位置を合  
  せる、アイコン 9-3  
ローカル データベース  
  エクスポート 10-12  
  管理 10-10  
  サーバ、検索 8-2  
  保存 10-11  
  読み込み 10-13  
ログイン証明書 6-2  
ロック  
  ユーザ アカウント 7-9

## わ

割り当て  
  カスケード スイッチ 5-7、5-11  
  サイト、部門、位置、または  
    フォルダへのデバイス 10-6  
[割り当て] ダイアログ ボック  
  ス 10-6